施策の体系

つくば市未来構想　つながりを力に未来をつくる

基本理念　つながる　広がる　つくばの生涯学習

教育大綱
多様で豊かな個性が
花開く環境づくり

教育大綱
『善き生の実現能力』と
『社会力』を育てる

基本方針

誰もが自分らしく生きるための
生涯学習の推進

学びの力をいかすことができる
生涯学習の推進

施策の柱・方向性

多様な学びの実現
- 施設の利便性の向上
- 参加機会の拡充
- 生涯学習の相談・情報の提供

地域で学び合う生涯学習
- 地域で学ぶきっかけ作り
- 地域で学びつづける仕組み作り

誰一人取り残さない生涯学習
- 参加への障壁をなくす取組
- 主体的に活動に参加できる取組

「社会力」を持った人材の育成
- 実践できる人材の育成

資料1－2

第3次つくば市生涯学習推進基本計画　評価基準

① 事務事業評価

<table>
<tr><th>項目</th><th>内容</th></tr>
<tr><td>評価者</td><td>各事務事業担当課</td></tr>
<tr><td>【第1段階】実施状況評価及び指標評価</td><td>
【①実施状況評価】
令和7年度事業の成果・達成状況の記載内容を踏まえ、事務事業の総合的な実施状況について、以下の評価を行う。

1　年度当初の計画を上回って事業を実施できた
2　おおむね年度当初の計画通りに事業を実施できた
3　年度当初の計画に遅れが生じた
4　年度当初の計画を全く実施できなかった
―　特別な事情(※)により全く実施できなかった
(※)特別な事情とは新型コロナウイルス感染症や自然災害等を指します。
　　特別な事情下でも工夫して事業が実施できた場合(例:会場開催を動画配信に切り替えた等)は「2　おおむね年度当初の計画通りに事業を実施できた」として扱う。

【②指標評価】
〇指標毎の評点
指標の目標値に対する実績値の割合に応じて、以下の点数を割り当て、複数指標がある場合はそれを平均する。
※複数指標がある事業に「―」がある場合は、その指標を除いて平均する
<table>
<tr><td>100%以上</td><td>10点</td></tr>
<tr><td>70%以上</td><td>7点</td></tr>
<tr><td>50%以上</td><td>5点</td></tr>
<tr><td>50%未満</td><td>3点</td></tr>
<tr><td>0%</td><td>0点</td></tr>
<tr><td>特別な事情による未実施</td><td>ー</td></tr>
</table>
〇指標の達成状況による評価
指標毎の評点の平均した数値(小数点以下を四捨五入)を以下の表に当てはめ、指標評価とする。
<table>
<tr><td>10～8.0点以上</td><td>a ※指標を(概ね)達成している</td></tr>
<tr><td>8.0未満～5.0点以上</td><td>b ※指標を達成できていない</td></tr>
<tr><td>5.0点未満</td><td>c ※指標を大幅に達成できていない</td></tr>
<tr><td>全ての指標が「－」</td><td>ー</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>【第2段階】総合評価</td><td>
【総合評価】
①、②の評価をクロスさせ、以下の評価とする。
<table>
<tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="5">①実施状況評価</th></tr>
<tr><th>1</th><th>2</th><th>3</th><th>4</th><th>ー</th></tr>
<tr><td rowspan="4">②指標評価</td><td>a</td><td>S</td><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td></td></tr>
<tr><td>b</td><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td><td></td></tr>
<tr><td>c</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td><td>E</td><td></td></tr>
<tr><td>ー</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
</table>

②施策の方向性ごとの評価（全体評価）

<table>
<tr><th>項目</th><th>内容</th></tr>
<tr><td>評価者</td><td>生涯学習推進課</td></tr>
<tr><td>施策の方向性ごとの評価</td><td>
○各事務事業の総合評価を、それぞれ以下の表に基づいて点数化し、それを平均した値（小数点以下は四捨五入する）を評点とし、施策の方向性ごとの評価の進捗状況を図る目安とする。
<table>
<tr><th>事務事業総合評価結果</th><th>点数</th></tr>
<tr><td>S</td><td>10点</td></tr>
<tr><td>A</td><td>8点</td></tr>
<tr><td>B</td><td>6点</td></tr>
<tr><td>C</td><td>4点</td></tr>
<tr><td>D</td><td>2点</td></tr>
<tr><td>E</td><td>0点</td></tr>
</table>
※施策の方向性に含まれる事務事業の中に、総合評価が「―」となっている事務事業が含まれる場合は、その事務事業を除いて平均する。

○評点の決定方法の例
<table>
<tr><th></th><th>事務事業総合評価結果</th><th>点数</th><th>計算</th><th>評点</th></tr>
<tr><td>事務事業A</td><td>S</td><td>10</td><td rowspan="3">(10＋4＋2)÷3＝5.33･･･</td><td rowspan="3">5</td></tr>
<tr><td>事務事業B</td><td>C</td><td>4</td></tr>
<tr><td>事務事業C</td><td>D</td><td>2</td></tr>
</table>
</td></tr>
</table>

資料2－1

第３次つくば市生涯学習推進基本計画における取組状況

1．成果指標の達成状況

第3次計画では、計画全般にわたる成果指標及び目標を設定し、各種事業に取り組んできました。目標の達成状況をみると、施策の柱「(1)多様な学びの実現」と「(2)誰一人取り残さない生涯学習」において、実績値が目標値を上回り、達成となっています。

成果指標	目標 （令和6年度）	実績 （令和6年度）	実績 （令和元年度）
(1) 多様な学びの実現			
生涯学習に取り組んでみたい人の割合	80.0%	81.9%	78.1%
(2) 誰一人取り残さない生涯学習			
実際に学習活動に取り組んだ人の割合	60.0%	65.0%	57.9%
(3) 地域で学び合う生涯学習			
地域交流センターの利用者数	520,000 人	417,191 人 【参考】(R7)452,235 人	506,845 人
(4)「社会力」を持った人材の育成			
自分の学習成果で社会に貢献したい人の割合	60.0%	44.1%	49.6%
(5) 計画全体の評価			
市の施策のうち、生涯学習に満足／どちらかといえば満足な人の割合	40.0%	31.3% 【参考】(R7)32.7%	32.8%

出所：(1)、(2)、(4)の実績　生涯学習に関する市民意識調査
(3)の実績　文化芸術課、地域支援課、つくば市民センターの実績報告
(5)の実績　令和6年(2024 年)度つくば市民意識アンケート、令和7年(2025年)度つくば市民意識調査

2．各年度評価からみる計画の取組状況

毎年度、各担当課による個別事業の評価（事務事業評価）と施策の方向性ごとの全体評価を行っています。

（1）事務事業の総合評価（各担当課評価）

事業の実施状況と事業の個別指標の達成状況の2つの観点から評価を行い、その評価を組み合わせて事務事業評価の総合評価を行っています。

各年度における総合評価は次表のとおりです。令和7年度（2025 年度）まで、多くの事業は総合評価 A となっており、S の事業も増えていることから、全庁的に生涯学習の取組を着実に実施できていることがうかがえます。

	S	A	B	C	D	E	―
令和3年度	2	4	23	0	4	0	1
令和4年度	7	15	10	1	1	0	0
令和5年度	8	15	8	2	1	0	0
令和6年度	8	16	6	4	0	0	0
令和7年度	9	17	4	4	0	0	0

（2）全体評価（施策の方向性ごとの評価）

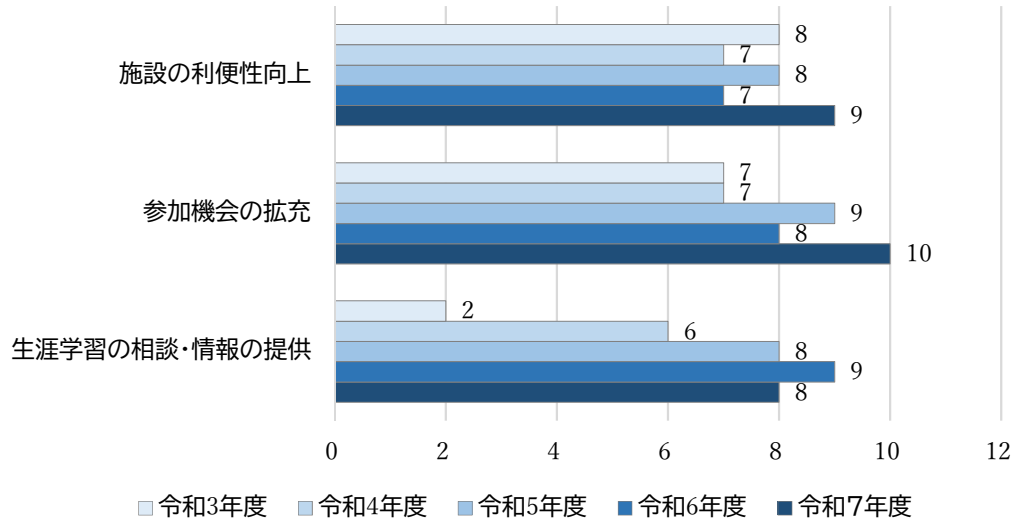
全体評価は事務事業の総合評価を点数化し、施策の方向性ごとに平均をとって評価を行っています。（10 点満点）

全体評価の推移をみると、概ね施策の方向性で評価が安定しており、特に、施策の柱「（1）多様な学びの実現」の「参加機会の拡充」で毎年評価が向上しています。一方、「（4）「社会力」を持った人材の育成」では毎年評価が低下しています。

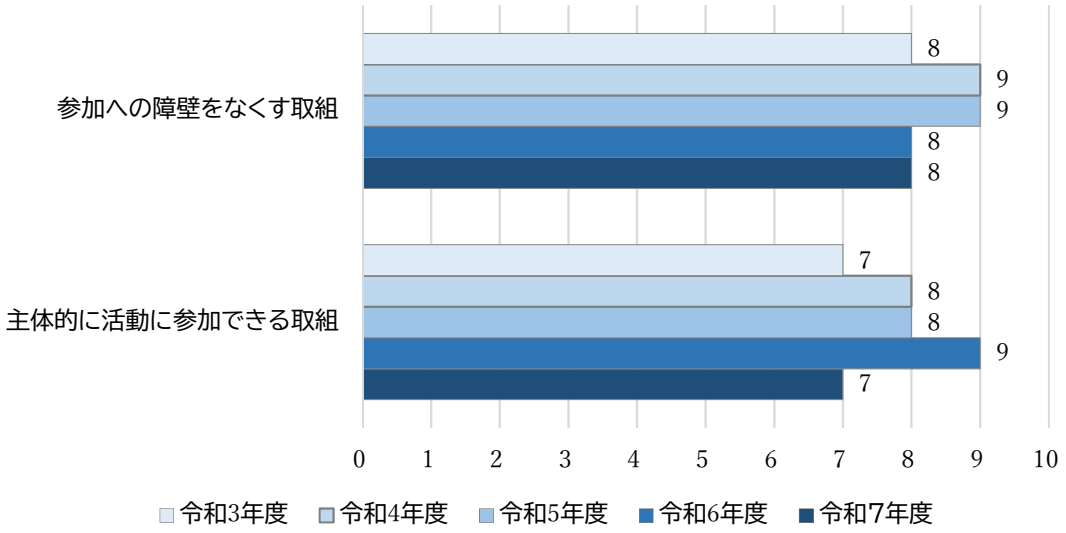
◆全体評価の推移

施策の柱	施策の方向性	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和7年度	平均
多様な学びの実現	施設の利便性向上	８点	７点	８点	７点	９点	7.8 点
	参加機会の拡充	7点	７点	９点	８点	10 点	8.2 点
	生涯学習の相談・情報の提供	２点	６点	８点	９点	８点	6.6 点
誰一人取り残さない生涯学習	参加への障壁をなくす取組	８点	９点	９点	８点	８点	8.4 点
	主体的に活動に参加できる取組	７点	８点	８点	９点	７点	7.8 点
地域で学び合う生涯学習	地域で学ぶきっかけ作り	６点	８点	８点	７点	９点	7.6 点
	地域で学び続ける仕組み作り	７点	７点	６点	８点	７点	7.0 点
「社会力」を持った人材の育成	実践できる人材の育成	８点	８点	７点	６点	５点	6.8 点

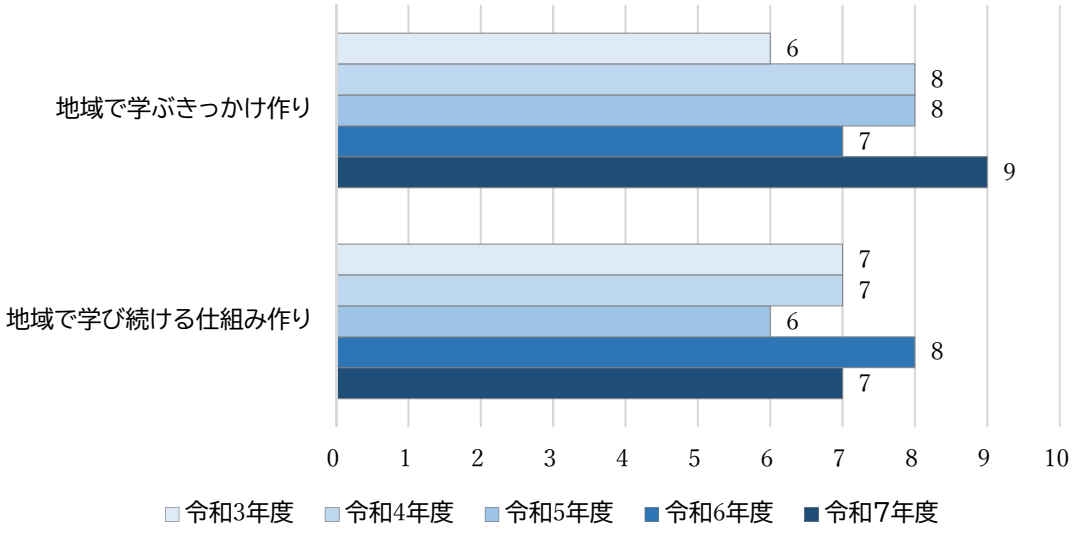
（1）多様な学びの実現



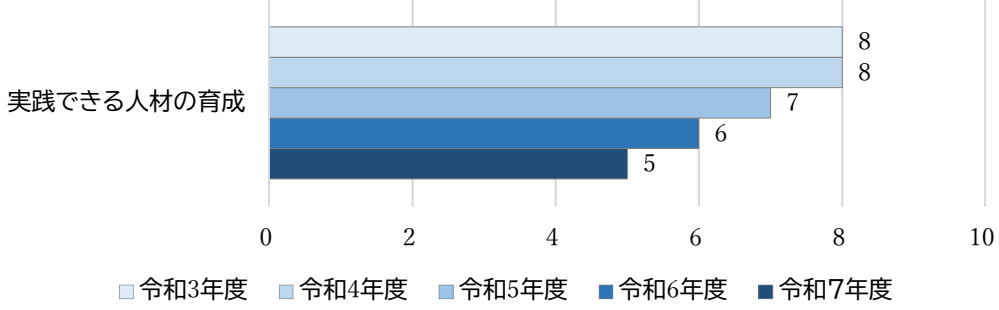
（2）誰一人取り残さない生涯学習



（3） 地域で学び合う生涯学習



（4）「社会力」を持った人材の育成



資料2-2

第3次つくば市生涯学習推進基本計画　施策の方向性ごとのまとめ

施策の柱	施策の方向性	5年間のまとめ
多様な学びの実現	施設の利便性向上	土日の開館時間の延長、図書返却ポイントの増設、全地域交流センターのWi-Fi整備を実施したことで、利用者の利便性が大きく向上した。その結果、返却窓口への返却冊数や地域交流センター及びつくば市民センターの利用者数は増加しており、市民の多様な学習活動を支える拠点の機能強化という当初の目標は、おおむね達成できたと言える。
	参加機会の拡充	民間企業等への出前講座や地域交流センターでの夜間休日の講座数はこの5年間で増加した。地域交流センターでは、平日夜間や休日の講座開催を求める声に対し、講座の企画段階から講師確保に動くことにより開講数の増加につなげられた。ちびっ子博士では、新作動画をR4から毎年10本前後作成しており、現地での見学に加えて、オンラインでも学ぶ機会を創出した。直近3年間の動画の満足度は約90%と小中学生から高い評価を得ている。
	生涯学習の相談・情報の提供	生涯学習に関する相談は微増であったが、広報つくばでの生涯学習に関する特集記事やつくスマ、SNSなどを通して、生涯学習に関する情報を積極的に発信していった。 効果的な発信媒体の選択が今後の課題である。
誰一人取り残さない生涯学習	参加への障壁をなくす取組	指導者登録ではHP上で講師がよりヒットしやすくなるよう情報提供方法を工夫した。広報力向上事業では、職員の情報伝達力、発信力の改善セミナーを毎年複数回開催し、参加者数も増加した。言葉の壁により情報が届きにくい外国人市民向けには、生活に必要な情報をテーマごとにまとめて届けるようにした。また、コロナ禍でも日本語学習を継続して行えるようオンラインの講座を導入し、大人の日本語教室は毎年200人以上が講座に参加した。こども日本語勉強会の登録者数はこの5年で倍増した。両講座ともキャンセル待ちが発生するなど、ニーズは高いが講師不足のため開講できないクラスが発生するなど、講師の養成が大きな課題である。
	主体的に活動に参加できる取組	障害者がスポーツを楽しむ体験講座や、彼らのサポーターを養成する講座を行うことにより、障害者が主体的にスポーツに取り組める環境整備に寄与した。障害者の体験講座の満足度は毎回90%以上と高かった。チャレンジアートフェスティバルは毎年2,000名ほどの参加者数を達成しており、スポーツ、アート両面で障害者が主体的に参加できる取組が定着した。男女共同参画啓発事業では、性別に関わらず全ての人が自身の幸福を追求できるよう行動変容を促進するセミナーを行い、参加者から高い満足度を得た。
地域で学び合う生涯学習	地域で学ぶきっかけ作り	つくば市のさまざまな資源（自然環境、史跡、公共施設、スポーツ教室、住民、姉妹都市・友好都市など）を使い、学習機会を提供することができた。小中学生向け考古学体験教室や中央図書館の体験学習、世界お茶のみ話や親子での国際交流など、つくば市ならではの体験型の学習も充実していた。間口の広い学習機会を提供することで、地域における「学びのきっかけ作り」は非常に豊かに展開され、新規学習者の掘り起こしに大きく寄与したと評価できる。 今後の課題としては、これら豊富な事業を通じて生まれた「学びの関心」を、単発の参加で終わらせず、持続的な学習活動や地域のコミュニティづくりへとどう繋げていくかが挙げられる
	地域で学び続ける仕組み作り	「人」「場所」「資金（支援）」の3つの側面から持続可能な基盤の構築とサポートに努めた。 人の支援として指導者情報提供事業や文化財サポーター事業を通じて専門知識を持つ人材に活躍する場を与えると共に社会還元への意欲を醸成した。家庭教育学級では保護者同士の仲間づくりに寄与し、乳児・幼児家庭教育学級ではリピーターの増加により学び続ける仕組み作りに成功していると言える。 場所の確保のサポートとして、R5から市内小中学校及び義務教育学校の特別教室を開放することにより、市民が継続して学び続ける拠点の提供を開始した。この利用者数は年々増加しており、3年で10倍以上の利用者数（343人から4,307人）となった。学校体育施設も毎年90%以上の稼働率を達成している。 市民活動、文化団体及びシルバークラブ等には補助金を通して、その活動が継続できるよう支援し、自主的な活動の基盤を支えた。
「社会力」を持った人材の育成	実践できる人材の育成	「社会力人材育成事業」においては、R3から「社会力」の育成を図る講座を年に4、5回開催した。講座終了後のアンケート調査では、「社会力」を生かした今後の活動意向の割合が年々減少傾向（89%（R5）、79%（R6）、47%（R7））にあり、受講者の実際の行動や意識変容を促す講座の実施が課題である。 「地区リーダー勉強会事業」においては、当初設定した成果指標を満たせず、単年度評価としてC評価にとどまった年が多かった。この事業では成果指標が「動画視聴回数」に設定されており、実際の地域での活動やリーダーとしての資質向上といった本質的な成果を正しく測定できておらず、成果を正しく評価されていない可能性がある。

令和7年度（2025年度）第3次生涯学習推進基本計画　施策の方向性ごとの評価一覧				
事業番号	頁（資料3-2）	施策の柱 施策の方向性	方向性ごとの達成状況に対する評価 評価者：生涯学習推進課 評価：各事務事業の総合評価（E～S）を点数化し、平均した点数（0～10）を施策の方向性ごとの評価とする。	施策の方向性評価
多様な学びの実現				
1	1	施設の利便性の向上	令和6年度と比較して、施策の方向性評価の評点が2点上がった。図書館の電子書籍所蔵点数や返却窓口への返却冊数の増加、ステーションにおける貸出冊数などから、図書館の利便性が向上していることがわかる。地域交流センター及びつくば市民センターの利用者数も増加した。課題としては、自動車図書館の利用数減、つくば市民センター内の各室の利用の偏りなどが挙げられる。	9
2	1			
3	1	参加機会の拡充	令和6年度と比較して、施策の方向性評価が1点上がった。つくば市出前講座については、民間企業等での実施数が昨年より20講座増加した。「つくばちびっ子博士2025」の視聴動画の満足度は91%を達成し、児童生徒にオンラインでも学習を楽しんでもらえたことが伺える。地域支援課では講座企画段階から、平日夜間や休日に対応可能な講師の確保に注力した結果、講座数が昨年比で14増加し、市民の多様なライフスタイルに対応した学習機会の拡充に寄与した。 講座による実施回数、参加者人数の偏りがみられることが課題である。市民のニーズをアンケート調査などで把握し、それに応じた講座を開催することが必要である。	10
4	1			
5	1			
6	1	生涯学習の相談・情報の提供	令和6年度と比較して、施策の方向性評価が1点下がった。生涯学習の相談件数は目標通りであった。「広報つくば」を活用し、市内の生涯学習関連情報を提供した。情報発信については、効果的な媒体を選定し、回数ではなく周知の効果を重視して実施した。	8
7	1			
誰一人取り残さない生涯学習				
8	2	参加への障壁をなくす取組	令和6年度と比較して、施策の方向性の評点は同一であった。情報発信の回数やセミナー講座参加人数は、おおむね計画どおりに達成した。国際都市推進課では、情報の内容に応じて発信方法を工夫し、さまざまなルートを使って多様な対象者に情報が届くように努めた。広報戦略課の広報セミナーでは、実践的で効果的なセミナーを行っていた。 課題としては、障害者の生涯学習について意見を交換できる場を整えることや、日本語のボランティア講師の増員が挙げられる。	8
9	2			
10	2			
11	2	主体的に活動に参加できる取組	令和6年度と比較して、施策の方向性評価が2点下がったが、事業の参加者数や満足度はほぼ目標を達成している。評点が下がった主な理由は、事業計画の目標値が高すぎて達成できなかったことや、本来対象に含めてもよい事業が含まれていなかったためである。	7
12	2			
13	2			
14	2			

事業番号	頁（資料3-2）	施策の柱 施策の方向性	方向性ごとの達成状況に対する評価 評価者：生涯学習推進課 評価：各事務事業の総合評価（E～S）を点数化し、平均した点数（0～10）を施策の方向性ごとの評価とする。	施策の方向性評価
地域で学び合う生涯学習				
15	3	地域で学ぶきっかけ作り	令和6年度と比較して、施策の方向性の評点は2点上がった。開催講座数や参加人数など、目標値を上回る実績を残せた事業が多かった。目標値に達しなかった事業は、内容や開催時期、周知方法などを見直し、市民の認知度向上に今後取り組むことに言及しており、今後さらに効果的な施策展開が期待される。これにより、より多くの市民が事業に参加し、満足度の向上につながることが見込まれる。	9
16	3			
17	3			
18	3			
19	3			
20	3			
21	3			
22	4	地域で学びつづける仕組み作り	令和6年度と比べて、施策の方向性の評点は1点下がったが、ほとんどの事業で目標を達成できたため、生涯学習を継続して行えるよう十分にサポートできたと言える。評価点が下がった主な理由は2つある。1つは家庭教育学級の参加人数が減ったことであり、もう1つは高齢者の活動に関する指標が目標値に届かなかったことである。家庭教育学級の参加人数の減少は、令和7年度の実績から児童生徒数を除外したためであり、保護者の参加者数は例年とほぼ変わらなかった。高齢者の活動支援については見直しを進めている事業もあり、今後の事業展開で参加者が増加し、活動が活発になることが期待される。	7
23	4			
24	4			
25	4			
26	4			
27	4			
28	4			
29	4			
30	4			
31	4			
「社会力」を持った人材の育成				
32	5	実践できる人材の育成	令和6年度と比較して、施策の方向性の評点は1点下がった。講座や動画視聴などを通じて学んでいる市民は一定数いるが、学んだことを生かし、地域の課題解決に取り組む人材の育成については、まだ十分とは言えない状況にある。実践する人材を育成するための効果的な支援体制の構築や、実践機会の提供などが必要である。	5
33	5			
34	5			

令和７年度（2025年度）事務事業進捗状況一覧表（抜粋）

【基本方針】誰もが自分らしく生きるための生涯学習の推進 【施策の柱】多様な学びの実現

資料3－2

施策の方向性	No.	個別事業内容 事業名	事業概要	担当課	事業費 予算 決算（千円）	計画と実績 事業計画（令和7年度）	事業実績（令和7年度）	評価指標 目標値（令和7年度）	実績値（令和7年度）	実績値（令和6年度）	評価 実施状況	指標	総合
施設の利便性の向上	1	図書館利便性向上事業	・閉館時間延長 ・地域で図書館サービスを受けられる自動車図書館ステーションと返却ができるサービスポイントの増設等	中央図書館	32,643 4,979	・電子図書館サービスの充実。 ・市内60か所で貸出及び返却等のサービスを行う。 ・自動車図書館車1台の更新を検討。 ・ブックポストの増設を検討。	・電子書籍の所蔵点数を増やし、電子図書館サービスの充実を図った。 ・60か所で貸出及び返却等のサービスを提供した。	電子図書館 所蔵5,000点貸出60,000点 自動車図書館 利用14,000人貸出53,000冊 返却窓口への返却250,000冊 予約配送120,000冊	電子図書館 所蔵6,240点貸出46,457点 自動車図書館 利用9,865人貸出31,985冊 返却窓口への返却252,507冊 予約配送119,850冊	年間開館291日（2,740時間） 自動車図書館 11,287人利用 貸出38,457冊 返却窓口への返却216,093冊	2	a	A
	2	市民交流施設利便性向上事業	誰でも気軽に利用できる施設づくり	文化芸術課→（R6年度から）地域支援課（地支）、つくば市民センター（つ市）所管	【地支】 638,328 657,011 【つ市】 269,785 236,470	【地支】地域交流センター（地セ）の維持管理を行う。 【つ市】施設の維持管理を行う。	【地支(地セ)】 ・利用者は、前年度から約8.4％増加した。 ・登録団体は、前年度から約1.7％増加した。 【つ市】 目標値を上回ることができた。	【地支（地セ）】 利用者470,000人 登録800団体 【つ市】 利用者20,000人利用3,000件	【地支（地セ）】 利用者452,235人 登録772団体 【つ市】 利用者数34,482人 利用件数3,215件	【地支（地セ）】 利用者417,191人 登録759団体 【つ市】 利用者32,317人 登録293団体	1	a	S
参加機会の拡充	3	民間企業での生涯学習事業	民間企業等での生涯学習講座の実施促進	生涯学習推進課	0 0	研究機関、民間企業等での講座実施や新規講座の拡充。	・出前講座について、民間企業、研究機関等において42回実施。 ・円滑な調整のための事務手順の改訂。 ・4講座の新規登録があった。	民間企業での講座開催5回	民間企業での講座開催42回	民間企業等での講座開催22回	1	a	S
	4	オンラインによる生涯学習講座事業	ウェブを活用した動画配信等による生涯学習講座の実施	生涯学習推進課	294 195	生涯学習推進に関する講座等の動画内容の充実や満足度の向上。	つくばちびっ子博士2025では、新作動画7本を動画クイズとして活用した。	視聴動画の満足度80％	視聴動画の満足度91.1％	視聴動画の満足度86％	1	a	S
	5	地域交流センター活用事業	夜間・休日における学習機会の提供	文化芸術課→（R6年度から）地域支援課（地支）、つくば市民センター（つ市）所管	【地支】 5,726 3,861 【つ市】 3,748 2,726	夜間や休日に実施する講座を設定した。	【地支】 ・地域交流センター講座において、夜間講座のほか、土日開催の講座などを企画・実施した。 ・各センターに平日夜間や休日に開催可能な講師の確保の周知した。 【つ市】 ・土日開催など各講座の幅広いターゲット層が受講できる講座を企画・実施した。	【地支】 夜間休日の講座数15講座 【つ市】 夜間休日の講座数5講座	【地支】 夜間休日の講座数17講座 【つ市】 夜間休日の講座数8講座	【地支】夜間休日の講座数3講座 【つ市】夜間休日の講座数6講座	1	a	S
生涯学習の相談・情報の提供	6	生涯学習相談事業	オンラインの活用など、地域の実情に応じた生涯学習相談の実施	生涯学習推進課	0 0	つくば市ホームページにおける生涯学習情報発信や、つくば市の広報誌等を活用した周知を実施し、相談につなげる。	研究所から生涯学習活動の実施に関する相談を受け、手段や制度を紹介した。	相談数5回	相談数5回	相談数5回	2	a	A
	7	情報収集・発信事業	広報戦略課と連携し、生涯学習情報を一元的に収集し発信	生涯学習推進課	0 0	・つくば市報、ホームページ等で生涯学習情報の関連性を強めて情報発信を図る。	・日本国際学園大学公開講座についての掲載協力 ・生涯学習推進課の市民向け生涯学習サービスを紹介する特集記事を「広報つくば」に掲載した。	広報紙を活用した新規情報発信1回 ホームページ改修1回 アプリケーション・SNSを活用した発信15回	広報紙を活用した新規情報発信2回 ホームページ改修1回 アプリケーション・SNSを活用した発信10回	広報紙を活用した新規情報発信1回 ホームページ改修1回 アプリケーション・SNSを活用した発信46回	2	a	A

【基本方針】誰もが自分らしく生きるための生涯学習の推進 【施策の柱】誰一人取り残さない生涯学習

施策の方向性	No.	個別事業内容 事業名	事業概要	担当課	事業費 予算 決算 (千円)	計画と実績 事業計画(令和7年度)	事業実績(令和7年度)	評価指標 目標値(令和7年度)	実績値(令和7年度)	実績値(令和6年度)	評価 実施状況	指標	総合
参加への障壁をなくす取組	8	生涯学習ワンストップ対応事業	生涯学習講座の配慮事項を示した指針の作成 生涯学習情報のワンストップ提供	生涯学習推進課	0 0	・生涯学習に関する情報発信についてワンストップ化に努める ・生涯学習講座における配慮事項の指針のあり方を考える。	・指導者登録の分野横断的な登録を行った。 【課題】障害者の生涯学習の取り組みに際した意見交換は事業を進めることができていないため、改善したい。	分野横断的な情報発信2回 HPの改修1回 障害者の生涯学習の取組に際した意見交換1回	分野横断的な情報発信9回 HPの改修1回 障害者の生涯学習の取組に際した意見交換0回	分野横断的な情報発信2回 HPの改修1回 障害者の生涯学習の取組に際した意見交換1回	2	b	B
	9	広報力向上事業	職員向け広報セミナーの実施 広報事業へのアドバイスの実施	広報戦略課	33 33	・職員向け広報力向上セミナーを年2回以上実施。 ・アンケート等での効果測定を行い、次年度以降の効果的なセミナーの開催や内容改善に繋げる。	・職員を対象にセミナー(プレゼン資料講座、スマホカメラ撮影講座、スマホで簡単！動画制作講座2)を実施した。	参加者150人	参加者171人	参加者159人	1	a	S
	10	外国人市民向け情報発信・講座事業	外国語広報誌等の外国人市民向け広報 外国人市民向け(日本語講座)の実施	国際都市推進課(旧国際交流室)	7,133 7,724	・8言語で外国語生活ガイドを発行 ・外国人市民に向けた日本語学習支援	・外国語生活ガイドの配布場所を吟味した。	外国語生活ガイド発行回4回 HPでの多言語情報発信回156回 大人向け日本語講座の受講者300人 こども日本語勉強会の登録者数50人	外国語生活ガイド発行4回 HPでの多言語情報発信145回 大人向け日本語講座の受講者250人 こども日本語勉強会の登録者数53人	外国語広報紙発行4回 HPでの多言語情報発信193回 大人向け日本語講座の受講者203人 こども日本語勉強会の登録者数2人	2	a	A
主体的に活動に参加できる取組	11	障害者の生涯学習関連事業	障害者が自ら生涯学習を楽しめる講座の実施と生涯学習に取り組む障害者への支援体制の構築	生涯学習推進課	86 38	・「障害者の自発性を取り入れる」という観点を持ち、市内の障害者教育機関と協働した障害者のための生涯学習講座を開催する。	「卓球バレー体験講座」を1回実施した。 【課題】新しいプログラムを実施する際のノウハウ不足等	講座参加者数30名 講座参加者の満足度90%	講座参加者数27名 講座参加者の満足度91%	講座参加者数41名 講座参加者の満足度94%	2	a	A
	12	男女共同参画啓発事業	男女共同参画意識の向上を図りながら、能力や行動力を高めるセミナーの開催	ダイバーシティ推進室(旧男女共同参画室)	5,826 4,868	・特定のテーマに焦点を当てたセミナーを実施。 ・アンケートを実施し、参加者の満足度を測定。	・セミナーの満足度 ①ライフプラン・マネープラン:91%、②女性のためのキャリア支援:90%。 ・①受講後の意識変化あり:100% ②就労に「非常に前向き」な層:15%→42% 【課題】同一受講者を対象とした連続講座が満足度や意識変容に与えた影響を検証し、今後のセミナー開催における効果的な手法を検討する。 【特記事項】・LGBTQ+に関するセミナー(市民協働課との共催)は実施回数には含めていない。このセミナーの参加者満足度は100%。これを含めると、令和7年度の開催回数目標値である「年間6回」を達成する。	男女共同参画・ダイバーシティ推進セミナー6回 男女共同参画・ダイバーシティ推進セミナー参加者満足度(アンケート実施)98%	男女共同参画・ダイバーシティ推進セミナー5回 男女共同参画・ダイバーシティ推進セミナー参加者満足度(アンケート実施)91%	男女共同参画・ダイバーシティ推進セミナー8回 男女共同参画・ダイバーシティ推進セミナー参加者満足度(アンケート実施)98%	2	b	B
	13	障害者スポーツ推進事業	障害者スポーツ人材の育成を目指す、スポーツイベントの実施、人材の育成、体制の構築	スポーツ振興課	1,509 1,177	・障害者を対象としたスポーツ施設の体験講座を実施し、地域のスポーツ施設を利用するきっかけを創出する。 ・「障害者スポーツ体験出前教室」を開始。	体験出前教室は、パラスポーツの指導者を15校へ派遣できた。	講座の実施2回 講座の参加者(延べ)20人 出前教室の実施10回 出前教室の受講(延べ)700人	講座の実施4回 講座の参加者(延べ)15人 出前教室の実施15回 出前教室の受講(延べ)867人	講座の開催 6回 講座・教室の参加延べ 30人	2	a	A
	14	生涯学習関連事業(障害のある人や支援者対象)	チャレンジアートフェスティバル、おひさまサンサン生き生きまつり等の開催、奉仕員養成講座の開催	障害者地域支援室	11,108 10,650	・チャレンジアートフェスティバルの作品展及び舞台発表。 ・障害者と高齢者交流による社会参加を目的としておひさまサンサン生き生きまつりを開催。 ・奉仕員を養成することにより聴覚障害者等に対する日常生活の支援を図り、社会参加に寄与。	・チャレンジアートフェスティバルは、舞台発表、作品展示ともに実施。 ・奉仕員養成講座は、各講座の受講人数にばらつきがあるが、受講回数を通してほとんどの受講生が修了。	チャレンジアートフェスティバル2,200人 おひさまサンサン生き生きまつり700人 奉仕員養成講座75人	チャレンジアートフェスティバル2,458人 おひさまサンサン生き生きまつり335人 奉仕員養成講座44人	チャレンジアートフェスティバル1,995人 おひさまサンサン生き生きまつり228人 奉仕員養成講座42人	2	b	**B**

【基本方針】学びの力をいかすことができる生涯学習の推進 【施策の柱】地域で学び合う生涯学習

施策の方向性	No.	個別事業内容 事業名	事業概要	担当課	事業費 予算/決算（千円）	計画と実績 事業計画（令和7年度）	事業実績（令和7年度）	評価指標 目標値（令和7年度）	実績値（令和7年度）	実績値（令和6年度）	評価 実施状況	指標	総合
地域で学ぶきっかけ作り	15	つくば人間学講座	人間学講座の実施	生涯学習推進課推進課	142 374	・市民との協働で組織する実行委員会をとおして、市民に多面的な学びの場を提供する。	・生き方をテーマとした講座（「制度からみる人生の終い方」、「人生に効く脳科学」）を開催。	参加者330人 満足度80%	参加者775人 満足度86.5%	参加者95人 満足度87%	2	a	A
	16	文化財展示講座事業	文化財展示施設等での展示、各種文化財・郷土史に関する講座の開設	文化財課	6,325 6,311	・巡回企画展とその関連事業の体験講座・講演会を実施。 ・市域に伝わる江戸時代の古文書を題材に古文書講座を実施。 ・「ちびっ子博士」に合わせて、小中学生を対象とした出土品等の整理調査体験教室を実施。	・巡回企画展「戦争とつくば」を開催。 ・古文書講座を実施し、市民が古文書や地域の歴史に親しむ機会を提供できた。 ・発掘調査整理体験を行う「考古学体験教室」を実施。（参加者32名）	巡回企画展等参加1,500人 企画展のテーマに沿った講演会や体験講座の開催2日 古文書講座開催8回	巡回企画展等参加1,997人 企画展のテーマに沿った講演会や体験講座の開催2日 古文書講座開催8回	企画展のテーマに沿った講演会や体験講座の開催2日 巡回企画展参加986人	2	a	A
	17	調査・研究支援事業	市内における図書館との連携、小・中・義務教育学校で実施するブックトーク等による読書促進	中央図書館	1,003 596	・つくば市域図書館連携協議会での協議。 ・学校図書館支援や、ファーストブック講座などのイベントの実施。 ・小中学生の読書推進を目的とし、GIGA端末を活用して電子図書館サービスを利用のための、IDとパスワードの配布。	・つくば市域図書館連携協議会において、事業報告及び資料のデジタル化等の意見交換。 ・小中学生へのIDとパスワードの配布。 【課題】図書館が実施している調査・研究支援事業の内容が、学校などの関係機関に十分に認知されておらず、利用の拡大につながっていない。	つくば市域図書館連携協議会の開催2回 学校訪問ブックトーク40校 団体貸出10,000冊 社会科見学等の図書館見学受入10回 職場体験学習受入40人 学校司書等研修50人 ファーストブック講座参加60人 レファレンス受付1,500件	つくば市域図書館連携協議会の開催2回 学校訪問ブックトーク34校 団体貸出8,163冊 社会科見学等の図書館見学受入10回 職場体験学習受入35人 学校司書等研修56人 ファーストブック講座参加31人 レファレンス受付1,629件	つくば市域図書館連携協議会の開催2回 学校訪問ブックトーク38校 団体貸出8,376冊 社会科見学等の図書館見学受入6回 職場体験学習受入37人 学校司書等の研修参加50人 ファーストブック講座参加68人 レファレンス受付1,474件	2	a	A
	18	多文化共生推進事業	外国人市民との交流事業の開催及び民間団体実施事業の周知協力	国際都市推進課	999 968	・国際理解・異文化理解促進を図る国際理解講座等の開催 ・国籍を超えた市民交流を推進するためのイベント等の開催	・国際理解講座については、新規で児童館・児童クラブでも実施。 ・国際理解講座講師のプロフィールやPRを含めた紹介冊子を作成。 ・世界お茶のみ話は、約12か国の文化・習慣等について相互理解・交流促進の機会となった。（参加者360名）	国際理解講座開催40講座 世界お茶のみ話開催12回	国際理解講座開催77講座 世界お茶のみ話開催12回	国際理解講座開催53講座 世界お茶のみ話開催12回 民間団体・事業者等との連携事業1事業	1	a	S
	19	スポーツ室事業	スポーツ教室の充実	スポーツ振興課	642 110	・各種スポーツ教室を開催することで、市民の心身両面における健康づくりの促進。 ・より多くの子どもたちが様々なスポーツに触れることができるよう、これまでの「子どものスポーツ体験教室」を拡充。	・スポーツ協会と連携し、マルチスポーツ教室を開催し、子どもたちが多様なスポーツの楽しさを知るきっかけを創出。 ・「初心者ランニング教室」を終業後の参加を見据え夜間に開催し、運動不足になりがちな働く世代への運動習慣の定着を促進。	開催数16日 参加人数（延べ）500人	開催数16日 参加人数（延べ）348人	教室の開催数6回 教室の参加延べ人数328人	2	a	A
	20	地域交流センター講座等事業	地域交流センターでの学級・講座の充実	文化芸術課→（R6年度から）地域支援課（地支）、つくば市民センター（つ市）所管	【地支】 5,726 3,861 【つ市】 3,748 2,746	・利用者アンケートや講座受講者に対するアンケート結果を踏まえ、市民ニーズに対応した講座を実施。	【地支】 ・地域交流センターを利用している個人や団体等に対し、今後のサービス提供の参考とするためのアンケートを実施。 【つ市】 ・施設使用者からの聞き取りやアンケート調査により、ニーズを把握しながら、新規の講座を企画。	【地支】 年間講座106講座 【つ市】 年間講座20講座	【地支】 年間講座111講座 【つ市】 年間講座20講座	教室の開催6回 教室の参加延べ人数328人	1	a	S
	21	筑波山地域ジオパーク推進事業	筑波山地域ジオパークについての講座・体験学習の実施	ジオパーク室	9,190 6,235	・ジオパークを活用した生涯学習講座の実施。 ・筑波山地域ジオパーク推進協議会教育・学術部会部会員による生涯学習講座（出前講座）の開催。	・筑波山地域ジオパークとして、生涯学習を目的とした講座等の企画（76回）、部会、ジオガイドのスキルアップのための講座、シンポジウムを実施した。	市民向け講座等開催5回 部会開催9回 ジオガイド向け講座等開催5回 学術シンポジウム開催1回	市民向け講座等開催1回 部会開催10回 ジオガイド向け講座等開催9回 学術シンポジウム開催1回	市民向け講座等開催4回 部会開催11回 ジオガイド向け講座等開催8回 学術シンポジウム開催1回	2	a	A

【基本方針】学びの力をいかすことができる生涯学習の推進 【施策の柱】地域で学び合う生涯学習

方向性の施策	No.	個別事業内容 事業名	事業概要	担当課	事業費 予算決算（千円）	計画と実績 事業計画（令和7年度）	事業実績（令和7年度）	評価指標 目標値（令和7年度）	実績値（令和7年度）	実績値（令和6年度）	評価 実施状況	指標	総合
地域で学びつづける仕組みづくり	22	生涯学習相談事業	生涯学習活動の継続支援	生涯学習推進課	0 0	・市民が相談をしやすい環境の創出。 ・ブックポストの増設。	・研究所等から生涯学習活動の実施に関する相談を受け、実現に向けた手段や制度の紹介等実施。 ・特別教室開放は、169回で延べ4,307人利用。	相談5回	相談3回	相談4回 特別教室学校開放3校	2	a	A
	23	家庭教育学級支援事業	家庭教育学級への指導・助言、後援会等の開催	生涯学習推進課	5,256 2,615	・家庭教育学級の運営について、社会教育指導員がサポートを行い、講演会や保護者同士の意見交換会等を開催。	・家庭教育学級を市内幼稚園・小・中・義務教育学校等で実施し、保護者の家庭教育に関する知識の習得のみならず、保護者同士のつながりづくりにも寄与。 ・市内の企業に出向いて家庭教育学級を開催し、働く保護者に学習の機会を提供。【課題】平日開催の家庭教育学級の参加人数の減少。	家庭教育学級4,500名	家庭教育学級2,896名（児童生徒数を除外したため、減少）	家庭教育学級4,569名 家庭教育セミナー65回	2	c	C
	24	生涯学習相談事業指導者情報提供事業	生涯学習情報（OB人材、指導者情報）の整備活用	生涯学習推進課	83 80	・指導者情報の検索性を上げ、指導者を探している方と指導者が直接やり取りができる環境を整備。	・指導者個人のページのレイアウト調整や閲覧者が見やすいような編集。	ホームページ閲覧10,000回 登録講師増加数15名	ホームページ閲覧13,214回 登録講師増加数42名	ホームページ閲覧17,040回 登録講師増加数16名	2	a	A
	25	学校施設開放事業	学校施設開放（体育館・グラウンドなどの）推進	教育施設課	15,420 10,823	・新たに学校体育施設開放管理システムを導入し、手続きをシステム上で完結できるよう改善。 ・システムに連携したスマートロック（キーボックス）を導入することで、学校のセキュリティ面の向上及び利用者の鍵管理負担の軽減を図る。	・オンラインで申請可能なシステム、システムと連携したキーボックスを導入。 ・施設利用に関するルールや手引きの見直し、システム「スポコミねっと」の導入により調整会議を円滑に運営。	小学校施設稼働率90% 中学校施設稼働率95% 義務教育学校施設稼働率100%	小学校施設稼働率90% 中学校施設稼働率95% 義務教育学校施設稼働率100%	小学校施設稼働率90% 中学校施設稼働率95% 義務教育学校施設稼働率100%	2	a	A
	26	文化財サポーター事業	文化財の解説ボランティアの育成	文化財課	237 174	・各施設において、市民ボランティアが文化財課職員とともに、展示施設及び文化財の解説。 ・解説ボランティアのための定例会や研修会、展示物作成補助などの機会の設定。	・解説ボランティアによる学校授業やイベントにおける展示施設の解説、国登録有形文化財の清掃活動などを実施した。	定例会開催4回 研修会開催2回 常陸小田城親衛隊の会解説イベント3回	定例会開催5回 研修会開催5回 常陸小田城親衛隊の会解説イベント3回	文化財ボランティア登録36人 意見交換会開催1回 研修会開催2回	1	a	S
	27	つくば市OB人材支援事業	生涯学習情報（OB人材、指導者情報）の整備活用	企画経営課	29 0	・活動回数の増加を目指し、周知先の拡大を検討。 ・利用希望者に対し適切なマッチングにつながるよう、登録者の現況や活動意向について確認・整理。	・広報つくばでの周知。 ・登録状況の確認を実施。（登録者数は約60名） ・登録者情報をHPで分野ごとに紹介する作業を開始。 さらに、抜本的な運営方法の見直しをするために、令和8年3月から「シニアの活動プラットフォーム検討会議」を開始。	登録者の活動300回 新規登録10人	登録者の活動58回 新規登録4人	登録者の活動112回 新規登録6人	2	c	C
	28	市民活動団体支援事業	アイラブつくばまちづくり補助金事業等、市民活動団体の活動支援、市民センターでの活動相談	市民協働課（旧市民活動課）（市協）、つくば市民センター（つ市）	【市協】 9,575 5,150 【つ市】 3,748 2,726	【市協】 ・アイラブつくばまちづくり寄附基金を活用し、個性豊かで活力あるまちづくりの実現を目指すため、市民全体の公益的な活動を支援する。 【つ市】 ・市民活動団体等の取組を応援し、相談を受けるとともに、市民団体の新たな活動を支援する。	【市協】 ・アイラブつくばまちづくり寄附基金を有効活用し、市民活動団体が企画した公益的な事業に補助金を交付し、担当部署と協働で事業を実施。 【つ市】 ・市民協働課、社会福祉協議会と連携して市民活動団体支援のための様々な業務への取り組み。	【市協】 アイラブつくばまちづくり補助金採択事業35件 【つ市】 市民センター相談80件 取材団体件数35件 交流事業の実施2回	【市協】 アイラブつくばまちづくり補助金採択事業26件 【つ市】 市民センター相談78件 取材団体件数38件 交流事業の実施2回	アイラブつくばまちづくり補助金採択事業29件 市民センター相談69件	2	a	A
	29	文化団体等育成支援事業	文化協会の支援	文化芸術課	1,500 1,500	・つくば市文化協会に対する事業費補助として補助金を交付し、主体的な活動を促進するよう支援。	・つくば市内の施設を利用し、予定数以上の事業を実施し、文化芸術活動を推進。 ・新たな取り組みとして、市内福祉施設での慰問公演を5回行った。	主催事業の実施18事業	主催事業の実施26事業	主催事業の実施18事業	1	a	S
	30	（公財）つくば文化振興財団支援事業	文化振興財団の支援	文化芸術課	55,000 55,000	・（公財）つくば文化振興財団への指導・助言のほか、財政的支援として行政補完型運営補助金の交付。 ・同財団との共同主催により市内の文化施設等で音楽・演劇・芸能・美術等の幅広いジャンルの文化芸術振興事業を実施。	・公演事業、美術館での展覧会、小中学生を対象としたアウトリーチ、文化芸術支援など、計画された事業をすべて実施。 ・新人アーティストの実地研修の受け入れ、中高生対象の吹奏楽指導など、未来のアーティストへの支援を積極的に行う。	文化芸術公園事業入場率80%	文化芸術公園事業入場率67%	文化芸術公演事業入場率81%	1	b	A
	31	高齢者生きがい活動支援事業	高齢者の社会活動支援	高齢福祉課	43,949 42,755	・シルバークラブ連合会の支援を社会福祉協議会に委託。 ・公益社団法人つくば市シルバー人材センターの円滑な運営を支援。	・シルバークラブ連合会に補助金を交付 ・シルバー人材センターの円滑な運営を支援（新規入会者77名 退会者88名）	シルバークラブ会員5,700人 単位シルバークラブ125団体 契約3,400件 参加者数550人	シルバークラブ会員5,423人 単位シルバークラブ119団体 契約2,415件 参加者数474人	シルバークラブ会員5,607人 単位シルバークラブ123団体 契約2,347件 参加者511人	2	b	B

【基本方針】学びの力をいかすことができる生涯学習の推進 【施策の柱】「社会力」をもった人材の育成

施策の方向性	No.	個別事業内容 事業名	事業概要	担当課	事業費 予算 決算 (千円)	計画と実績 事業計画(令和7年度)	事業実績(令和7年度)	評価指標 目標値(令和7年度)	実績値(令和7年度)	実績値(令和6年度)	評価 実施状況	指標	総合
実践できる人材の育成	32	「社会力」人材育成事業	「社会力」を持った人材を育成するために、連続講座など「社会力」を育成する講座を実施	生涯学習推進課	649 649	・社会力講座【ステージアップ版】として、既に何らかの活動に取組んでいる人や自身の講座で集客スキルを獲得したい人に向けた講座を年間で5回実施。	・社会力をいかして活躍する「社会力コーディネーター」を講師とし、チラシ作りや講座作りなどを通して、参加者が実践して学べるような講座を実施。	講座参加(1回あたり平均)25名 「社会力」を活かした今後の活動意向90%	講座参加(1回あたり平均)27名 「社会力」を活かした今後の活動意向47%	体験自習参加6名 「社会力」を活かした今後の活動意向79%	2	a	A
	33	地区リーダー勉強会事業	地区リーダー勉強会の開催	市民協働課	715 220	・区会における近年の課題(区長の担い手不足など)をテーマにした勉強会(講演会等)を開催	・住民の孤独死ゼロを目指して市民・地域が協力して取り組む大山自治会の取組内容を市公式YouTubeチャンネルにて配信	人材づくりイベントの参加者600視聴者	人材づくりイベントの参加者187視聴者	人材づくりイベントの参加者390視聴	2	c	C
	34	地域まちづくり支援事業	まちづくりに関する講座の実施・専門家の派遣	都市計画課	295 30	・都市計画の制度やつくば市の現状を紹介し、現地見学会を行う講座を開催 ・地域まちづくりグループや地域まちづくり推進団体等が活動を行う上で、組織の運営に関すること、まちの課題や将来像に関すること等について指導や助言等を求めてきた際に、地域まちづくり専門家の派遣を行う。	・つくば市のまちづくりについて学ぶ都市計画の講座を実施し、多くの方々に学びの機会を提供 ・市の登録団体からの申請(全1件)に対し適切に専門家を派遣	都市計画講座1回 まちづくり見学会1回 専門家の派遣6回	都市計画講座1回 まちづくり見学会0回 専門家の派遣1回	都市計画講座1回 まちづくり見学会1回 専門家の派遣5回	2	c	C

令和8年度第4次つくば市生涯学習推進基本計画進行管理票

資料4－1
R8.8.26差替版

審議会で評価する箇所
事務局で記入する箇所

令和8年度

基本目標1 ①	基本目標1の内容		基本目標1の総合評価
基本目標1 誰一人取り残さない 学びの充実	誰もが学びに出会い、自分らしく学び続けられるよう、参加しやすさの確保と多様な学びの提供を進めます。	事務局	②～③を総合的に判断し、最後に総括的に評価。

施策の方向性 ②	施策の方向性・事業の評価				施策評価
施策の方向性1 多様な学びの充実	事務事業の評価(平均)	市民ニーズ	進捗状況	施策の方向性の評価	
誰一人取り残さない学びの実現に向けて、これまで生涯学習に十分取り組むことが出来なかった市民(障害者や外国人、学びを始めるきっかけがなかった市民など)に対して、多様な学びの機会の充実を図ります。そのため、民間や教育機関など多様な主体との協働により、生涯学習活動(講座・セミナー・自主活動など)に係る支援を推進するとともに、学びに触れる機会を充実させることで、誰もが参加しやすい学習環境の整備に努めます。	・施策の総合的な評価を記入 ・前年度の実施状況から施策レベルで勘案				
施策の方向性2 参加機会の拡充	事務事業の評価(平均)	市民ニーズ	進捗状況	施策の方向性の評価	
市民がいつでも気軽に学ぶことができるよう、生涯学習活動への参加機会の拡充を図ります。そのため、ライフステージ＊10や世代(子ども・若者世代や子育て世代、働く世代、リタイア直前の世代、高齢世代)などによる多様なニーズを把握し、内容、曜日や時間帯、開催場所や開催方法(オンライン開催等)などについて、様々な観点から検討します。また、民間等との連携を図り、柔軟かつ効果的に事業を見直し・提供を行います。さらに、講座開催時の託児サービスや手話通訳の提供など参加促進のための支援にも努めます。	・施策の総合的な評価を記入 ・前年度の実施状況から施策レベルで勘案				
施策の方向性3 主体的な学びの促進	事務事業の評価(平均)	市民ニーズ	進捗状況	施策の方向性の評価	
一人ひとりが自分らしく主体的に学び、自らの力を高めていけるよう、学習段階や関心に応じた学習機会を支援します。そのため、個人の楽しみや生きがいづくりに加えて、生活の質の向上や自己実現につながる学びを推進します。さらに、高度な学習ニーズやキャリア形成に対応するための高等教育機関・研究機関・企業と連携したリカレント教育やリスキリングなど、市民の主体的な学びを支える新たな取組を目指します。	・施策の総合的な評価を記入 ・前年度の実施状況から施策レベルで勘案				

主な関連する事業の進捗評価 ③	担当課	事業名(取組名)	市民ニーズ	進捗状況
施策の方向性1 多様な学びの充実	生涯学習推進課	障害者の生涯学習関連事業	MSから転記	MSから転記
	スポーツ振興課	スポーツ教室等の開催		
	障害者地域支援室	チャレンジアートフェスティバル事業		
	障害者地域支援室	おひさまサンサンフェスティバル事業 (おひさまサンサン生き生きまつり)		
	高齢福祉課	おひさまサンサン生き生きまつり事業		
	障害者地域支援室	奉仕員等養成研修事業		
	働く婦人の家	働く婦人の家自主企画事業		
	ダイバーシティ推進室	男女共同参画推進事業(男女共同参画セミナー)		
	ダイバーシティ推進室	ダイバーシティ推進事業(性的マイノリティに関するセミナー)		
施策の方向性2 参加機会の拡充	地域交流推進課	地域交流センター活用事業		
	つくば市民センター	つくば市民センター活用事業		
	働く婦人の家	働く婦人の家自主企画事業		
	生涯学習推進課	社会教育振興事業		
	生涯学習推進課	つくば人間学講座		
	生涯学習推進課	家庭教育学級支援事業		
施策の方向性3 主体的な学びの促進	地域交流推進課	地域交流センター講座等事業		
	つくば市民センター	つくば市民センター活用事業		
	スポーツ振興課	スポーツ教室等の開催		
	生涯学習推進課	出前講座事業		
	中央図書館	読書推進事業		

事務局の評価	事務局評価
・事務局の評価をまとめる	

生涯学習審議会の評価	総合評価
・審議会委員からの意見、評価をまとめる	

令和8年度第4次つくば市生涯学習推進基本計画進行管理票

審議会で評価する箇所	
事務局で記入する箇所	令和8年度

基本目標2 ①	基本目標2の内容		基本目標2の総合評価
基本目標2 学びを支える環境の充実	一人ひとりに合った学びにアクセスでき、あらゆる世代の多様な人々が集い学べる環境を整えます。	事務局	②～③を総合的に判断し、最後に総括的に評価。

施策の方向性 ②	施策の方向性・事業の評価				施策評価
施策の方向性1 学びの情報提供・相談体制の充実	事務事業の評価(平均)	市民ニーズ	進捗状況	施策の方向性の評価	
市民が、自身の関心・ライフステージなどに応じた事業や地域団体の活動情報にアクセスしやすい環境づくりを進めます。そのため、情報の収集・整理を行うとともに、関係各課や団体と連携し、市広報紙やSNSなど多様な媒体を活用した効果的な情報発信を行います。また、大学や企業等と連携し、市民が一元的に情報を得られる仕組みづくりを進めます。 さらに、新たに学び始めたい、活動をしたいと考える市民の参加促進・支援のため、関係各課や各施設と連携し、相談体制の充実を図ります。	・施策の総合的な評価を記入 ・前年度の実施状況から施策レベルで勘案				
施策の方向性2 市民が集う学びの場の充実	事務事業の評価(平均)	市民ニーズ	進捗状況	施策の方向性の評価	
世代や地域、障害の有無、国籍などを超えて多様な人々が集い、交流し、学び合える場づくりを支援します。 そのため、図書館や市民交流施設、スポーツ施設、学校の体育施設や特別教室の適切な整備と管理に努め、利便性の向上を図るとともに、今後検討する若者の居場所などを活用した事業を推進します。また、活動団体や企業等との連携により、身近な地域で集い、学び合える場の充実を目指します。 さらに、つくば科学フェスティバルや図書館による屋外イベントなど、市民が集い、学びを楽しむことができる機会を提供し、生涯にわたり学び続けられる場の充実を図ります。	・施策の総合的な評価を記入 ・前年度の実施状況から施策レベルで勘案				

主な関連する事業の進捗評価 ③	担当課	事業名(取組名)	市民ニーズ	進捗状況
施策の方向性1 学びの情報提供・相談体制の充実	国際都市推進課	外国人生活支援事業(外国人市民向け情報発信)	MSから転記	MSから転記
	広報戦略課	広報力向上事業		
	つくば市民センター	市民活動支援事業		
	市民協働課	市民チャレンジへの支援(市民活動相談窓口)		
	生涯学習推進課	生涯学習指導者情報提供事業		
施策の方向性2 市民が集う学びの場の充実	中央図書館	図書館資料の貸出事務		
	中央図書館	地域図書館サービス事業		
	地域交流推進課	市民交流施設利便性向上事業		
	つくば市民センター	市民交流施設利便性向上事業		
	つくば市民センター	市民活動支援事業		
	教育施設課	学校施設開放事業		
	生涯学習推進課	特別教室市民利用事業		
	生涯学習推進課	つくば科学フェスティバル		
	生涯学習推進課	ユースセンター事業		
	生涯学習推進課	つくばちびっ子博士事業		
	障害者地域支援室	チャレンジアートフェスティバル事業		
	障害者地域支援室	おひさまサンサンフェスティバル事業 (おひさまサンサン生き生きまつり)		
	高齢福祉課	おひさまサンサン生き生きまつり事業		

事務局の評価	事務局評価
・事務局の評価をまとめる	

生涯学習審議会の評価	総合評価
・審議会委員からの意見、評価をまとめる	

令和8年度第4次つくば市生涯学習推進基本計画進行管理票

審議会で評価する箇所	
事務局で記入する箇所	令和8年度

基本目標3 ①	基本目標3の内容		基本目標3の総合評価
基本目標3 気づきとつながりを育む意識づくりの推進	「社会力」への気づきを促し、ファーストステップを踏み出す市民の意識醸成を図ります。	事務局	②～③を総合的に判断し、最後に総括的に評価。

施策の方向性 ②	施策の方向性・事業の評価				施策評価
施策の方向性1 「社会力」への気づきを促す取組の充実	事務事業の評価（平均）	市民ニーズ	進捗状況	施策の方向性の評価	
市民が学びの成果をいかして、地域社会に貢献する環境づくりの第一歩として、他者を積極的に理解し良好な関係性を築き、より良い社会をつくろうとする力である「社会力」について、一層の理解促進と啓発を図ります。そのため、市広報紙やSNSなどを通じて周知を行い、市民が気づきを得て理解を深められるよう推進します。 また、「社会力」人材育成事業などの各種講座や青少年の体験学習などの機会を提供し、自ら地域や社会に関心を持ち、主体的に関わろうとする意識の向上を図ります。	・施策の総合的な評価を記入 ・前年度の実施状況から施策レベルで勘案				
施策の方向性2 地域や地域のつながりを知るための取組の充実	事務事業の評価（平均）	市民ニーズ	進捗状況	施策の方向性の評価	
地域や社会に主体的に関わり、学びの成果をいかすきっかけづくりとして、市民がつくば市や身近な地域への理解を深める機会の充実を図ります。そのため、多様な事業を通して、つくば市や地域の歴史・文化、自然環境、地域活動やボランティア活動、また多様な価値観などを知る機会と場を提供するとともに、地域と関わる機会の充実を図ります。あわせて、これらの取組を通じ、つくば市や地域に対する愛着や誇りを育みます。	・施策の総合的な評価を記入 ・前年度の実施状況から施策レベルで勘案				

主な関連する事業の進捗評価 ③	担当課	事業名（取組名）	市民ニーズ	進捗状況
施策の方向性1 「社会力」への気づきを促す取組の充実	生涯学習推進課	青少年体験学習事業	MSから転記	MSから転記
	生涯学習推進課	社会力講座事業		
	市民協働課	非核平和都市宣言事業（平和体験教室）		
	生涯学習推進課	出前講座事業		
	文化財課	文化財展示講座等事業		
施策の方向性2 地域や地域のつながりを知るための取組の充実	国際都市推進課	多文化共生推進事業		
	ジオパーク室	筑波山地域ジオパーク推進事業		
	生物多様性推進室	自然環境教育事業		
	生涯学習推進課	出前講座事業		
	生涯学習推進課	つくば科学出前レクチャー事業		
	生涯学習推進課	つくばちびっ子博士事業		
	生涯学習推進課	つくば科学フェスティバル		
	生涯学習推進課	青少年体験学習事業		
	科学技術戦略課	つくばSTEAMコンパス		
	環境政策課	ゼロカーボン推進のための活動		

事務局の評価	事務局評価
・事務局の評価をまとめる	

生涯学習審議会の評価	総合評価
・審議会委員からの意見、評価をまとめる	

令和8年度第4次つくば市生涯学習推進基本計画進行管理票

審議会で評価する箇所
事務局で記入する箇所

令和8年度

基本目標4　①	基本目標4の内容		基本目標4の総合評価
基本目標4 学びの成果をいかした活動の支援と人材育成の推進	学びと実践をつなぐ仕組みを整え、活動する市民・団体の支援と人材育成に努めます。	事務局	②～③を総合的に判断し、最後に総括的に評価。

施策の方向性　②	施策の方向性・事業の評価				施策評価
施策の方向性1学びの成果をいかした活動の支援・促進	事務事業の評価（平均）	市民ニーズ	進捗状況	施策の方向性の評価	
地域の中で活躍する市民・団体の世代交代や活動の活性化を図り、楽しみながら持続的に学べるよう、適切な支援に努めます。 また、市民が学んだ成果をいかして、主体的に新たな活動に取り組んでいけるよう、文化団体やサークルなどの育成に努めます。 さらに、児童生徒や青少年、高齢者の活動支援を担う団体、ボランティア団体など地域貢献に取り組む団体への積極的な支援により、多様な団体が活躍できる体制の充実を図ります。	・施策の総合的な評価を記入 ・前年度の実施状況から施策レベルで勘案				
施策の方向性2 「社会力」を発揮できる多様な人材の育成	事務事業の評価（平均）	市民ニーズ	進捗状況	施策の方向性の評価	
「社会力」の気づきによって、自ら学んだことを地域に還元したい、仲間と共に学びを通して地域に貢献したい、地域課題の解決につながる活動を始めたいなど、一人ひとりの市民の想いが実現できるよう、様々な機会と場を通して「社会力」を発揮できる人材を育成します。あわせて、ボランティアなど、地域づくりに貢献する人材の養成にも取り組みます。 また、次の世代の活動を担う若者が自身の将来の姿を具体的に描きながら活動に関われるよう、ロールモデル（活動のお手本となる市民）から学べる機会を増やします。特に次世代の活動をけん引するリーダーとなる人材の育成を積極的に推進します。	・施策の総合的な評価を記入 ・前年度の実施状況から施策レベルで勘案				

主な関連する事業の進捗評価　③	担当課	事業名（取組名）	市民ニーズ	進捗状況
施策の方向性1　学びの成果をいかした活動の支援・促進	高齢福祉課	高齢者生きがい支援に関する事業	MSから転記	MSから転記
	市民協働課	アイラブつくばまちづくり補助金事務		
	市民協働課	市民チャレンジへの支援（団体との協働事業実施数）		
	つくば市民センター	市民活動支援事業		
	生涯学習推進課	青少年育成団体支援事業		
	生涯学習推進課	青少年健全育成事業		
	国際都市推進課	多文化共生推進事業		
	国際都市推進課	外国人生活支援事業 （旧：国際交流員・留学生交流員事業）		
	芸術文化推進課	文化団体等育成支援事業		
	芸術文化推進課	（公財）つくば文化振興財団支援事業		
施策の方向性2 「社会力」を発揮できる多様な人材の育成	生涯学習推進課	生涯学習指導者情報提供事業		
	生涯学習推進課	社会力講座事業		
	生涯学習推進課	青少年体験学習事業		
	文化財課	文化財サポーター事業		
	市民協働課	地区リーダー勉強会事業		

事務局の評価	事務局評価
・事務局の評価をまとめる	

生涯学習審議会の評価	総合評価
・審議会委員からの意見、評価をまとめる	

令和8年度第4次つくば市生涯学習推進基本計画進行管理票

審議会で評価する箇所	
事務局で記入する箇所	令和8年度

基本目標5 ①	基本目標5の内容		基本目標5の総合評価
基本目標5 持続可能な学びとつながりの好循環の創出	学びの拠点とネットワークを活用し、市民の学びとつながりが発展・循環する仕組みづくりを進めます。	事務局	②～③を総合的に判断し、最後に総括的に評価。

施策の方向性 ②	施策の方向性・事業の評価				施策評価
施策の方向性1 共に育てる学びのネットワークづくり	事務事業の評価(平均)	市民ニーズ	進捗状況	施策の方向性の評価	
市内の各施設が、それぞれの立地や特性をいかしながら、地域の「学びの拠点」となるように、人と人がつながり地域で活動できるよう機会づくりを積極的に支援します。あわせて、「地域づくり」、「人づくり」を目指し、地域と学校が連携・協働して運営するコミュニティ・スクールも地域における「学びの拠点」ととらえ、拠点間の連携、情報の連携、人的交流を促進し、学びのネットワークを構築します。	・施策の総合的な評価を記入 ・前年度の実施状況から施策レベルで勘案				
施策の方向性2 地域で学び続ける仕組みづくり	事務事業の評価(平均)	市民ニーズ	進捗状況	施策の方向性の評価	
地域においては、市民が学びを通してつながる機会の充実を図るため、各施設やコミュニティ・スクールを中心に、学校・大学・研究機関・企業・各分野の団体・ボランティアなどとの連携と適切な機能分担を促進します。 特に市内の研究機関・企業との連携においては、本市の特性をいかした科学教育などの体験学習を通して学び続ける仕組みの充実につなげます。 そして、こうした多様な連携を継続的に発展させることで、市民の学びの広がりや多様な人との新たなつながりが世代等を超えて展開していくことを目指して、地域で学び続ける仕組みづくりを進めます。	・施策の総合的な評価を記入 ・前年度の実施状況から施策レベルで勘案				

主な関連する事業の進捗評価 ③	担当課	事業名(取組名)	市民ニーズ	進捗状況
施策の方向性1 共に育てる学びのネットワークづくり	都市計画課	地域まちづくり支援事業	MSから転記	MSから転記
	地域交流推進課	地域交流センター講座等事業		
	つくば市民センター	つくば市民センター講座等事業		
	生涯学習推進課	つくば未来塾事業		
	生涯学習推進課	コミュニティ・スクール運営事業		
	企画経営課	SDGs普及推進事業		
施策の方向性2 地域で学び続ける仕組みづくり	周辺市街地振興課	地域振興推進事業		
	生涯学習推進課	つくば科学出前レクチャー事業		
	生涯学習推進課	つくばちびっ子博士事業		
	科学技術戦略課	つくばSTEAMコンパス		
	生涯学習推進課	コミュニティ・スクール運営事業		
	生涯学習推進課	つくば科学フェスティバル		

事務局の評価	事務局評価
・事務局の評価をまとめる	

生涯学習審議会の評価	総合評価
・審議会委員からの意見、評価をまとめる	

世界のあしたが見えるまち。
TSUKUBA



第４次 つくば市 生涯学習推進 基本計画

令和８年(2026 年)３月

〔対象期間〕

令和 8 年度（2026 年度）から
令和 12 年度（2030 年度）まで

これからの
やさしさの
ものさし
つくばSDGs

はじめに



「学ぶ」ことは、人生を彩る大きな喜びであり、未来を拓く鍵です。

つくば市では平成５年の生涯学習推進大綱策定以来、時代の変化に合わせて生涯学習の土壌を耕してきましたが、いま社会はかつてないスピードで変化しています。デジタル化による利便性の向上の一方で、リアルなつながりの希薄化や、多様化するライフスタイルの中で「本当の豊かさとは何か」が問われています。

だからこそ、第４次となる本計画では、単なる知識の習得を超えた「ウェルビーイング（持続的な幸福)」をその中心に据えました。

人生 100 年時代。学びは学校で終わるものではなく、一生を通じて自分をアップデートし、誰かとつながり、心を満たすための営みです。つくば市の未来構想の理念である「つながりを力に」や、教育大綱が目指す「一人ひとりの幸せ」も、この学びの循環なくしては実現しません。

「学びを楽しみ　学びがめぐり　学びでつながる　幸せのまちつくば」

これが、新しい計画の基本理念です。自分が楽しんで学んだことが、誰かの役に立ち、それがまちの活力として還ってくる。そんな「幸せな循環」が生まれる社会を目指し、誰もが自由に学べる環境づくりと、人と地域をつなぐ人材の育成に全力を注ぎます。

最後になりますが、この新しい道しるべを描くにあたり、熱意ある議論を重ねてくださった審議会の皆様、そして貴重な声を寄せてくださった市民の皆様に、心より感謝申し上げます。

学びでつながる新しいつくばを、ともに創っていきましょう。

令和８年（2026 年）３月

つくば市長

目　次

第１章　計画策定の趣旨

1-1　計画策定の目的 …… 2
1-2　計画の位置づけ …… 4
1-3　計画の期間 …… 4
1-4　計画策定に係る基本的な考え方 …… 5

第２章　生涯学習推進をめぐる現況と課題

2-1　生涯学習を取り巻く社会潮流 …… 8
2-2　課題の整理 …… 11

第３章　計画の基本的な考え方

3-1　基本理念 …… 16
3-2　基本方針 …… 17
3-3　基本目標 …… 18
3-4　計画の体系 …… 21

第４章　施策の展開

基本目標１　誰一人取り残さない学びの充実 …… 24
基本目標２　学びを支える環境の充実 …… 26
基本目標３　気づきとつながりを育む意識づくりの推進 …… 28
基本目標４　学びの成果をいかした活動の支援と人材育成の推進 …… 30
基本目標５　持続可能な学びとつながりの好循環の創出 …… 32
つくばの学びの未来像 …… 34
５人の「未来の物語」 …… 36

第５章　計画の推進

5-1　計画の進行管理と推進体制 …… 44
5-2　成果指標と目標の設定 …… 45

資料編

１　計画策定に関連するデータ …… 48
資料 1-1　つくば市の人口等の状況 …… 48
資料 1-2　つくば市の主な生涯学習関連施設の状況 …… 51
資料 1-3　市民意向の動向 …… 65
資料 1-4　第３次計画における取組状況 …… 70

２　策定経過及び策定組織に関する資料 …… 74
資料 2-1　計画策定の経過 …… 74
資料 2-2　つくば市生涯学習審議会条例 …… 76
資料 2-3　つくば市生涯学習審議会委員名簿 …… 78

第１章

計画策定の趣旨

1-1　計画策定の目的

「人生 100 年時代*1」、「超スマート社会（Society5.0）*2」に向けた社会の大きな転換期の中で、生涯学習の重要性はより一層高まっています。

国においては、生涯学習環境の整備や多様な学習機会の提供、学習の成果が適切に評価され、それをいかして活動できる仕組みづくりなど、生涯学習社会の実現に向けた取組が進められています。

また、第 12 期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理（令和６年（2024 年））では「ウェルビーイング*3 の実現のために、リスキリング*4 を含めたリカレント教育*5 や生涯学習を一層身近なものとして、主体的に学びをデザインし、いつでも学習にアクセスできる環境を整えることで、誰もが生涯を通じて意欲的に楽しく学び続けることができる社会」を生涯学習の目指すべき姿としており、この方向性は、つくば市の生涯学習においても、留意すべき視点であり、今後の取組に反映させていくことが期待されています。

本市では、「つながる　広がる　つくばの生涯学習」を基本理念に掲げ、「誰もが自分らしく生きるための生涯学習の推進」と「学びの力をいかすことができる生涯学習の推進」を基本方針とする「第３次つくば市生涯学習推進基本計画」（令和３年度（2021 年度）～令和７年度（2025 年度））（以下、「第３次計画」。）を策定し、生涯学習に関する施策を推進してきました。

この度、第３次計画が最終年度を迎えることから、これまでの取組を検証するとともに、市民ニーズや昨今の社会情勢の変化に対応した新たな「第４次つくば市生涯学習推進基本計画」（以下、「第４次計画」。）を策定することとしました。

＊1 人生 100 年時代：平均寿命や健康寿命の延伸により、人々が 100 年近く生きることを前提とした社会のこと

＊2 超スマート社会（Society5.0）：政府が提唱する未来社会像で、サイバー空間と現実空間を高度に融合させ、AI や IoT などを活用して経済発展と社会的課題の解決を両立する「人間中心の社会」のこと

＊3 ウェルビーイング：身体的・精神的・社会的に満たされた状態で、短期的な幸福だけでなく、生きがいや人生の意義など持続的な幸せも含む概念のこと

＊4 リスキリング：新しい職業に就くために、または今の職業で時代の変化によって生まれる新たな業務に必要なスキルを取得すること

＊5 リカレント教育：学校教育から離れたあとも、それぞれのタイミングで学び直し、仕事で求められる能力や、社会の変化に対応して必要となるスキル・教養などを身につけること

◆生涯学習とは

●生涯学習とは、一般的には人々が生涯にわたって行うあらゆる学習のことを指し、その成果が適切に評価される社会が「生涯学習社会」です。（平成 30 年度文部科学白書等に基づき整理）

●教育基本法第３条の中で、生涯学習の理念は「国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない。」と規定されています。

◆本計画における生涯学習（学び）の定義

●日々の暮らしの中での体験や工夫、人との関わりの中にも、「学び」の機会が数多くあります。例えば、仕事や家庭で必要なスキルを学んだり、サークル活動やボランティア活動、地域のイベントに参加したり、仲間と一緒に新しい活動を立ち上げたりすることも生涯学習（学び）の一つです。スポーツをすること、楽器を演奏すること、絵を描くこと、スマホアプリや動画サイトで勉強することなど、身近な活動も生涯学習（学び）としてとらえます。

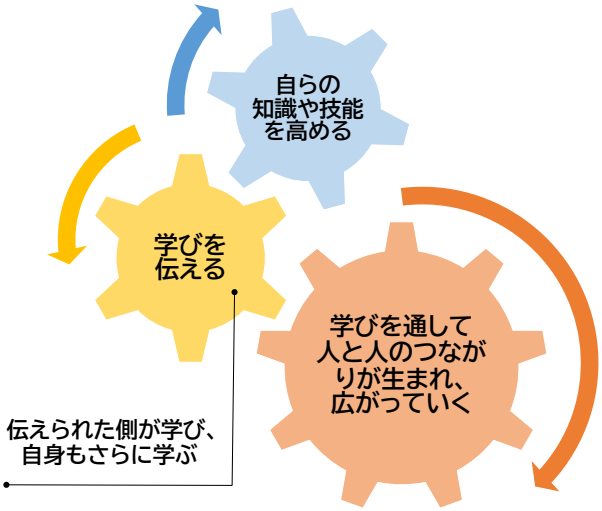
●また、本計画における「学び」とは、自らの知識や技能を高めるものや身近な活動に加え、学びを他者に伝えることにより伝えられた側が学び、学びを伝えた側自身もさらに学んでいくこと、さらに、学びを通して人と人のつながりが生まれ、広がっていくこと、また、学びが地域の課題解決に役立つことなども含めています。（学びの好循環）

●子ども（青少年）の学びにおいては、学校外での多様な体験やふれあい等も「学び」として位置づけます。

■生涯学習のイメージ



■学びの好循環のイメージ

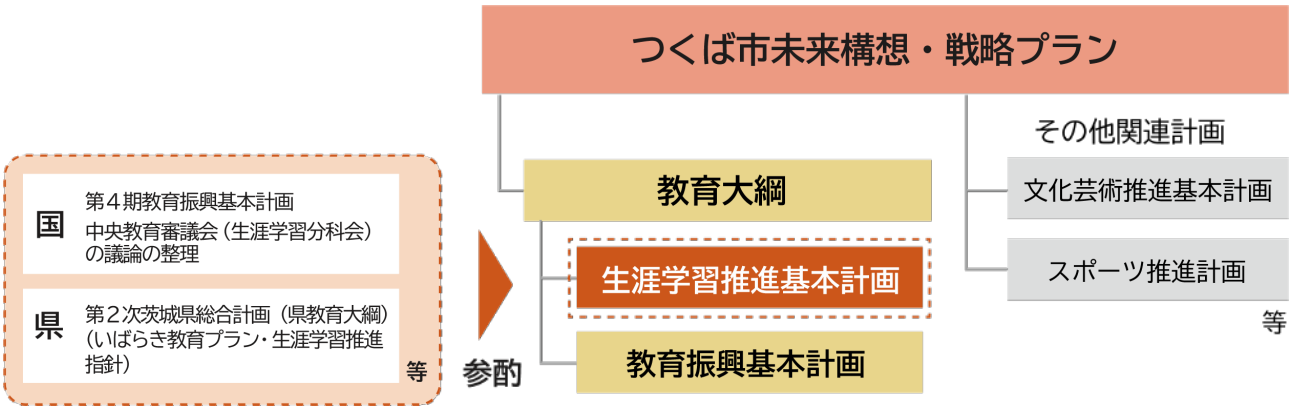


1-2　計画の位置づけ

本計画は、本市の最上位計画である「つくば市未来構想」、「戦略プラン」、（以下、「未来構想・戦略プラン」。）教育、学術及び文化の振興に関する根本的な方針である「つくば市教育大綱」（以下、「教育大綱」。）に基づき、生涯学習に関する施策を総合的に推進するための基本計画です。

策定にあたっては、国・県の生涯学習に関する計画や方針等を踏まえるとともに、本市の生涯学習に関連する各種計画等との整合を図ります。

なお、文化芸術及びスポーツ、生涯学習関連施設などの個別計画において詳細な方針を定めていることから、本計画では整合を図りつつ、生涯学習の観点から関連する取組を推進します。



1-3　計画の期間

本計画の期間は、令和８年度（2026 年度）～令和 12 年度（2030 年度）までの５年間となりますが、社会情勢の変化等により、必要に応じて計画の見直しを図るものとします。

また、令和 11 年度(2029 年度）には生涯学習に関する意識調査を実施し、本計画の評価及び第５次計画の策定の基礎資料とします。



1-4　計画策定に係る基本的な考え方

計画の策定においては、次のような考え方に基づき、計画づくりを推進します。

◆計画の連続性と発展性をもった、上位関連計画と整合を図る計画づくり

- 生涯学習の成果をいかして、つながり、社会課題等の解決に取り組む人材（社会力*6 を持った人材）を育成する第３次計画の理念を継承しながら、つくば市の「ウェルビーイング（幸せ）」の実現に向けて、よりその「つながり」が広がり・発展していく計画づくりを推進する
- 国・県の計画や方針等を参酌し新たな視点を盛り込むとともに、本市の最上位計画「未来構想・戦略プラン」と、本市の教育全般の指針「教育大綱」等との整合を図る

◆個別計画としてのオリジナリティを発揮する計画づくり

- 本市の生涯学習に係る基礎データを整理・分析するとともに、市民アンケートや市民ワークショップの結果を分析し、市民ニーズや現在の本市の課題等を明確にする
- 市民が共有できる基本理念と、計画の実現性を担保する施策や取組を位置づける
- 総花的ではなく、オリジナリティを持った計画づくりを目指すため、取組がどのように市民に届き、活動へつながっていくのかを示す「つくばの学びの未来像」を設定する
- 「生涯学習の成果をいかして地域や社会の課題に取り組む」視点を強化するとともに、身近なものから大きな社会課題に取り組むものまで、取組が評価される環境づくりを推進する
- 子どもの頃から生涯にわたり、自ら学び続けることへの意欲を育む環境づくりに資する計画づくりを推進する

◆市民参画を強化する計画づくり

- 一人ひとりの理想の「学び」の姿を深め、互いに理解し合うとともに、本市全体での理想の「学び」の姿を共有する機会となる市民ワークショップを通じた計画づくりを推進する

◆効果的な進行管理の実現と進捗状況の評価・検証に基づく計画づくり

- 計画の達成状況及び進捗状況を評価・検証し、計画推進上の課題を明確にする計画づくりを推進する
- PDCA（Plan：計画、Do:実行、Check:評価・検証、Action：改善）の在り方を位置づけ、効果的な進行管理ができる計画づくりを推進する

＊6 社会力：他者を積極的に理解し良い関係性をつくり、良い社会をつくろうとする力のこと

第２章

生涯学習推進をめぐる現況と課題

2-1　生涯学習を取り巻く社会潮流

（1）国の動向

1）第４期教育振興基本計画　［令和５年度（2023 年度）～令和９年度（2027 年度）］

国の「第４期教育振興基本計画」（以下、「第４期計画（国）」。）は、教育振興に関する施策の総合的・計画的な推進を図るための計画であり、「持続可能な社会の創り手の育成」と「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」の二つのコンセプトの両立を目指しています。今後５年間における 16 の教育政策の目標のうち、生涯学習関係の政策は「目標８　生涯学び、活躍できる環境整備」を中心に「目標７　多様な教育ニーズへの対応と社会的包摂*7」、「目標９　学校・家庭・地域の連携・協働の推進による地域の教育力の向上」、「目標 10　地域コミュニティの基盤を支える社会教育の推進」等に位置づけられています。

■目標８の基本施策

●大学等と産業界の連携等によるリカレント教育の充実	●女性活躍に向けたリカレント教育の推進
●働きながら学べる環境整備	●高齢者の生涯学習の推進
●リカレント教育のための経済支援・情報提供	●リカレント教育の成果の適切な評価・活用
●現代的・社会的課題に対応した学習	●生涯を通じた文化芸術活動の推進

2）第 12 期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理[令和６年（2024 年）６月]

第 12 期生涯学習分科会では、第 11 期分科会までの議論をもとに、第４期計画（国）を踏まえ、生涯学び続ける社会の実現及びウェルビーイングの向上を目指し、全ての人のウェルビーイングを支える「学び」の在り方（今後の方向性）などについて、とりまとめが行われています。重点事項として、「社会人のリカレント教育」、「障害者の生涯学習」「外国人の日本語の学習」、「社会教育人材」について議論されています。

■生涯学習・社会教育をめぐる状況と今後の方向性

●生涯学習をめぐる状況と目指すべき姿	誰もが生涯を通じて意欲的に楽しく学び続ける社会
●デジタル社会への対応	誰一人取り残されない社会の実現、デジタルデバイドの解消
●社会的包摂への対応	社会的に制約のある方々の学習ニーズの把握、学びを提供する役割も担い、地域や社会へも貢献
●生涯学習社会を実現するための社会教育人材の在り方	地域コミュニティの基盤を支えるうえで、社会教育人材に大きな役割が期待
●生涯学習を進める上で、各学校教育段階で目指すべきもの	初等中等教育：自らの学びに主体的に取り組む力、最適な学習方法を選択する自己調整力を育む 高等教育：学びを活かして社会を牽引できる人材を育成 リカレント教育：成果を社会に還元するための仕事と学びの好循環

（2）県の動向

1）第２次茨城県総合計画（いばらき教育プラン）［令和４年度（2022 年度）～令和７年度（2025 年度）］

「第２次茨城県総合計画」は県政運営の指針であり、当計画の教育に関する部分をもって「いばらき教育プラン」に代えることとしています。

当計画の基本理念「活力があり、県民が日本一幸せな県」の実現に向けた４つの「チャレンジ」のうち、生涯学習分野については「チャレンジⅢ　新しい人財育成」を中心に、複数位置づけられています。

■チャレンジⅢ　「新しい人財育成」の政策（挑戦する政策）の内容

●政策 11　次世代を担う「人財」	●政策 14　学び・文化・スポーツ・遊びを楽しむ茨城
●政策 12　魅力ある教育環境	
●政策 13　日本一、子どもを産み育てやすい県	●政策 15　自分らしく輝ける社会

2）茨城県生涯学習推進指針［令和４年度（2022 年度）～令和７年度（2025 年度）］

「第２次茨城県総合計画」を補完し、県の生涯学習の目指すべき方向性とその実現に向けた取組を示すものとして、「茨城県生涯学習推進指針」が策定されています。

生涯学習推進のテーマを「ひとづくり　つながりづくり　地域づくりにチャレンジする生涯学習」とし、取り組むべき基本的方策を定め、更にテーマの「ひとづくり」、「つながりづくり」、「地域づくり」ごとに重点的に取り組む施策の方向を設定しています。

■重点的に取り組む施策の方向

●ひとづくり	若者が高い創造意欲を持ち挑戦できる「アントレプレナーシップ*8 の育成」
●つながりづくり	生涯にわたり主体的に学ぶとともに、学びを生かしたつながりづくりを目指した「リカレント教育の推進」
●地域づくり	社会的包摂の実現に向けて「現代的・地域課題解決のチャレンジ」を支援し、県民が主体的にかかわる体制づくりの支援

＊7 社会的包摂：全ての人々を孤独や孤立、排除や摩擦から援護し、健康で文化的な生活の実現につなげるよう、社会の構成員として包み支え合うという理念のこと

＊8 アントレプレナーシップ：起業家精神のこと。文部科学省では、「急激な社会環境の変化を受容し、新たな価値を生み出していく精神」ととらえ、自ら社会課題を見つけ、課題解決に向かってチャレンジしたり、他者との協働により解決策を探求したりすることができる知識・能力・態度を身に付ける教育をアントレプレナーシップ教育と位置づけている

（3）市の動向

1）つくば市未来構想・戦略プラン[令和２年度（2020 年度）～令和 32 年度（2050 年度）]

未来構想は、市の全分野のまちづくりの指針となる構想であり、令和 32 年度（2050 年度）までを見据えた計画期間とし、中間目標として令和 12 年(2030 年）の未来像を示しています。

「つながりを力に未来をつくる」をまちづくりの理念として掲げており、多様なコミュニティの中で、顔と顔が見えるつながりをつくり、挑戦が新たなまちの活力を生み出し、更なる好循環を生み出すことで、まちを持続的に発展させていく、という意味が込められています。

また、第３期戦略プランは、未来構想に掲げられた「まちづくりの理念」と「目指すまちの姿」及び「2030 年の未来像」の実現に向けて令和７年度（2025 年度）～令和 11 年度（2029 年度）の５年間の市の取組方針となる基本施策を定めたものです。

生涯学習については、戦略プランの基本施策Ⅱ-２「人生 100 年時代に生涯いきいきと暮らせるまちをつくる」に位置づけられており、今後５年間で取り組むこととして「生涯学習による市民生活の充実」が示されています。

2）つくば市教育大綱［令和７年度（2025 年度）～令和 11 年度（2029 年度）］

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第１条の３の規定に基づき、教育、学術及び文化の振興に関する根本的な方針として教育大綱を令和２年（2020 年）３月に策定し、令和７年（2025 年）３月に改定を行いました。

教育大綱では、本市の教育が目指すものとして、最上位の目標に「一人ひとりが幸せな人生を送ること」を掲げ、その実現に向けて二つの方向性が示されています。

教育大綱で示された考え方は、学校教育に限らず、社会教育も含めた生涯学習全般にわたって踏まえる必要があります。

■目標に基づく「二つの方向性」

① 一人ひとりが幸せな人生を送るために、各人の違いが受容されそれぞれが持っている多様で豊かな個性が花開く環境をつくる。

② 地域全体がその環境において一人ひとりの「善き生の実現能力」と、人と人がつながり、自主的に持続可能なより良い社会をつくるための「社会力」を育てる。

2-2　課題の整理

生涯学習をとりまく社会潮流や市の状況、市民意向や第３次計画の取組状況の結果を、次のとおり分類し、第３次計画の「施策の柱」ごとに課題を整理しました。

これらの課題を踏まえて、第４次計画の方向性を定めます。

a：社会潮流（上位計画）等や市の状況（人口・施設利用状況等）からの留意事項
b：市民意向（アンケート【市民・児童生徒】、ワークショップ【WS】）からの課題
c：第３次計画の取組状況からの課題

※a～c の詳細データについては資料編を参照

（1）多様な学びの実現

施策の方向性：施設の利便性向上/参加機会の拡充/生涯学習の相談・情報の提供

留意事項 a	○今後の方向性として、「ウェルビーイングを目指し、誰もが生涯を通じて意欲的に楽しく学び続ける社会」を目指すべき姿としている。（12 期分科会） ○今後の方向性として、「デジタル社会への対応（誰一人取り残されない社会の実現）」が重要。（12 期分科会） ○国や県は共に、社会人の学び直し（リカレント教育）の重要性を示している。 ○施設等については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、一定期間利用者数が減少したが、近年は回復傾向であり、引き続き安全に利用しやすい施設の管理が求められる。

▼　▼　▼

課題 b	○現在、忙しくて時間がなく学んでいない方のうち、４割が「簡単にできる学習方法があったら」学習への意欲が向上すると回答しており、手段・手法の検討が必要。（市民） ○ライフスタイル、アクセスの問題、定員が限定されていることなどから、参加したくてもできない状況であり、気軽に参加できるプログラムづくりが求められる。（WS） ○世代ごとのニーズに合ったプログラムづくりが求められる。（市民・WS） ○「学びの情報」については、普段は「広報つくば」で入手している方が５割以上で、「講座・イベント」、「施設の内容や方法」が求められていることから、より良い情報発信について工夫が必要。（市民） ○情報へのアクセスの難しさ、情報の量や発信量が不足していると感じられており、世代に合わせた多様な媒体による情報発信と情報の見える化が求められる。（WS） ○地域交流センター等の生涯学習関連施設の更なる活用・利便性向上と、身近な場所で学べる環境づくりが求められる。（WS）
課題 c	○「参加機会の拡充」の評価は安定し、順調に取り組まれているが、市民意見では簡単に学ぶツールや機会の拡充に関するニーズは引き続き強く、工夫が求められる。 ○「生涯学習の相談・情報の提供」の評価は毎年向上し、順調に取り組まれているが、市民意見では情報発信に関するニーズは引き続き強く、工夫が求められる。

▼　▼　▼

●世代や時代のニーズに合った講座の開催等、誰もが学び合い、幸せになれる環境づくりが求められています。

●学びについての情報の一元化や、わかりやすい情報発信など手法の工夫が求められています。

●新たに学びを始める方にとっても、これまで学んできた方が学びを継続していくためにも、既存施設の更なる活用と、身近な場所で学べる、集まれる環境づくりが求められています。

（2）誰一人取り残さない生涯学習

施策の方向性：参加への障壁をなくす取組/主体的に活動に参加できる取組

留意事項 a	○今後の方向性として、「社会的包摂への対応（社会的に制約のある方々の学習ニーズの把握、学びを提供）」が求められており、障害者や外国人の学習は重点の議論事項としてまとめられている。（12 期分科会） ○今後の方向性として、「デジタル社会への対応（誰一人取り残されない社会の実現）」が重要。（12 期分科会）※再掲

▼ ▼ ▼

課題 b	○市に力を入れてほしい取組については、「子育てにいかせる学習の機会をつくる」が最も多く、次いで「仕事にいかせる学習の機会をつくる」であり、子育て世代や働く世代が参加しやすい取組が求められる。（市民） ○学校の授業以外で学びたいことがない児童生徒は約１割みられ、理由として「興味がない・面倒」「何を学びたいかわからない」を多く挙げている。また、学びたいことがあっても、気軽に参加できる機会に「参加したくない」児童生徒が約２割いる。こうしたことから、子どもの頃から主体的な学びのきっかけづくり、興味関心を持てるような取組が求められる。（児童生徒） ○リタイア後の男性の生涯学習・社会参加や、病気等により活動に参加できないなど、参加へのハードルがある人が参加しやすい環境づくりが求められる。（WS） ○市民意向から十分に汲み取りにくい障害者や外国人のニーズに対応する施策の計画への位置づけはつくば市生涯学習審議会での議論が必要。
課題 c	○成果目標「実際に学習活動に取り組んだ人の割合」の更なる増加を目指し、誰もが取り組みやすくなる環境づくりが重要。 ○「主体的に活動に参加できる取組」の評価は向上しており、「障害者スポーツ推進事業」や「男女共同参画啓発事業」が順調に取り組まれていることから、引き続き取組の充実により、誰一人取り残さない工夫が必要。

▼ ▼ ▼

●参加への障壁をなくすという観点から、これまで参加が難しかった方々がより参加しやすく、かつ、誰もが主体的に活動できるような社会的包摂を促進する学びの機会を提供していく必要があります。

（3）地域で学び合う生涯学習

施策の方向性：地域で学ぶきっかけ作り/地域で学びつづける仕組み作り

留意事項 a	○今後の方向性として、「ウェルビーイングを目指し、誰もが生涯を通じて意欲的に楽しく学び続ける社会」を目指すべき姿としている。（12 期分科会）※再掲 ○国においては、「仲間とつながりながら学ぶことができる環境整備を図る」と示している。 ○子どもを取り巻く課題や地域課題解決においては、地域と学校の連携・協働が重要。 ○県においては、「ひとづくり　つながりづくり　地域づくりにチャレンジする生涯学習」を生涯学習推進のテーマに設定。 ○未来構想のまちづくりの理念「つながりを力に未来をつくる」。

▼　▼　▼

課題 b	○「社会力」がいかされた地域になっているかは、「わからない」が５割で多いが、「どちらかと言えばなっていない」も約２割となっており、学びを地域へと広げていくことを意識した取組が求められる。また、大人世代への用語の認知度向上が期待される。（市民） ○地域の人から「何かを教わったり、一緒に取り組んだことがない・わからない」児童生徒が約５割となっており、体験の機会の充実が求められる。（児童生徒） ○知識を得たり、役に立つことに幸せを感じる方は８割以上と多いが、地域との関わりが広がることに幸せを感じる方については６割とやや少なくなっていることから、つながり・交流することでの体験や、機会の創出などきっかけ作りが重要。（市民） ○「社会力」を高めるアイデアとして、地域や世代間の「交流機会」の創出が求められている。（市民） ○児童生徒が、今後地域の人から学びたいもの、教わりたいものについては「スポーツに関すること」や「伝統芸能・歴史文化に関すること」が人気であり、地域学校協働活動などとの連携強化が求められる。（児童生徒） ○区会等の地域での交流機会の減少などから、人とのつながりが希薄化していると感じられており、時代やニーズに沿った様々な交流の機会が求められる。（WS） ○歴史文化や自然環境など特色ある地域資源を活用した多様な活動や交流の機会が求められる。（WS） ○子どもも大人も皆で互いに学び合える環境づくりが求められる。（WS）
課題 c	○成果目標「地域交流センターの利用者数」の増加の達成に向けた取組強化を図ることが求められるが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により減少した経緯を踏まえて、適切な指標であるか見直しが必要。 ○「地域で学ぶきっかけ作り」の評価が低下していることや、個別事業の評価が極端となっていることから、指標や事業内容の見直しが求められる。

▼　▼　▼

●地域との交流機会など、人と人とが出会い、つながりを広げる機会づくりが求められています。

●子どもも大人も皆が楽しんで学び合える地域づくりが求められています。

●より地域が身近に感じられ、将来にわたり地域へ学びの成果を還元し、「より良い状態（幸せ）」が続いていくといった好循環を育むために、子どもの頃からの体験機会の創出などの地域と触れ合うきっかけづくりが求められています。

（4）「社会力」を持った人材の育成

施策の方向性：実践できる人材の育成

留意事項 a	○今後の方向性として、「生涯学習社会を実現するための社会教育人材の在り方」について着目され、学習支援と共に様々な分野の地域課題の解決という点から、地域コミュニティの基盤を支える上で社会教育人材の役割が重要。（12 期分科会） ○高齢者の能力を発揮する機会の提供が求められる。 ○学習成果が適切に評価・活用される仕組みや学習成果の可視化が求められる。 ○市の人口は増加傾向であり、年齢３区分をみると国や県と比べて 65 歳以上人口は低いものの、今後も高齢化は進むため、高齢者が学び、能力を発揮できる仕組みづくりの構築や、生涯にわたる学びの在り方を考えていくことが必要。

▼ ▼ ▼

課題 b	○現在学んだ成果のいかし方について、「自分の人生を豊かにしている」、「仕事や就職の上でいかしている」が多くなっており、今後のまちづくりに役立てたいかについては「いいえ」が５割となっている。理由としても、自己の楽しみや自主学習のためが多いことから、地域・社会へ成果をいかすという考え方を啓発していくことが重要。（市民） ○「社会力」の言葉の認知度は「知らない」が６割で、認知度向上の工夫が必要。（市民） ○「社会力」を高めるアイデアとして、地域や世代間の「交流機会」の創出が求められている。（市民）※再掲 ○つくば市は大人になっても学びたいことが学べるまちだと「思う」生徒が約８割（そう思うとどちらかと言えばそう思うの合計）で、より後押しするために、身近な地域の大人など、ロールモデルの創出や活躍等の可視化が重要。（児童生徒） ○リタイア後の高齢者の活躍については場や仕組みの創出も必要だが、リタイア前からセカンドライフについて考える機会や支援が求められる。（WS） ○大学や研究機関、企業、団体・ボランティア等資源が豊富であると考えられている一方、上手く活用がされていないと感じており、人材活用の仕組みづくりが求められる。（WS） ○各世代の学んだ成果をいかすための発表の機会・環境づくりが重要。（サークル活動発表会、子どもの学びの成果発表会など）（WS）
課題 c	○成果目標「自分の学習成果で社会に貢献したい人の割合」の増加の達成に向けた取組強化が必要。 ○「実践できる人材の育成」の評価が毎年低下しており、より身近なコミュニティ活動を活性化するためにも取組の充実が求められる。 ○施策の柱に位置づく施策の方向性にばらつきがあり、精査が必要。（本柱では１つのみ。）

▼ ▼ ▼

●本市の多様な人材や資源を有効活用するための仕組みの構築が求められています。

●学びの成果を地域や社会に広げていく（つながりによる好循環・社会力）という考え方を、子どもの頃から啓発していくことや、その成果をいかすための場づくりが求められています。

第３章

計画の基本的な考え方

3-1　基本理念

人生 100 年時代を迎え、長いライフステージを豊かに過ごすためには、誰もが生涯にわたり楽しく学び続け、幸せを実感できる環境づくりが重要になっています。そのため、社会的包摂を重視し、学びを通じて人々がつながり支え合う地域社会の実現や、デジタル技術を活用した社会人の学び直し・人材育成の促進が求められています。

本市は、高度な学術研究を担う研究・教育機関が集積する都市であり、豊かな歴史文化や自然環境、特色ある地域フィールドなど、多様な社会資源に恵まれています。これらを背景に、様々な生涯学習関連施策を進めてきた結果、市民の学びに対する意識は高まり、活動の裾野も広がっています。その一方で、こうした資源を十分に活用しきれていない面もあり、生涯学習情報の提供方法や、学習の場・機会へのアクセス、そして地域や人とのつながりの希薄化などの課題が残されています。また、世代ごとの学びのニーズに応じた取組や、成果を発表する場の充実も求められています。

さらに、個人の自己実現を目的とした学びは定着しつつあるものの、他者とのつながりや、学びの成果を地域社会にいかし、課題解決につなげる力、即ち「社会力」の発揮という側面においてはまだ十分とは言えない状況です。

こうした状況を踏まえ、第４次計画では、本市の未来構想の理念「つながりを力に未来をつくる」と、教育大綱の最上位目標「一人ひとりが幸せな人生を送ること」を基盤に、学びを通じて市民の幸せを追求すること、地域の中で世代等を超えて学びの成果がめぐり、好循環を生み出すことで、すべての人が生きがいを感じ、幸せになる持続可能なまちの実現を目指します。そのため、様々な人々が交流でき、誰もが学びを楽しむ機会・環境をつくるとともに、「社会力」を育て、いかす取組をより一層充実させていきます。

このような考えから、第４次計画の基本理念を

学びを楽しみ　学びがめぐり　学びでつながる
幸せのまちつくば

と設定します。

3-2　基本方針

基本理念の実現に向けて取り組む基本方針は、教育大綱において「つくば市の教育が目指すもの」として掲げた２つの方向性に対応するものとして、次のように定めます。

基本方針１　誰もが自分らしく楽しく学べる生涯学習の推進

誰もが生涯学習（学び）を通して自分らしく生きることができる社会を目指し、市民が誰でもいつでもどこでも楽しく学ぶことができるよう、多様な機会や場の充実を図ります。

また、市民一人ひとりが学びを通して、より豊かな人生を実現できるよう、デジタルの活用や学びへのアクセス性の向上、学習内容の高度化、情報共有や発信、利用等、学びを支える環境の充実を図ります。

基本方針２　地域全体で「社会力」を育み、いかす生涯学習の推進

地域が「より良い状態（幸せ）」になるために、生涯学習（学び）を通じて、個人と地域がつながり、共に成長しながら「社会力」を育み、発揮していくことを目指し、まずは、「社会力」への理解を深め、その実践を後押しする機会の充実を図ります。

また、「社会力」をいかす場や機会を整え、「社会力」の源である人材を育成します。

さらに、それが持続可能な形で学びとつながりの好循環を生む仕組みづくりを推進します。



「社会力」とは、他者を積極的に理解し良い関係性をつくり、良い社会をつくろうとする力のことをいいます。

3-3　基本目標

本計画の推進に当たり、基本方針１と２に対応する５つの基本目標を定めます。

基本方針１　誰もが自分らしく楽しく学べる生涯学習の推進

基本目標１　誰一人取り残さない学びの充実

誰もが学びに出会い、自分らしく学び続けられるよう、参加のしやすさの確保と多様な学びの提供を進めます。

誰もが参加できる生涯学習社会の実現に向け、これまで生涯学習に十分に取り組めなかった市民が、学びに取り組みやすくなるような取組を推進します。

そして、学びを通じて誰もが自分らしく幸せに生きるためには、多様なニーズに対応した取組が求められていることから、ライフステージや子どもから高齢者までの世代に応じた参加機会の拡充を図ります。

さらに、市民一人ひとりが自分らしい選択をしながら学ぶことができるよう、主体的な生涯学習活動を促進します。

■施策の方向性■

❶ 多様な学びの充実
❷ 参加機会の拡充
❸ 主体的な学びの促進

基本目標２　学びを支える環境の充実

一人ひとりに合った学びにアクセスでき、あらゆる世代の多様な人々が集い学べる環境を整えます。

誰もが必要な学びの情報を適切に得られ、自らの関心やライフステージ等に応じた学びを選択できる環境づくりが求められていることから、幅広い学びの情報提供と相談体制の充実を図り、市民が学びにアクセスしやすい仕組みを整えます。

また、地域に身近な学びの場として、世代等を問わず誰もが安心して集える環境の充実や、既存施設の利便性向上を図り、学びを通じた交流促進と生涯にわたる学びの継続を支援します。

■施策の方向性■

❶ 学びの情報提供・相談体制の充実
❷ 市民が集う学びの場の充実

基本方針２　地域全体で「社会力」を育み、いかす生涯学習の推進

基本目標３　気づきとつながりを育む意識づくりの推進

「社会力」への気づきを促し、ファーストステップを踏みだす市民の意識醸成を図ります。

生涯学習の成果をいかし、市民がいきいきと活躍する社会を構築していくためには、「社会力」の重要性に気づき、理解を深めることが大切です。地域とのつながりに目を向け、関わりを通じて学びを深めることが学びの成果を実践へとつなげる大切な一歩となります。そのため、気づきの機会を広げるよう、様々な機会と場を提供するとともに、市民が「社会力」を理解し、行動につなげていくための意識づくりを進めます。

■施策の方向性■

❶ 「社会力」への気づきを促す取組の充実
❷ 地域や地域のつながりを知るための取組の充実

基本目標４　学びの成果をいかした活動の支援と人材育成の推進

学びと実践をつなぐ仕組みを整え、活動する市民・団体の支援と人材育成に努めます。

市民の学びを地域での実践へとつなげ、地域全体で「社会力」を向上させるためには、多様な人材が活躍できる環境と、人材・地域資源を活用する仕組みづくりが重要です。そのため、学びの成果をいかした新たな挑戦を後押しするとともに、既に地域の課題解決に取り組む市民や団体の活動を積極的に支援します。あわせて、これらの活動を支える人材の育成や、「社会力」の概念を次世代に継承し、活動をけん引するロールモデル（活動のお手本となる市民）の育成等を図ります。

■施策の方向性■

❶ 学びの成果をいかした活動の支援・促進
❷ 「社会力」を発揮できる多様な人材の育成

基本目標５　持続可能な学びとつながりの好循環の創出

学びの拠点とネットワークを活用し、市民の学びとつながりが発展・循環する仕組みづくりを進めます。

市民自らが地域や社会に学びの成果を還元し、「より良い状態（幸せ）」が続く好循環を育むためには、地域との連携や交流、人と人とがつながる機会づくりが求められています。そのため、市内の各施設が「社会力」を基盤とした学びの拠点となるように支援するとともに、地域と学校が連携・協働して運営するコミュニティ・スクール*9も学びの拠点としてとらえた学びのネットワークの構築を図ります。

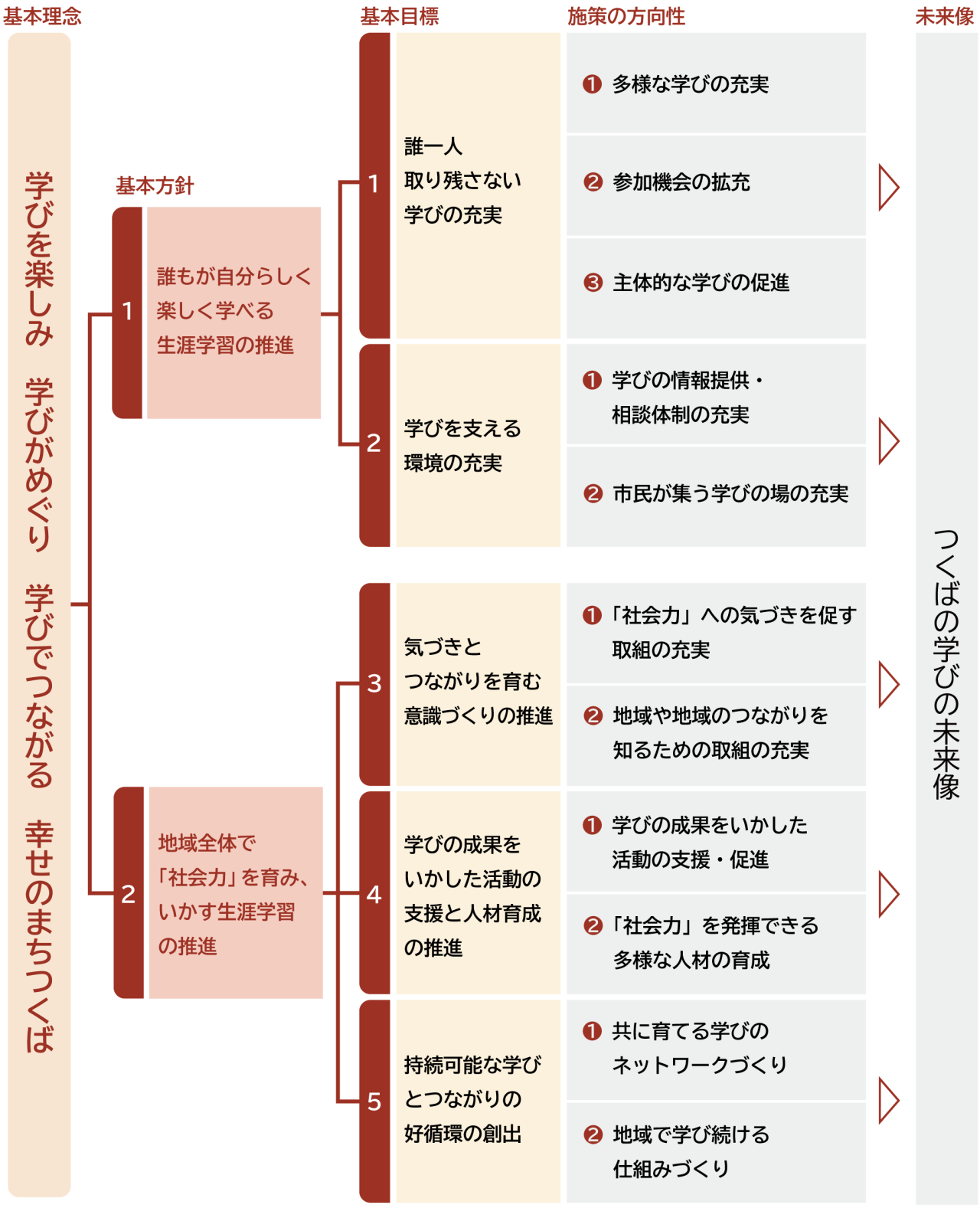
また、市民が新たなつながりを地域に広げていけるよう、様々な主体とのネットワークを通じて活動を後押しするとともに、その取組が持続的に発展するよう、学びのネットワークを活用して地域で学び続ける仕組みづくりを進めます。

■施策の方向性■

❶ 共に育てる学びのネットワークづくり
❷ 地域で学び続ける仕組みづくり

＊9 コミュニティ・スクール：法に基づき学校運営協議会（保護者や地域住民などが委員）を設置している学校のこと。学校と保護者や地域の方々が共に知恵を出し合い、学校運営に意見を反映することで、一緒に協働しながら子どもたちの豊かな成長を支え「地域とともにある学校づくり」を進めるための仕組み

3-4　計画の体系


基本理念
学びを楽しみ　学びがめぐり　学びでつながる　幸せのまちつくば
基本方針
1 誰もが自分らしく楽しく学べる生涯学習の推進
2 地域全体で「社会力」を育み、いかす生涯学習の推進
基本目標
1 誰一人取り残さない学びの充実
2 学びを支える環境の充実
3 気づきとつながりを育む意識づくりの推進
4 学びの成果をいかした活動の支援と人材育成の推進
5 持続可能な学びとつながりの好循環の創出
施策の方向性
❶ 多様な学びの充実
❷ 参加機会の拡充
❸ 主体的な学びの促進
❶ 学びの情報提供・相談体制の充実
❷ 市民が集う学びの場の充実
❶「社会力」への気づきを促す取組の充実
❷ 地域や地域のつながりを知るための取組の充実
❶ 学びの成果をいかした活動の支援・促進
❷「社会力」を発揮できる多様な人材の育成
❶ 共に育てる学びのネットワークづくり
❷ 地域で学び続ける仕組みづくり
未来像
つくばの学びの未来像

第４章

施策の展開

※主な取組について
（新）マークがついている取組は、第４次計画から新たに位置づけた取組となります。

基本目標１

誰一人取り残さない学びの充実

誰もが学びに出会い、自分らしく学び続けられるよう、
参加しやすさの確保と多様な学びの提供を進めます。

■施策の方向性

❶ 多様な学びの充実
❷ 参加機会の拡充
❸ 主体的な学びの促進



障害者スポーツ講座
（卓球バレー体験）



乳児家庭教育学級「つくひな」
（絵本と子育て講座）



障害のある人もない人も一緒に楽しめるイベントがあるのっていいね！

つくば市内の研究機関の講座に参加できてとっても嬉しい！

施策の方向性❶　多様な学びの充実

誰一人取り残さない学びの実現に向けて、これまで生涯学習に十分取り組むことが出来なかった市民（障害者や外国人、学びを始めるきっかけがなかった市民など）に対して、多様な学びの機会の充実を図ります。そのため、民間や教育機関など多様な主体との協働により、生涯学習活動（講座・セミナー・自主活動など）に係る支援を推進するとともに、学びに触れる機会を充実させることで、誰もが参加しやすい学習環境の整備に努めます。

主な取組
障害者や支援者を対象とした講座やイベント（障害者スポーツ講座、チャレンジアートフェスティバル、おひさまサンサン生き生きまつり）の開催、男女共同参画・ダイバーシティ推進セミナー事業、国際交流協会の支援、（新）生涯学習スタートアップ事業

施策の方向性❷　参加機会の拡充

市民がいつでも気軽に学ぶことができるよう、生涯学習活動への参加機会の拡充を図ります。そのため、ライフステージ*10や世代（子ども・若者世代や子育て世代、働く世代、リタイア直前の世代、高齢世代）などによる多様なニーズを把握し、内容、曜日や時間帯、開催場所や開催方法（オンライン開催等）などについて、様々な観点から検討します。また、民間等との連携を図り、柔軟かつ効果的に事業を見直し・提供を行います。さらに、講座開催時の託児サービスや手話通訳の提供など参加促進のための支援にも努めます。

主な取組
地域交流センター等の夜間・休日における学習機会の提供、オンラインによる講座開催、家庭教育学級の運営支援、（新）乳児家庭教育学級の開催、（新）幼児家庭教育学級の開催

施策の方向性❸　主体的な学びの促進

一人ひとりが自分らしく主体的に学び、自らの力を高めていけるよう、学習段階や関心に応じた学習機会を支援します。そのため、個人の楽しみや生きがいづくりに加えて、生活の質の向上や自己実現につながる学びを推進します。さらに、高度な学習ニーズやキャリア形成に対応するための高等教育機関・研究機関・企業と連携したリカレント教育やリスキリングなど、市民の主体的な学びを支える新たな取組を目指します。

主な取組
地域交流センター等での学級・講座の充実、スポーツ教室の充実、読書推進事業、つくば市域における図書館の連携、（新）生涯学習スタートアップ事業

＊10 ライフステージ：人の一生を年齢や節目となる出来事（就職、結婚、出産、退職、介護など）で区切った段階のこと

基本目標２

学びを支える環境の充実

一人ひとりに合った学びにアクセスでき、
あらゆる世代の多様な人々が集い学べる環境を整えます。

■施策の方向性
- ❶ 学びの情報提供・相談体制の充実
- ❷ 市民が集う学びの場の充実



市民活動支援事業
（ボランティアフェスタ･子ども向け工作ワークショップ）



おひさまサンサン生き生きまつり
（シルバーリハビリ体操）



子どもも大人も興味が湧く、
わかりやすい情報があるね！

イベントで楽しみながら
学ぶこともできるんだね！

施策の方向性❶　学びの情報提供・相談体制の充実

市民が、自身の関心・ライフステージなどに応じた事業や地域団体の活動情報にアクセスしやすい環境づくりを進めます。そのため、情報の収集・整理を行うとともに、関係各課や団体と連携し、市広報紙や SNS など多様な媒体を活用した効果的な情報発信を行います。また、大学や企業等と連携し、市民が一元的に情報を得られる仕組みづくりを進めます。

さらに、新たに学び始めたい、活動をしたいと考える市民の参加促進・支援のため、関係各課や各施設と連携し、相談体制の充実を図ります。

主な取組

市民活動相談業務、SNS を活用した活動団体の広報、外国人向けイベント情報の発信、生涯学習指導者情報の提供、市職員向けの広報セミナーの実施

施策の方向性❷　市民が集う学びの場の充実

世代や地域、障害の有無、国籍などを超えて多様な人々が集い、交流し、学び合える場づくりを支援します。

そのため、図書館や市民交流施設、スポーツ施設、学校の体育施設や特別教室の適切な整備と管理に努め、利便性の向上を図るとともに、今後検討する若者の居場所などを活用した事業を推進します。また、活動団体や企業等との連携により、身近な地域で集い、学び合える場の充実を目指します。

さらに、つくば科学フェスティバルや図書館による屋外イベントなど、市民が集い、学びを楽しむことができる機会を提供し、生涯にわたり学び続けられる場の充実を図ります。

主な取組

図書館利便性向上事業、市民交流施設利便性向上事業、学校施設開放事業、チャレンジアートフェスティバル、おひさまサンサン生き生きまつり、つくばちびっ子博士、（新）つくば科学フェスティバル、（新）若者のための居場所の検討と創出、（新）読書環境の充実と集いの場の創出

基本目標３

気づきとつながりを育む意識づくりの推進

「社会力」への気づきを促し、ファーストステップを踏み出す市民の意識醸成を図ります。

■施策の方向性

❶ 「社会力」への気づきを促す取組の充実

❷ 地域や地域のつながりを知るための取組の充実



「社会力」を持った人材の育成講座
（講座の集客アイデアとチラシ作り）



自然環境教育事業
（ホタル観察）



自分が学んだことを
誰かの役に立てたい！

自分が住んでいるつくば市の
こともっと知りたいな。

施策の方向性❶　「社会力」への気づきを促す取組の充実

市民が学びの成果をいかして、地域社会に貢献する環境づくりの第一歩として、他者を積極的に理解し良好な関係性を築き、より良い社会をつくろうとする力である「社会力」について、一層の理解促進と啓発を図ります。そのため、市広報紙やSNSなどを通じて周知を行い、市民が気づきを得て理解を深められるよう推進します。

また、「社会力」人材育成事業などの各種講座や青少年の体験学習などの機会を提供し、自ら地域や社会に関心を持ち、主体的に関わろうとする意識の向上を図ります。

主な取組
つくば人間学講座、「社会力」を持った人材の育成講座、（新）青少年体験学習事業

施策の方向性❷　地域や地域のつながりを知るための取組の充実

地域や社会に主体的に関わり、学びの成果をいかすきっかけづくりとして、市民がつくば市や身近な地域への理解を深める機会の充実を図ります。そのため、多様な事業を通して、つくば市や地域の歴史・文化、自然環境、地域活動やボランティア活動、また多様な価値観などを知る機会と場を提供するとともに、地域と関わる機会の充実を図ります。あわせて、これらの取組を通じ、つくば市や地域に対する愛着や誇りを育みます。

主な取組
出前講座事業、多文化共生推進事業、文化財展示講座事業、筑波山地域ジオパーク体験学習・講座、つくばちびっ子博士、（新）つくば科学出前レクチャー、（新）つくば科学フェスティバル、（新）青少年体験学習事業、（新）自然環境教育事業、（新）ゼロカーボン教育・啓発事業

基本目標４

学びの成果をいかした活動の支援と人材育成の推進

学びと実践をつなぐ仕組みを整え、活動する市民・団体の支援と人材育成に努めます。

■施策の方向性

❶ 学びの成果をいかした活動の支援・促進

❷ 「社会力」を発揮できる多様な人材の育成



文化財サポーターの育成
（ボランティアによる石仏調査）



青少年体験学習事業
（中高生が教える防災教室）



自分の学びの成果をいかした活動を続けていきたい！

活動をもっと広げていくために、仲間を増やしていきたいな！

施策の方向性❶　学びの成果をいかした活動の支援・促進

地域の中で活躍する市民・団体の世代交代や活動の活性化を図り、楽しみながら持続的に学べるよう、適切な支援に努めます。

また、市民が学んだ成果をいかして、主体的に新たな活動に取り組んでいけるよう、文化団体やサークルなどの育成に努めます。

さらに、児童生徒や青少年、高齢者の活動支援を担う団体、ボランティア団体など地域貢献に取り組む団体への積極的な支援により、多様な団体が活躍できる体制の充実を図ります。

主な取組

高齢者生きがい活動支援事業、文化団体等育成支援事業、市民活動団体支援事業、（新）青少年健全育成活動の支援、（新）つくば市民文化祭の開催

施策の方向性❷　「社会力」を発揮できる多様な人材の育成

「社会力」の気づきによって、自ら学んだことを地域に還元したい、仲間と共に学びを通して地域に貢献したい、地域課題の解決につながる活動を始めたいなど、一人ひとりの市民の想いが実現できるよう、様々な機会と場を通して「社会力」を発揮できる人材を育成します。あわせて、ボランティアなど、地域づくりに貢献する人材の養成にも取り組みます。

また、次の世代の活動を担う若者が自身の将来の姿を具体的に描きながら活動に関われるよう、ロールモデル（活動のお手本となる市民）から学べる機会を増やします。特に次世代の活動をけん引するリーダーとなる人材の育成を積極的に推進します。

主な取組

生涯学習指導者情報提供事業、文化財サポーターの育成、地区リーダー勉強会の開催、市民活動支援事業、（新）青少年体験学習事業

基本目標５

持続可能な学びとつながりの好循環の創出

学びの拠点とネットワークを活用し、市民の学びとつながりが発展・循環する仕組みづくりを進めます。

■施策の方向性

❶ 共に育てる学びのネットワークづくり
❷ 地域で学び続ける仕組みづくり



コミュニティ・スクールの運営支援
（コミュニティ・スクール委員等研修会）



周辺市街地活性化協議会の運営支援
（大曽根・花畑・筑穂ギャラリーDAY）



地域の人とつながって、学び合える関係を続けていきたい！

いろんな団体や組織の人と連携することで、活動を発展させていきたいな。

施策の方向性❶　共に育てる学びのネットワークづくり

市内の各施設が、それぞれの立地や特性をいかしながら、地域の「学びの拠点」となるように、人と人がつながり地域で活動できるよう機会づくりを積極的に支援します。あわせて、「地域づくり」、「人づくり」を目指し、地域と学校が連携・協働して運営するコミュニティ・スクールも地域における「学びの拠点」ととらえ、拠点間の連携、情報の連携、人的交流を促進し、学びのネットワークを構築します。

主な取組

地域まちづくり支援事業、市民活動支援事業、地域交流センター等講座・学級の充実、（新）つくば SDGs パートナーズ事業、（新）コミュニティ・スクールの運営支援、（新）大学生・地域ボランティアによる学習支援活動

施策の方向性❷　地域で学び続ける仕組みづくり

地域においては、市民が学びを通してつながる機会の充実を図るため、各施設やコミュニティ・スクールを中心に、学校・大学・研究機関・企業・各分野の団体・ボランティアなどとの連携と適切な機能分担を促進します。

特に市内の研究機関・企業との連携においては、本市の特性をいかした科学教育などの体験学習を通して学び続ける仕組みの充実につなげます。

そして、こうした多様な連携を継続的に発展させることで、市民の学びの広がりや多様な人との新たなつながりが世代等を超えて展開していくことを目指して、地域で学び続ける仕組みづくりを進めます。

主な取組

障害者や支援者を対象とした講座やイベント（障害者スポーツ講座、チャレンジアートフェスティバル、おひさまサンサン生き生きまつり）の開催、つくばちびっ子博士、（新）つくば科学出前レクチャー、（新）つくば科学フェスティバル、（新）コミュニティ・スクールの運営支援、（新）周辺市街地活性化協議会の運営支援

つくばの学びの未来像

本計画では「基本理念」を実現するために「基本方針」、「基本目標」を定め、「基本目標」を施策に落とし込んだ「施策の方向性」を位置づけています。

「施策の方向性」には「主な取組」を位置づけており、これにより市民の生涯学習活動を支援していく流れとなっています。

本市の５年後の未来に向けて、「主な取組」が市民に届き、それが市民の活動へとつながっていく様子と、そのイメージを未来の物語に乗せて示します。

「幸せのまちつくば」に向けて

基本理念に掲げる「幸せのまちつくば」は、生涯学習を通して、市民一人ひとりが学びたい、人とつながり共に学びたい、学びを地域に役立てたいという想いをかなえ、達成感や幸福感を得ることによって実現すると考えます。生涯学習活動している市民は誰もが実感する想いです。生涯学習の施策は、それを実現するためのものです。

一方、「生涯学習ってなんだろう？」、「自分には関係ない」という市民にとって、生涯学習は、幸せのまちには結び付かないでしょう。生涯学習の施策は、このような市民に取り組んでもらうためのものでもあります。

つくば市の生涯学習は、すべての市民に向けて扉を開き、一人ひとりの状況に応じて支援ができるように取り組んでいくものです。

施策を市民の活動につなげるには

生涯学習の施策をどのように市民の活動につなげるかが、市民の参加率を上げていく上でも、学習活動を深めていく上でも重要なポイントです。

市民は社会生活において、様々な立場や背景を持っていることから、求める生涯学習の取組も、一人ひとり違います。

市民がどのようなライフステージにあるか、どのようなライフコースを歩んでいるかというところからニーズを読み取り、施策と市民の活動をつなげていきます。

人生 100 年時代のライフコースの考え方

ライフステージとは、人が生まれてから死ぬまでの間に経験する、様々な段階のことです。それぞれのライフステージは、年齢や社会的な役割、生活環境の変化によって区分され、就職、結婚、出産、退職、介護などが節目になります。

ライフコースとは、個人がたどる人生の経歴や軌跡全体を指します。ライフステージは、このライフコースを構成する要素の一つです。本計画においてライフコースは、ライフステージの積み重ねのようなものととらえます。

この計画は、様々なライフステージに対応し、市民がライフコースを通して生涯学習に取り組もうとする「現時点」から５年後の未来に向けての主な取組を示しています。

市民一人ひとりの人生は、これまで取り組んできた過去の活動や学習、５年よりもっと先の未来への意欲をも含めて成り立っています。

また、人生 100 年時代にあって、市民のライフコースは、従来型の３つのステージモデルのライフコース「教育～仕事（労働）～引退（老後）」から、マルチステージモデルのライフコースへと移行していることも踏まえます。

従来型の３つのステージモデル➡



移行

マルチステージモデル➡

※右図はマルチステージの一例（イメージ）です。



本市では、マルチステージモデルのライフコースを想定し、この計画で推進する主な取組がどのように市民に活用されるかをシミュレーションしました。

５人の「未来の物語」

本計画では、様々なライフコースを生き、それぞれのライフステージにある市民の「未来の物語」をモデルとして設定し、本市で学んでいる姿を示します。

計画に示す主な取組をそれぞれの市民がどのように活用して生涯学習を実践しているか、「青少年」、「働く世代」、「子育て世代」、「障害者」、「高齢者」のそれぞれのステージにある市民の物語を通してみていきます。

また、一人の人生には様々な人々が関わっており、共に学ぶ仲間には、別の物語（ライフコース）があることも意識して、「未来の物語」を描きました。

―５人の「未来の物語」―

つくば市に住むとある５人それぞれが
学ぶことにより、人とつながり
自身の人生をいきいきと送る姿を描きました













青少年

みんながいて、なんでもできる学びの場所



高野さん（13 歳）　つくば市居住歴 13 年　生まれも育ちもつくば市で、現在は市内の中学校に通う中学 1 年生。両親もつくば市生まれつくば市育ちです。

あなたの学びのきっかけは？

小学校４年生の夏休み前のある日、家の近所の児童クラブで遊んでいたら、スタッフのお姉さんに「今度、科学教室やるんだけど参加してみない？」と誘われたのがきっかけです。ちょうど自由研究のテーマを探していたところだったので「いいことを聞いた♪」と思い参加しました。



どのような講座に参加しましたか？



日ごろ「なぜ？」と思っていることを科学で解き明かしてくれるような内容で、とても楽しかったです。あと、近所の知り合いのおじさんが教えに来てくれてびっくりしました！つくば市の研究所で働いている科学者だったなんて…!

科学講座への参加をきっかけに、他にも多くのイベントに参加しました。父と一緒に夏休みのつくばちびっ子博士で研究所や施設を見学したり、近所の人たちと一緒に餅つきをしたり、工作をしたり。学校の友達と遊ぶのとはまた違った楽しさがありました。

他にはどんなものに参加しましたか？

あるとき、新しくできた近所の友達と「地域のみんなが楽しめる新しいお祭りをやりたいね」という話をしたのをきっかけに地域の人を巻き込んで近くの空き地を使った「まちのひろば」をつくることになりました。私たちが出したアイデアを近所の人たちが一緒に真剣に考えてくれて、まずは舞台を作ることになり、建物に詳しい市民活動団体の人たちも手伝いに来てくれました。みんなと一緒になって竹を切り出し、加工して組み立てるのは楽しかったです。お店は趣味でお菓子や作品を作っている地域の人に協力してもらいました。また、地域の子どもの作品を展示したり、得意なことを発表したりできる会場にもなりました！

学んだことで何か変化したことは？



自分の周りには両親や学校の友達だけじゃなくていろんな人がいて、自分一人では難しいことでも周りの人の知恵を借りればできないことはないんじゃないかと思うようになりました。

今は中学生になって部活や勉強で大変ですが、「まちのひろば」をより楽しく使うためのアイデアがたくさん浮かんできます。それを形にできるよう、またみんなと協力して楽しく頑張りたいです！

働く世代

仕事のスキルアップをきっかけに広がった世界



横田さん（27 歳）　つくば市居住歴５年　大学卒業後の就職を機につくば市に。建築士として市内の企業に勤めています。現在は一人暮らしです。

あなたの学びのきっかけは？

勤めている会社のホームページ更新の担当が私になり、デザイナーの方とやり取りするに当たり基礎的な知識を学ぶために市の講座を受講したのが始まりでした。今後の自分のキャリアにもいきてくるかもしれませんし、良い機会だと思ったのです。どこで学ぼうかなと考えていた矢先、家の近くにある地域交流センターで**市が運営する「学びのポータルサイト」**のポスターが目に入りました。サイトを見てみると、**欲しい情報にすぐにたどり着けるようになっており、まさに自分の求めていた講座に出会えました。**



どのような講座に参加しましたか？



はじめは**「初めてのウェブデザイン講習会」**に参加しました。仕事終わりに行くことができたのが良かったですね。もちろんデザイナーさんとのやり取りでも役立ちました。これをきっかけにいろんな講座に参加し、今ではつくば市についてもっと知りたいと思うようになりました。

つくば市は**働く世代向けの講座が充実している**のにも驚きましたが、他にも多種多様な講座があり、**会社の同僚にも勧めました。**

他にはどんなものに参加しましたか？

以前から**自分のスキルや知識をいかして社会貢献できる場**があればなあと思っており、ポータルサイトを見たところ、市内の古民家を研究している**市民活動団体**の存在を知りました。「これだ！」と思い参加してみると同業種の方も多く、すぐに馴染むことができました。他にも、**市の職員さんや学校の先生など異なる分野の方々とも出会えた**ことは私にとって新鮮で、また市内の地域活動との交流の中で得た気づきが、結果として仕事にもいかされる場面があり、参加して本当に良かったと感じています。

学んだことで何か変化したことは？



以前は一人で過ごす時間が多く、たまに大学時代の友人と会うことがあるくらいで交友関係が広がらなかったのですが、**講座への参加や団体への入会をきっかけに市内の知り合いが増えました。**あと図書館に行く機会も増えました。団体の活動の一環で図書館へ調べ物をしに行ったときに、**「ライブラリーピクニック」**なる取組があるのを知ったのですが、休日に公園の緑の下で読書をするのは気持ちいいですよ！

子育て世代

子育ての中で見つけた、わたしの“居場所づくり”



小林さん（46 歳）　つくば市居住歴 36 年　大学時代・新社会人時代は関西に居住。結婚を機に地元に戻りました。夫婦２人＋子３人（幼児１、小学生２）の５人暮らしです。

あなたの学びのきっかけは？



出産前は営業職、出産後は在宅で営業アシスタントをするように。子どもとの時間を大切にしたくて変えた働き方でしたが、人との関わりの少なさに徐々に寂しさを感じていました。そんな中、子どもの保育参観後に開催される**「子育て中でもできる！地域参加のはじめかた（親子参加 OK！）」**の講座の案内が。地域に関わることは、自身の子どもたちにとっても、先生や保護者以外の人と触れ合える良い機会になるのでは？と思い参加しました。

参加した講座はどうでしたか?

講座は連続講座で、地域とつながるための方法や取組例の紹介、参加者の**“ちょっと得意なこと”をどういかせるか**を話し合ったり、**地域交流センターで子ども食堂のお手伝い体験**もしたりしました！講座会場は保育園以外に、学校の特別教室、近所のカフェを利用した時もありました。**毎回色々なところに遊びに行くような感覚で、改めて地域を知る良い機会にもなりました。**



地域にどのように関わることにしたのですか？



講座の参加者同士で交流を続けるなか、**「自宅の空きスペースを活用して、多世代の学び合いの場をつくりたい！」**という方の思いに賛同し、一緒に立ち上げに加わることにしました。私は**仕事でのスキルをいかして仲間集めや行政相談などを担当**し、他メンバーも、無理のない範囲で協力し合いました。立ち上げ作業が大詰めの時は、家事や育児を一緒にしている夫が、さらに頑張ってくれて、子どもたちもお手伝いで応援してくれました！つくば市では、**家庭内でお互いの学びを応援する考えも育ってきている**のが良いです。

実際にはどのような場所になっていますか？

誰もが気軽に集まれる居場所となっています。私の子どもも利用しており、年下のお世話をしたり、中高生や地域の大人に勉強を教わったりと、自然に社会と関わっています。**運営にはシルバー人材の方や、ボランティアの方など様々な方が関わっています。**私も週に一度お手伝いをしています。訪れる人との会話を楽しみつつ、地域の課題解決に向け、専門家を呼んで勉強会をしたり、地域の人と人とを結ぶマッチングサービスについて学んだりと、**地域を良くする活動に取り組んでいます。**



障害者

世界が広がるつくばの学び



田中さん（52 歳）　つくば市居住歴５年　市内企業勤務。夫婦２人＋息子１人（高校３年生）の３人暮らし。

あなたの学びのきっかけは？



私には精神障害があります。夫の転勤を機につくば市に引っ越し、私も市内の企業へ転職しました。慣れない仕事に悩んでいたとき、同僚が**「市の生涯学習講座がおススメですよ！」**と声をかけてくれたんです。障害の有無に関係なく**自由に学べる環境**と聞き、少し関心を持ちました。

どのような講座に参加しましたか？



私は人が多い場所が苦手なため、初めは**オンラインで参加**しました。参加してみると、**字幕や手話通訳もありました。**講座のテーマは**「職場のコミュニケーション術」**で、笑いも交えた講師の話が心に残りました。自分がわからなかったところは**アーカイブ視聴で何度も見直せた**のも良かったです。さらに、**市では障害の種類や程度に沿った学びの場も設けている**と聞き、安心感を持ちました。それで、今度は対面での講座に参加してみようと思ったんです。

他にはどんなものに参加しましたか？困ったことは？



国際交流セミナー、障害者スポーツ教室、自然体験会など、時にはオンライン、時には対面での講座に参加し、参加を重ねるほどいろんな人・知識に出会え、世界が広がっていきました！課題はハード面・ソフト面とありますが、サポートしてくれる人もいますし、何より**参加者同士で助け合える雰囲気**があるので、今では私も同じ障害のある人などに講座参加時のコツを教えるなど支える立場になることも増えました。

学んだことで何か変化したことは？



つくば市が大好きになり、市の魅力を伝えたいと思い個人的にSNS で発信していたら「あなたの地域について、もっと知りたい！」とインドの方からメッセージが届き、セミナーで出会ったインド人の友人の力を借りながら交流をはじめました。人が多い場所が苦手な私が、つくばの学びに参加したことで、多くの人と関われて、世界ともつながっているなんて！これからも、**つくば市は、だれもが多くの選択肢を持ち、選び、成長できるまちなんだよ！**ということを伝えていきたいです。

高齢者【リタイア前～リタイア後】

55 歳の誕生日、人生が少し動き出した日



中村さん（70 歳）　つくば市居住歴 35 年　転勤を期につくば市に。研究職員として市内企業に勤めていました。現在は夫婦２人＋犬１匹暮らしです。

あなたの学びのきっかけは？

人生の折り返し地点も過ぎた 55 歳の誕生日。我が子から「私たちばかりに構っていないで、そろそろお父さんも新しいこと、始めてみたら？」

そのひと言で自分のこれからについて考えるようになりました。

実はその少し前、お世話になった先輩が「定年退職後、やることがなくて毎日が長い」と言っていたのを聞いたんです。長年、第一線で活躍してきた知識も経験も豊富な人が急に居場所をなくしてしまったみたいで…。

「自分も同じようになってしまうのでは？」そんな不安もあった中で、**市の SNS で「セカンドライフを考えよう」という講座の案内を見つけた**んです。家族も背中を押してくれたので、思い切って申し込んでみました！





参加した講座はどうでしたか？



仕事後に参加できる夜間の連続講座で、自分のこれまでの人生や得意なこと、価値観を振り返るワークから始まり、**趣味の見つけ方や講座の紹介、地域との関わりについて**も学びました。

地域の人とはあいさつ程度の関係だったので、何か始めるなら、自分の経験がいかせて、さらに、地域の人と関われることがいいなと思うようになりました。

実際にはどんなことを始めたのですか？

研究職員として働いていた当時は、負担の少ない形で**科学教室を行う地域団体のサポートメンバーとして関わる**ことにしました。

地域の子どもや大人が一緒になって楽しそうに実験に取り組む姿を見ると、自分の知識や経験が誰かの「わくわく」につながっている実感がありました。何とも言えないやりがいを感じ、先輩にも手伝ってもらいました。



その後、活動を続けてみていかがですか？



仕事を引退して時間ができた今は、**団体の講師だけでなく市主催の講座の講師となったり**、私のようにサポートとして手伝ってくれている人を**次の講師となるように育てたり**しているところです。

活動を通じて仲良くなった人たちとは、近所で一緒にお茶をしたり、山登りをするようになり、心身共に健康的な生活を送っています。思い切って一歩踏み出したことで、人生がより豊かになりました！

ちなみに、先輩も生涯学習活動への参加をきっかけに、生きがいを見つけたようです。今では目指せ 120 歳!とはりきっていますよ。

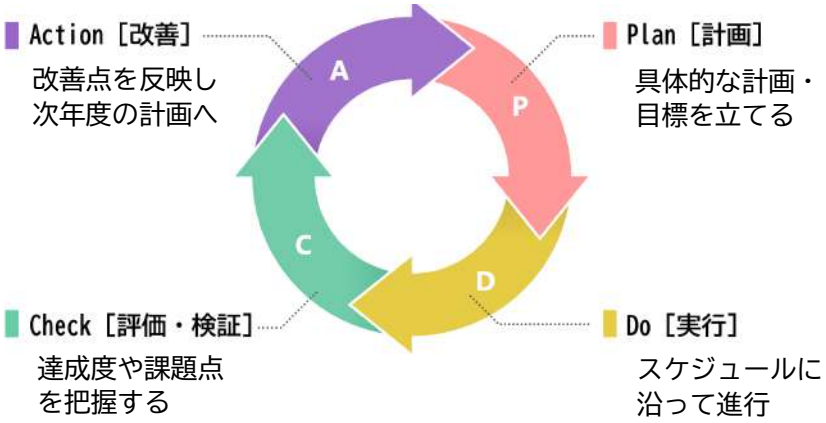
第５章

計画の推進

5-1　計画の進行管理と推進体制

(1) 計画の進行管理

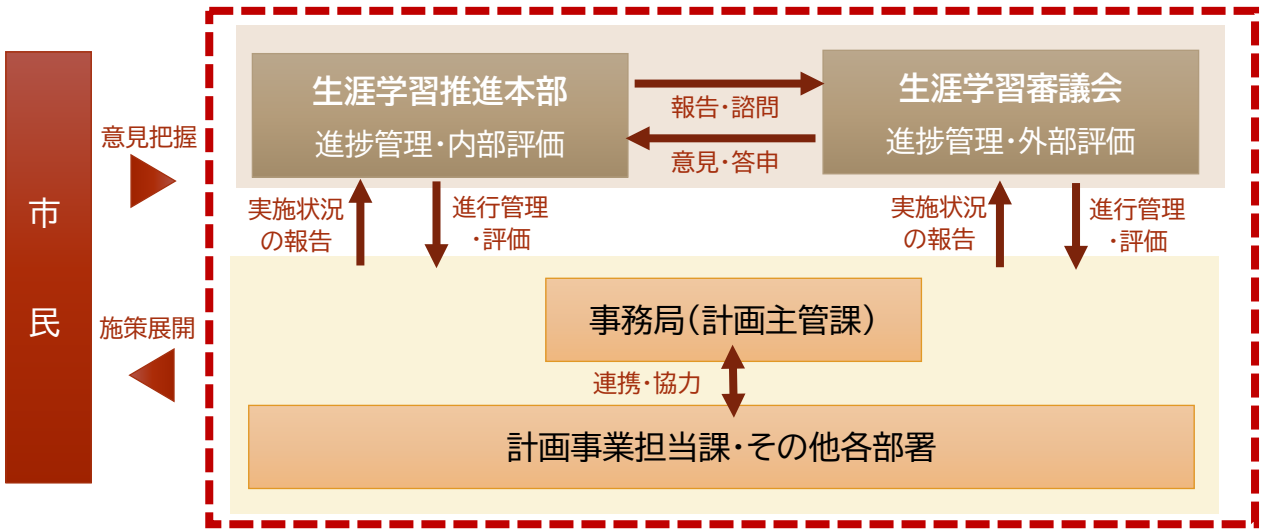
本計画では、第４次計画の基本理念を実現するために、基本目標ごとに位置づけている「施策の方向性」を毎年度評価・検証し、評価の結果をもとに、PDCA（Plan：計画、Do：実行、Check:評価・検証、Action：改善）サイクルによる進行管理を進めます。



(2) 計画の推進体制

本計画の推進体制は、各部長等で構成される「生涯学習推進本部」及び市議会議員、各種団体等の代表者、学識経験者、市民委員から構成される「生涯学習審議会」、そして両会議に実施状況の報告を行う事務局と関係各課で構成するものとします。

また、計画全般の進行管理や評価は、事務局及び関係各課からの実施状況の報告に基づき「生涯学習推進本部」において実施し、「生涯学習審議会」に報告・諮問します。「生涯学習審議会」は諮問を受けて審議を行い、今後の取組の改善にいかしていきます。



5-2　成果指標と目標の設定

計画全般にわたる成果指標は基本理念の実現に向けて、基本方針１及び基本方針２の趣旨に沿ったもの、また、計画全体の評価をはかるものとして、市民意識調査等から次のとおり設定しました。成果指標については、第４次計画の最終年度に評価・検証を行うものとします。

成果指標		現況値 令和６年度 （2024 年度）	目標値 令和 11 年度 （2029 年度）
基本方針１			
1	生涯学習に取り組んでみたい人の割合 （生涯学習に関する市民意識アンケート）	81.9%	85%
2	実際に取り組んだ人の割合 （生涯学習に関する市民意識アンケート）	65.0%	85%
基本方針２			
3	自分の学習成果で社会に貢献したい人の割合 （生涯学習に関する市民意識アンケート）	44.1%	50%
4	学びの成果を地域や社会での活動にいかしている（いかせる）人の割合 （生涯学習に関する市民意識アンケート）	13.8%	50%
5	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う児童生徒の割合 （全国学力・学習状況調査）	79.5%	85%
6	地域の人から何かを教わったり、一緒に取り組んだことがある児童生徒の割合 （児童生徒 WEB アンケート）	54.5%	60%
計画全体の評価			
7	市の政策のうち、生涯学習に満足／どちらかといえば満足な人の割合 （つくば市民意識調査）	31.3%	50%

資料編

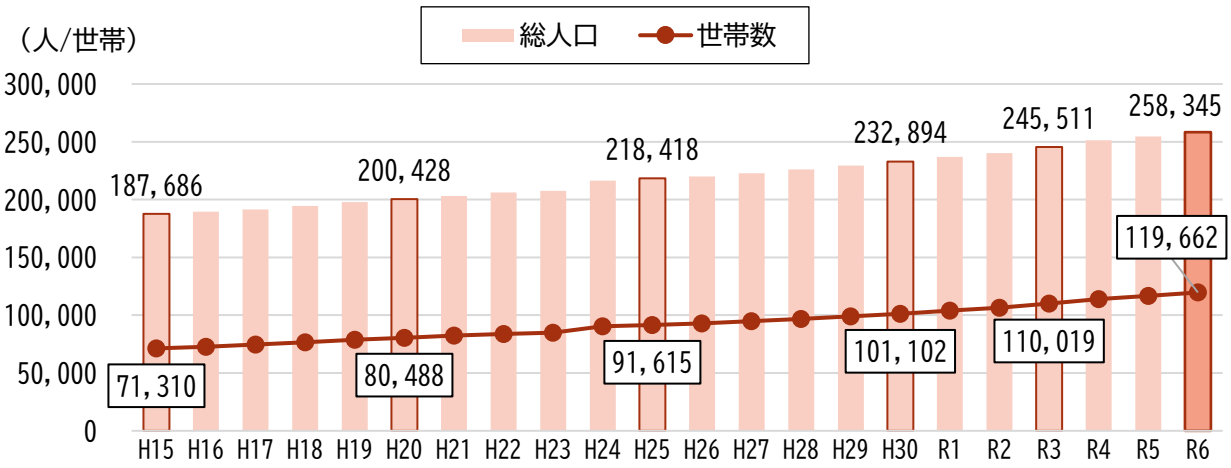
1　計画策定に関連するデータ

資料 1-1　つくば市の人口等の状況

(1) 人口等

本市の総人口及び世帯数は一貫して増加傾向にあります。令和６年(2024 年)10 月１日現在の住民基本台帳によると、人口 258,345 人・世帯数 119,662 となっており、第３次計画が始まった令和３年度(2021 年度)の同月同日と比較すると 12,834 人・9,643 世帯の増加となっています。

■総人口・世帯数の推移（各年 10 月１日現在）

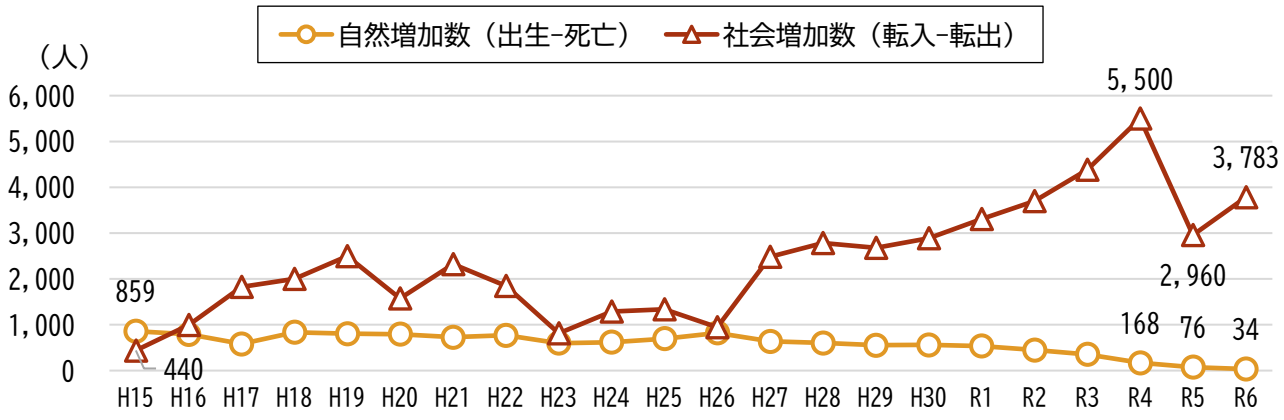


資料：『統計つくば』及び令和６年度行政区別人口表（つくば市）
※住民基本台帳人口は、平成 24 年８月以降の資料には外国人住民を含む。

(2) 人口動態

人口動態をみると、自然増加数は減少傾向にあります。社会増加数は平成 27 年(2015 年)以降著しく増加傾向にありましたが、令和４年（2022 年）から令和５年（2023 年）にかけて大幅に減少し、令和６年（2024 年）に再び増加しています。

■人口動態（各年１月１日～12 月 31 日　累計）

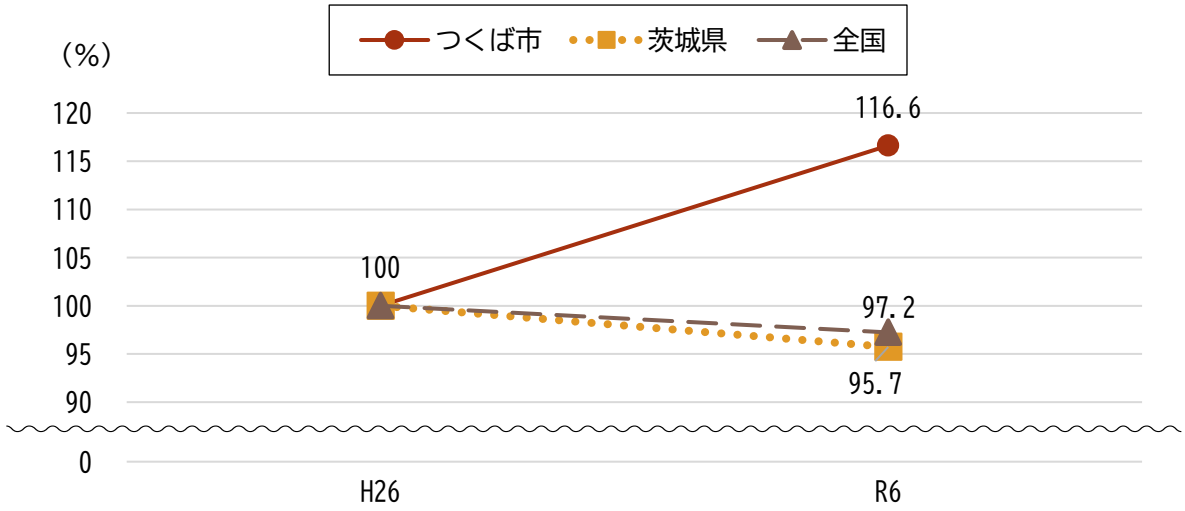


資料：『統計つくば』

（3）人口推移の比較（全国・茨城県）

平成 26 年(2014 年)を 100 とした場合の令和６年(2024 年)の人口を茨城県や全国と比較すると、県や国がやや減少しているのに対して、本市は増加が目立っています。

■人口推移の比較（平成 26 年(2014 年)=100）各年１月１日現在）

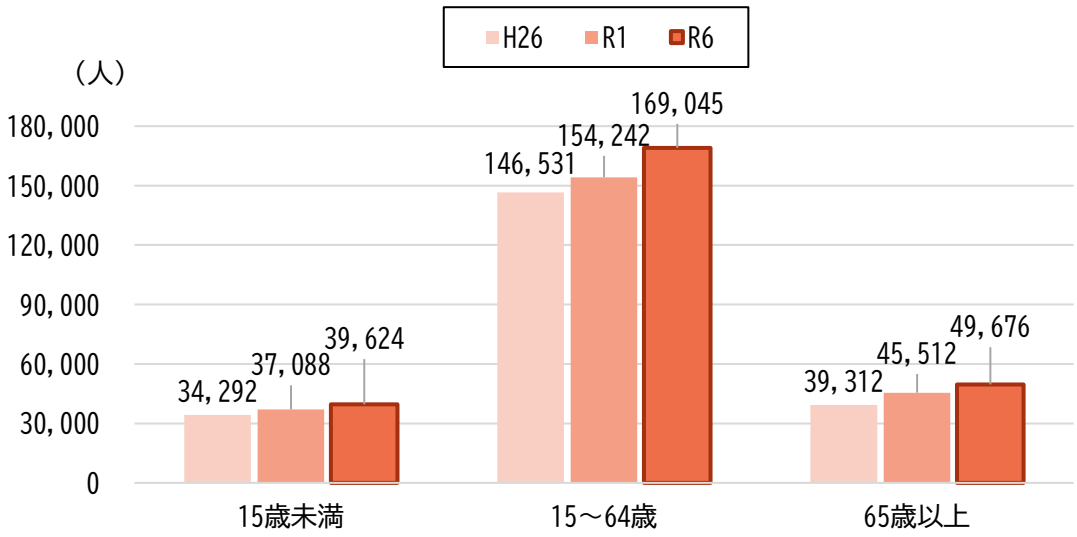


資料：住民基本台帳人口データ（平成 26 年１月１日、令和６年１月１日）

（4）年齢３区分別人口の推移

年齢３区分別人口の推移をみると、本市の人口はどの区分も増加しています。

■つくば市の年齢３区分別人口の推移

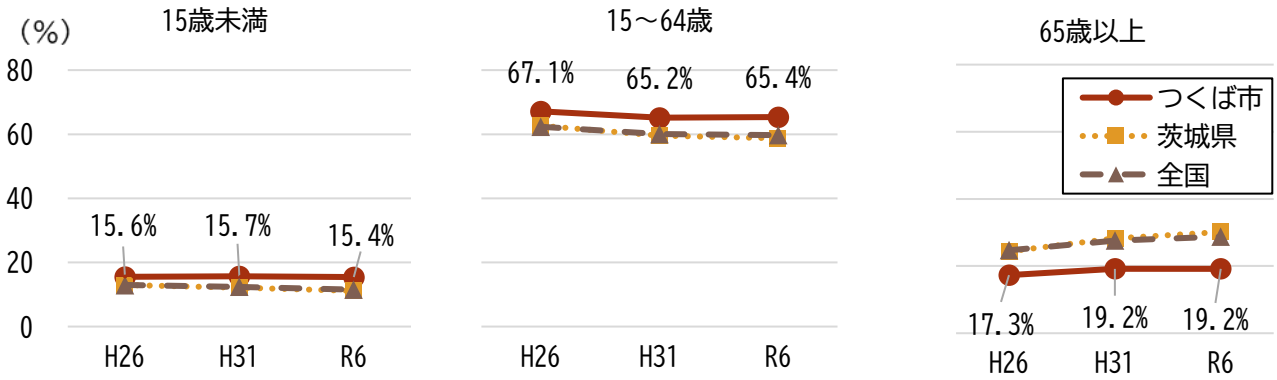


資料：行政区別年齢別人口表＜つくば市＞（各年 10 月１日現在）

（5）年齢３区分別人口比率の推移（全国・茨城県）

年齢３区分別の人口比率を全国や茨城県と比較すると、本市の 15 歳未満及び 15～64 歳は国や県よりもやや多く、65 歳以上は少なくなっています。推移をみると、本市の 15 歳未満は横ばい、15～64 歳は減少からの横ばい、65 歳以上は増加からの横ばいとなっており、国や県と比べて高齢化率は低くなっています。

■年齢３区分別人口比率の経年比較



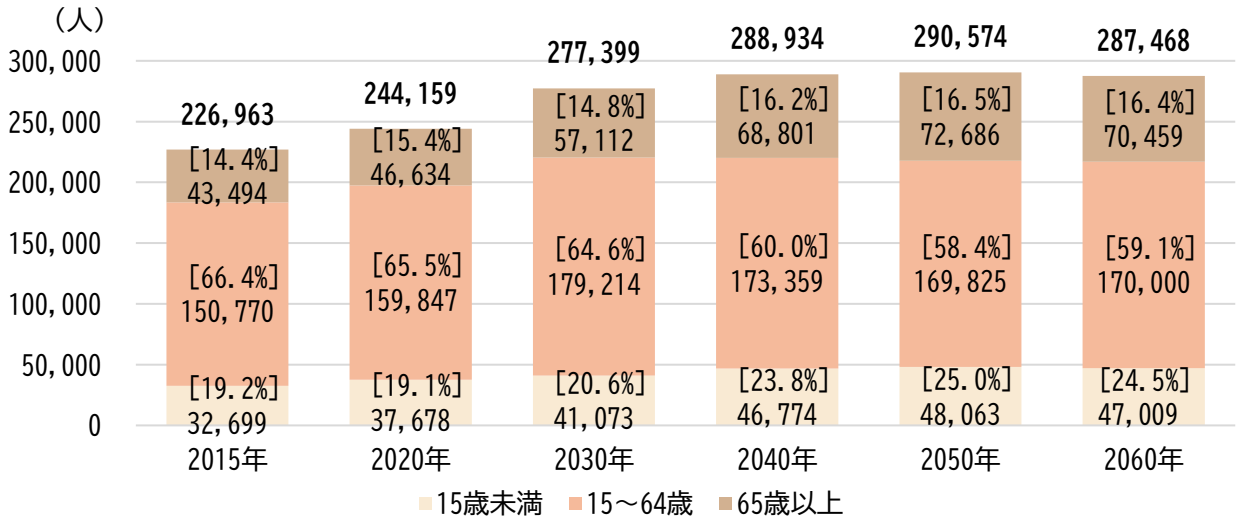
資料：住民基本台帳人口データ（各年１月１日現在）

※比率は小数点第二以下を四捨五入したものです。

（6）将来人口

「未来構想（2020 年３月）」における将来推計人口によると、本市の人口は、令和 30 年（2048 年）ごろの約 29 万人をピークに、その後は緩やかに減少に転じると想定されています。年齢３区分別の人口比率は、ピーク時までは 65 歳以上の比率が増加すると推計されています。

■将来人口の推計及び構成



資料：政策イノベーション部企画経営課

資料 1-2　つくば市の主な生涯学習関連施設の状況

（1）地域交流センター

本市の地域住民の社会教育を担う施設として、各地区で公民館が整備され、各種講座や学級、図書貸出などが行われてきました。その後、平成 22 年(2010 年)12 月策定の「つくば市地域交流センター基本計画」により、公民館の在り方を見直し、市民にとってより利便性の高い生涯学習施設となるよう、「地域交流センター」として運営体制を変更しました。令和７年度（2025 年度）現在では 16 か所の地域交流センターを設置しており、市民の様々な活動のための利用がなされています。

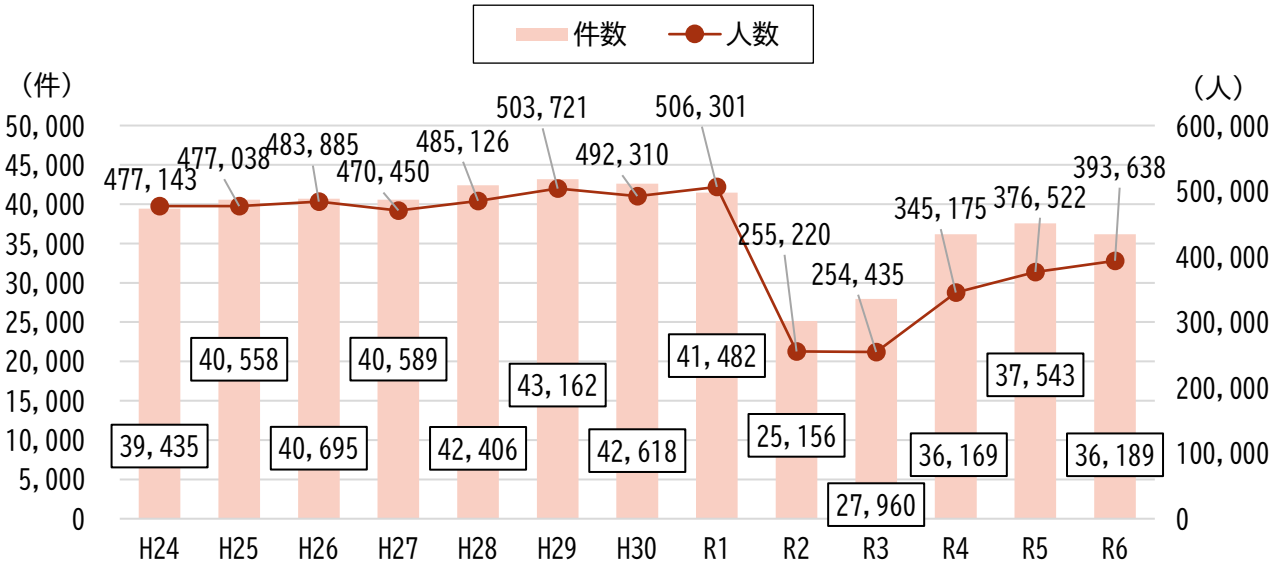
【利用状況】

利用状況をみると、概ね４万件（利用者は概ね 50 万人台）の利用で推移しており、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により一時利用が減少しましたが、近年は徐々に回復傾向にあります。コロナ以前の令和元年度（2019 年度）と令和６年度（2024 年度）を比較すると、利用件数では約９割、利用人数では約８割まで回復しています。

各施設の利用件数の推移をみると、令和６年度（2024 年度）では多くの施設がコロナ以前の令和元年度（2019 年度）の８割以上まで回復しており、栗原交流センターではコロナ以前の利用件数を大幅に超えています。

一方、筑波交流センターでは他の施設と比べると回復率がやや低く、令和６年度（2024 年度）では５割程度に留まっています。

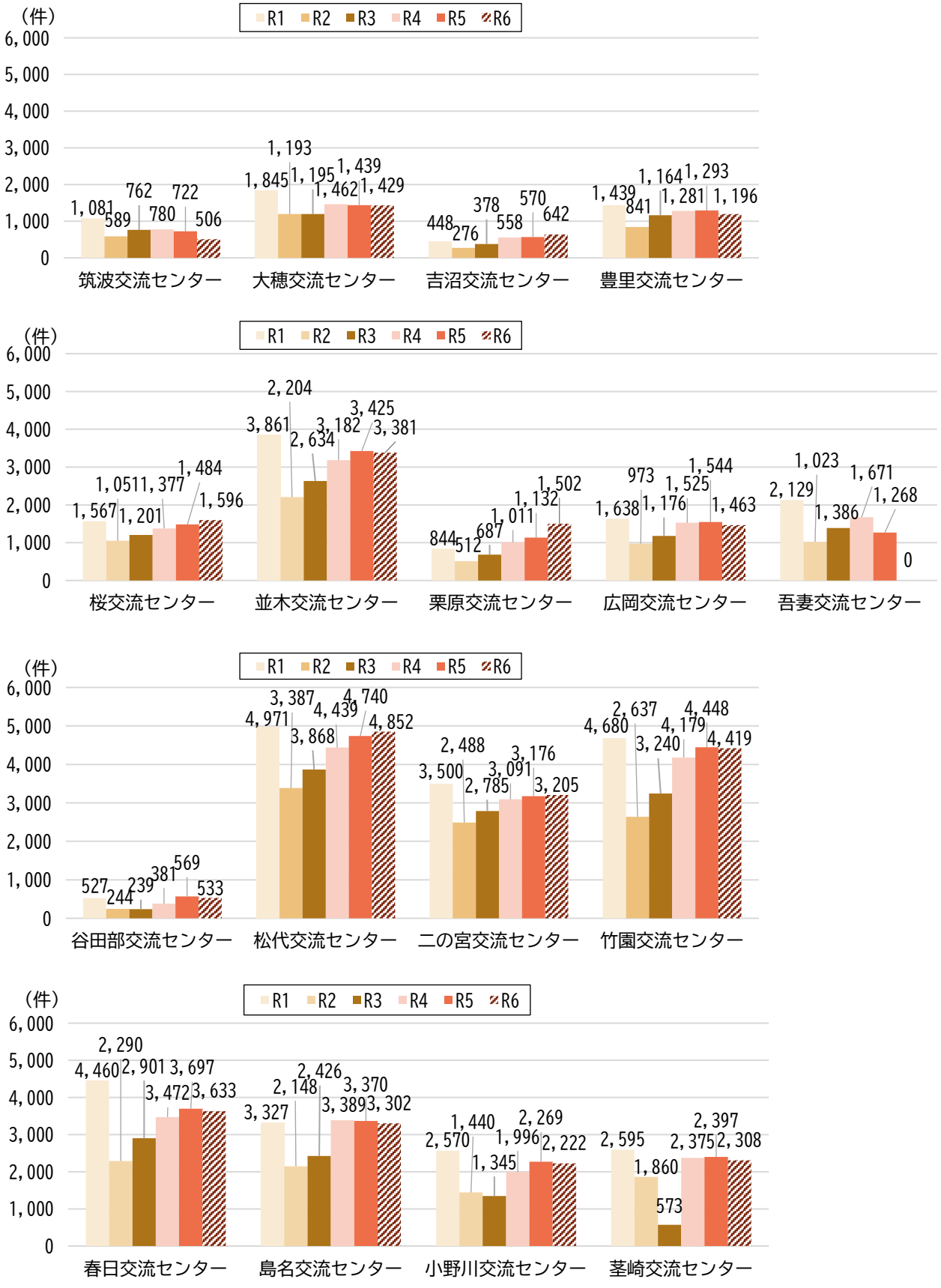
■地域交流センターの利用状況（各センターの合計）



資料：『統計つくば 2024』

※吾妻交流センターは令和５年 12 月末をもって閉館のため、令和６年からは含まない。

■地域交流センターの利用件数の推移（施設別）



資料：『統計つくば 2024』

※吾妻交流センターは令和５年 12 月末をもって閉館のため、令和６年からは含まない。

(2) ホール（ノバホール・つくばカピオ・市民ホール・アルスホール）

本市の文化芸術の振興を目的として、1,000 席の大ホールを有するノバホール、アリーナ等の多目的な利用に対応したつくばカピオ、その他、市民ホールを４か所設置しています。また、中央図書館があるつくば文化会館アルス内には、100 名規模のアルスホールも有しており、幅広い市民のニーズにこたえています。

【利用状況】

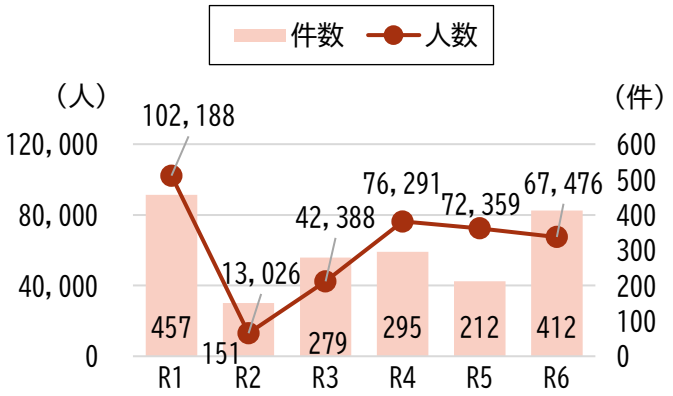
利用件数・利用人数共に、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により令和２年度（2020 年度）に利用が減少しましたが、近年は徐々に回復傾向にあります。

コロナ以前の令和元年度（2019 年度）と令和６年度（2024 年度）を比較すると、ノバホールについては、利用件数は約９割まで回復していますが、利用人数は令和５年度(2023 年度)から再び減少し、約７割程度となっています。

つくばカピオと市民ホールでは、利用件数はコロナ以前を超えており、利用人数についても約８割以上回復しています。アルスホールでは利用件数が近年増加傾向にありましたが、令和６年度（2024 年度）は改修工事による利用時間の制限のため大幅に減少しています。

①ノバホール

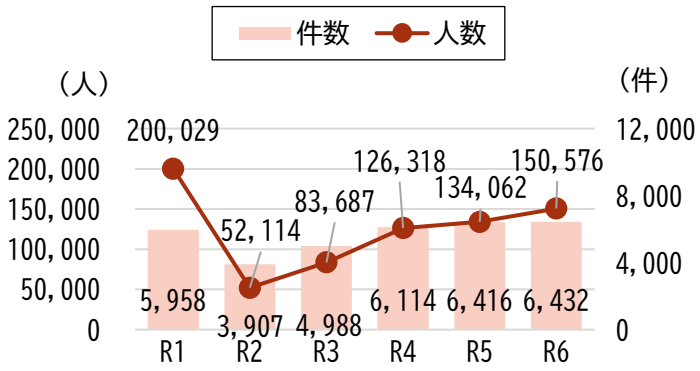
国内有数の音響効果を持つ音楽ホールである大ホールと小規模な演奏会に対応した小ホールからなり、オーケストラやコンサートなどを始め、映画、演劇等の鑑賞会や市民オーケストラ、市民劇団の発表等、地域の芸術・文化活動の拠点として利用されています。



資料：市民部芸術文化推進課

②つくばカピオ

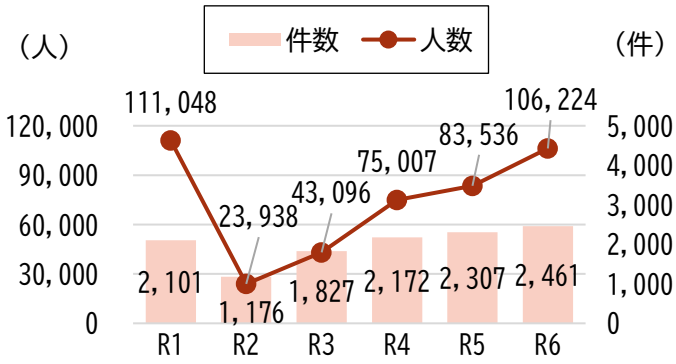
各種室内スポーツや集会などの多目的な利用のためのアリーナ、演劇利用を主目的とした劇場、その他文化関係の諸室によって構成されており、幅広い市民のニーズに対応した施設となっています。



資料：市民部芸術文化推進課

③市民ホール

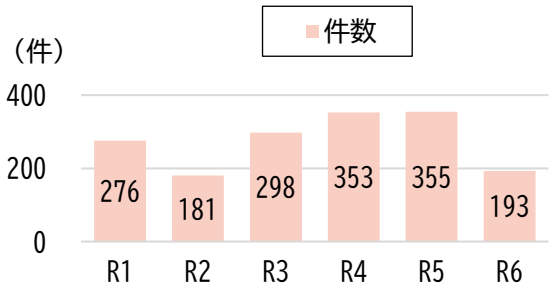
つくば市合併以前に各町村にあった圏民センター内のホールを、引き続き市民の文化と教養の向上を図り、市民福祉に資するため、市民ホールとして４か所（やたべ、くきざき、とよさと、つくばね）に設けています。



資料：市民部地域支援課

④アルスホール

つくば文化会館アルス内に設置された 100 名収容できる多目的ホールで、音楽会や講演会といった文化芸術活動の場として利用されています。



資料：教育局中央図書館

（3）図書館

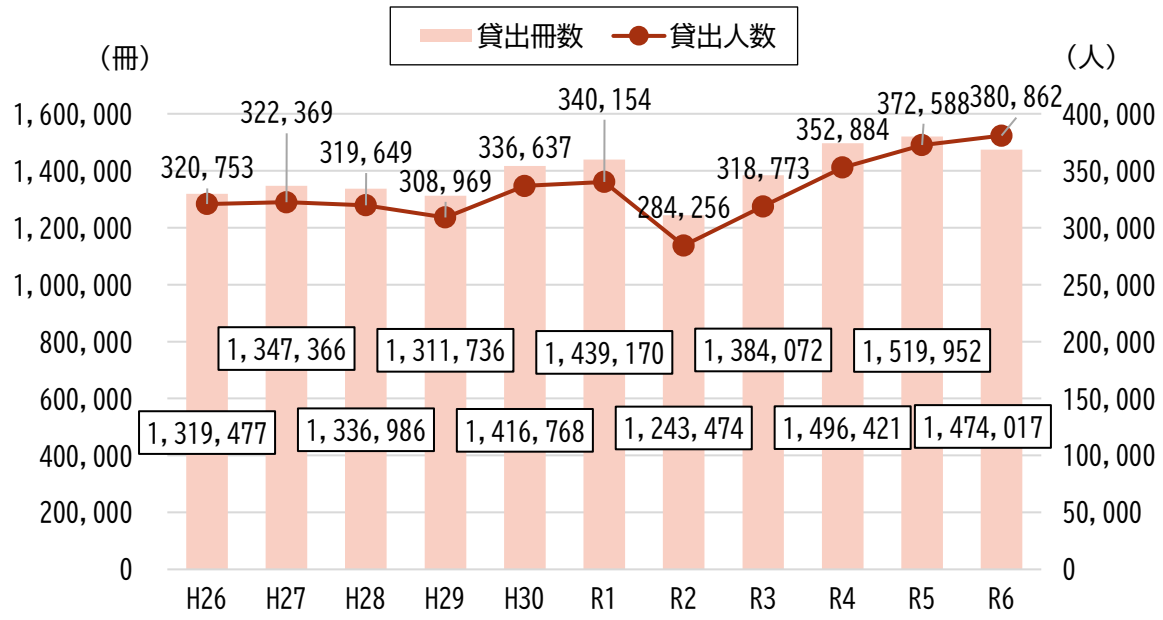
本市では、市民の生涯学習を支援するとともに、文化情報資源を受発信する「知」の拠点として、中央図書館及び４か所の地域交流センター図書室（谷田部・筑波・小野川・茎崎）に加え、土日祝のみ一般利用可能な小学校図書館（研究学園小学校、みどりの南小学校）が設けられています。また、図書の検索や予約、リクエストなどが可能なオンラインサービスも提供しており、各図書施設と連携した一体的な図書館サービスを実施しています。

さらには、いつでもどこでも読書ができる電子図書館サービスや、広い市内にあっても図書館サービスが利用できるよう、小学校や高齢者施設など市内 63 か所（令和７年度（2025 年度）現在）のステーションを巡回する自動車図書館、送付貸出・返却サービスも実施しています。

【利用状況】

近年の利用状況をみると、新型コロナウイルス感染症の感染拡大で令和２年度（2020 年度）に大きく減少したものの、翌年からは回復傾向にあり、貸出人数は 30 万人を超えるペースで推移しています。貸出冊数も同様に 140 万冊から 150 万冊程度で推移しています。平成 30 年度（2018 年度）からの開館時間の延長もあり、令和６年度（2024 年度）では貸出人数が近年最も多くなっています。

■図書館の利用状況



資料：『統計つくば 2024』
※貸出冊数は交流センター図書室、自動車図書館、学校図書館、電子書籍を含む。

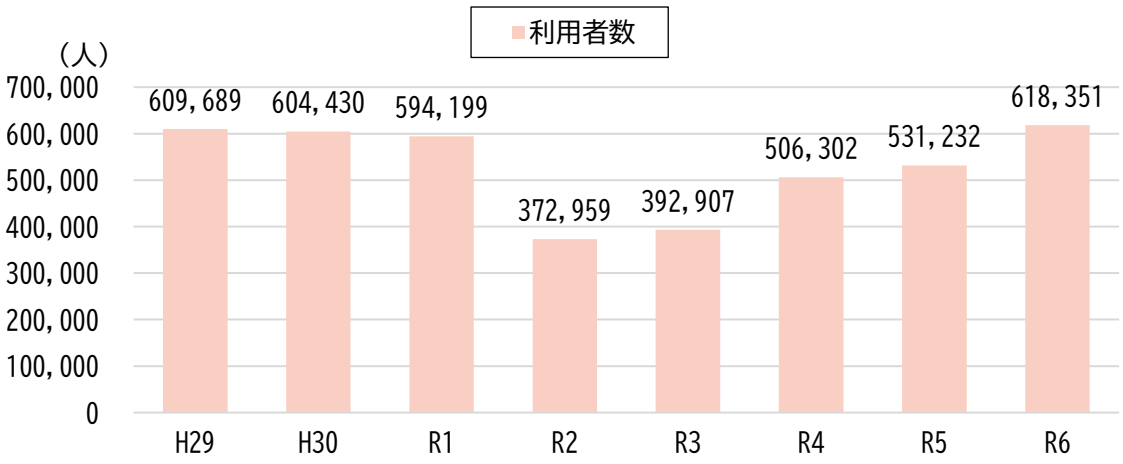
（4）スポーツ関連施設（体育館等）

市内には、多くの市民がスポーツに取り組めるよう、体育館、テニスコート、武道場、野球場やサッカーコートなど、様々なスポーツのニーズに対応した施設を有しています。また、多くのスポーツ施設は、オンラインでの利用予約が可能であり、市民の利便性を高めています。

【利用状況】

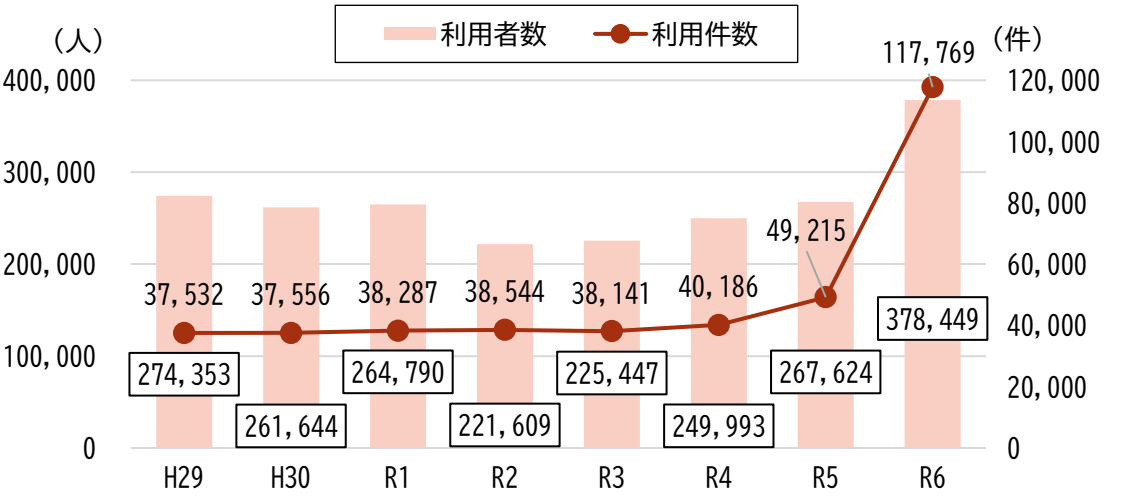
近年の利用状況をみると、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により令和２年度から３年度（2020 年度から 2021 年度）に大きく利用が減少したものの、翌年からは回復傾向にあります。

■スポーツ施設の利用者数（スポーツ施設課管理　有料施設分）



資料：『主要施策の成果及び予算執行の実績報告書』

■スポーツ施設の利用者数（公園・施設課管理　有料施設分）



資料：『主要施策の成果及び予算執行の実績報告書』

※流星台スケートボードパークが令和５年４月新設、洞峰公園が令和６年２月に県から市に移管。

（5）学校開放事業

「つくば市学校開放条例」に基づき、特別教室や体育館といった一部の学校施設を学校教育に支障のない範囲において開放し、市民の利用に供することにより、生涯学習及びスポーツの振興を図ることを目的として、つくば市学校開放事業を実施しています。

【特別教室の利用状況】

令和７年（2025 年）３月時点で、小学校３校にある８つの特別教室を、土曜日・日曜日・祝日に貸し出しています。本事業は令和５年（2023 年）10 月に開始され、令和６年度（2024 年度）は 63 回の利用がありました。

■特別教室

	特別教室
香取台小学校	家庭科室、図工室、音楽室
研究学園小学校	家庭科室、多目的室
みどりの南小学校	家庭科室、音楽室、多目的室

【学校体育施設の開放状況】

学校体育施設については、体育館、武道場、運動場を開放しています。令和７年（2025 年）３月時点で、全 52 校中（廃校２校含む。）49 校の体育施設で開放を行っており、多様なスポーツ・レクリエーション活動に利用されています。

■学校体育施設の開放状況（推移）　（単位：施設）

	R３	R４	R５	R６
体育館	45	45	46	49
運動場	32	32	30	29
武道場	12	12	12	13

（6）文化財関連施設

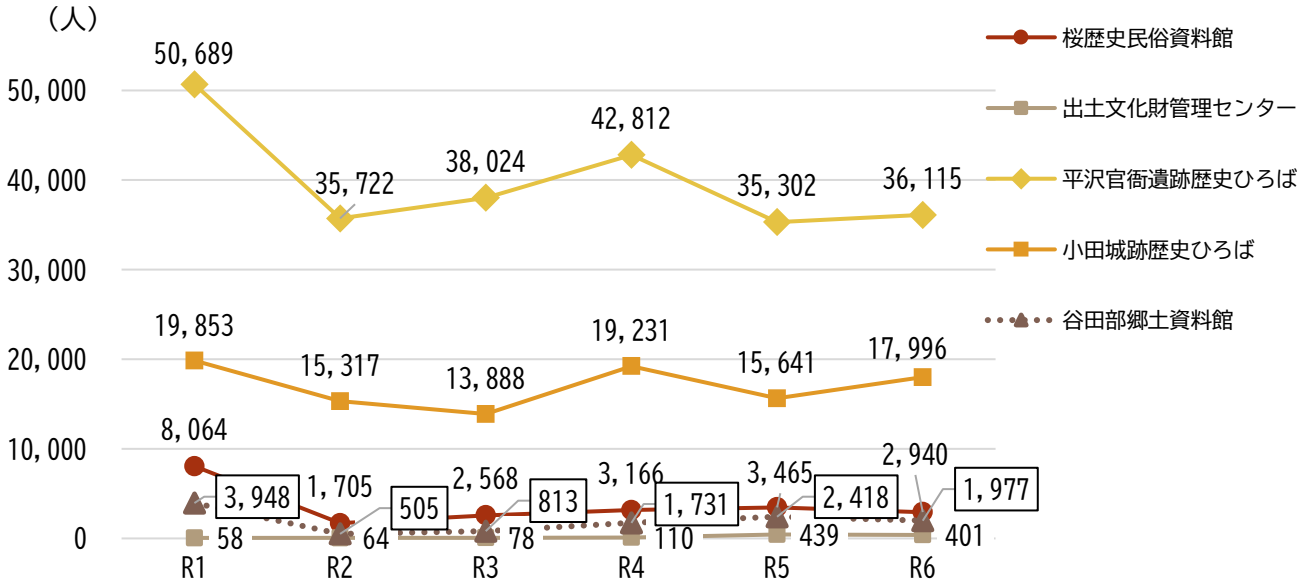
本市には古代の郡役所跡や中世の城館などの歴史的にも貴重な遺跡や、それらの遺跡から出土した土器や地域の文化財を展示する施設が市内各所にあります。

【利用状況】

近年の利用状況をみると、新型コロナウイルス感染症の感染拡大で令和２年度（2020年度）に大きく減少し、翌年からは増減はありますが概ね回復傾向にあります。

なお、出土文化財管理センターに関しては、令和６年度（2024 年度）にはコロナ以前よりも高い利用状況となっています。

■各文化財関連施設の利用状況推移



資料：教育局中央図書館

※平沢官衙遺跡歴史ひろばは、令和5年度から令和8年度まで再整備工事を実施（一部立入禁止の箇所あり）

①桜歴史民俗資料館

桜地区内にある多数の発掘出土品、民具、古文書等を保存、展示しています。ナウマン象の化石や縄文時代の料理など、貴重で興味深い展示が多数そろっています。

②出土文化財管理センター

市内の遺跡発掘調査による出土品を保管、一部を展示しています。

③平沢官衙遺跡歴史ひろば

平沢官衙遺跡は、古代（奈良・平安時代）の常陸国筑波郡の郡役所跡と想定される遺跡で、昭和 55 年（1980 年）に国の史跡指定を受けました。校倉、土倉、板倉の３棟を復元して古代空間を再現し、案内所を併設しています。

④小田城跡歴史ひろば

小田城跡は、鎌倉から戦国時代まで常陸国南部で最大の勢力を誇った小田氏の居城跡で、昭和 10 年(1935 年)に国の史跡指定を受けました。堀と土塁に囲まれた本丸空間内に池等を復元しており、小田氏と小田城跡について学習できる案内所も設けています。

⑤谷田部郷土資料館

谷田部地区内の文化財を収集し、展示したもので、江戸時代の発明家「飯塚伊賀七」が製作した木製和時計の復元品があります。

(7) その他の生涯学習関連施設

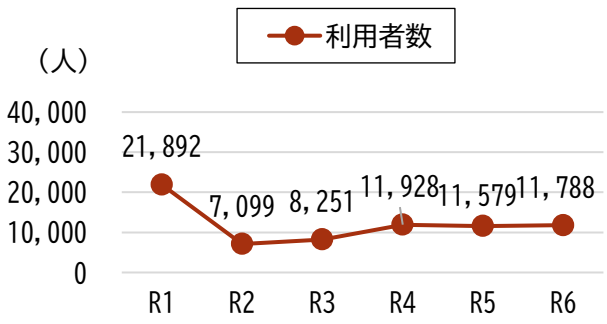
その他、本市では生涯学習に関する取組を各施設で行っています。

【利用状況】

近年の利用状況をみると、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で利用者数や利用件数が減少していましたが、殆どの施設において令和２年度（2020 年度）以降、概ね年々増加し回復傾向にあります。なお、令和６年度（2024 年度）の利用者数をみると、さくら民家園、働く婦人の家については、コロナ以前の利用者数を上回っています。

①筑波ふれあいの里

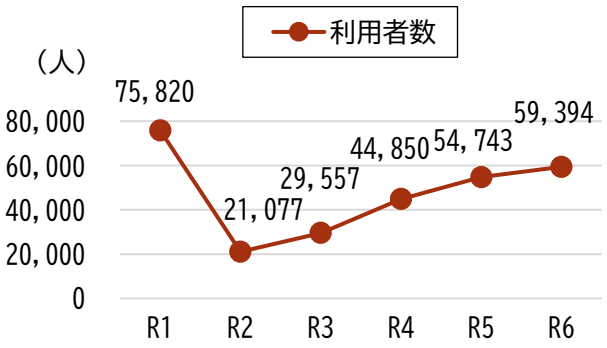
筑波山麓の豊かな自然環境の保全や活用を通じて、学童、都市生活者及び市民等に自然と農業に親しむ機会、憩いの場として設置されています。



資料：経済部筑波ふれあいの里

②豊里ゆかりの森

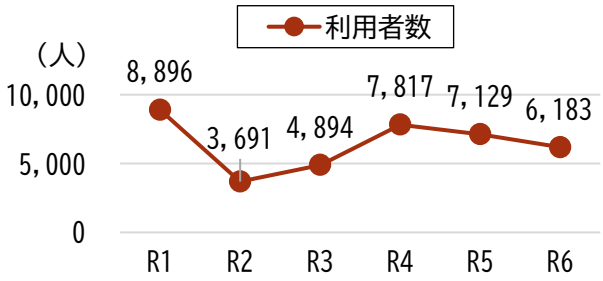
植物、昆虫、野鳥等とふれあえる豊かな自然環境の中、体験・宿泊余暇活動の施設として、快適な環境を提供することにより、利用者のやすらぎと自然環境保護思想の普及及び向上に寄与することを目的に設置されています。



資料：経済部豊里ゆかりの森

③茎崎こもれび六斗の森

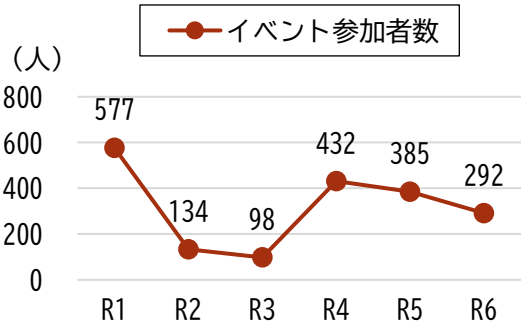
自然とのふれあい及び野外活動の場として、キャンプ場などが整備されています。



資料：経済部茎崎こもれび六斗の森

④高崎自然の森

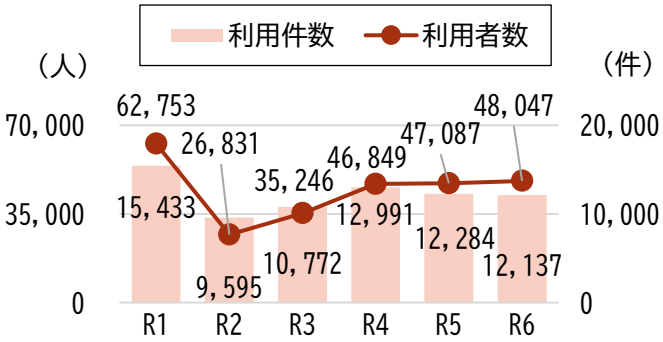
自然環境の保全と緑の育成を図り、人と自然とのふれあいの場を提供するとともに、自然環境や森林資源を活用した自然環境教育や森づくり体験、農業体験などにより、森林が持つ公益機能の理解や自然環境保全の取組について学ぶことができる施設です。



資料：経済部鳥獣対策・森林保全室

⑤ふれあいプラザ

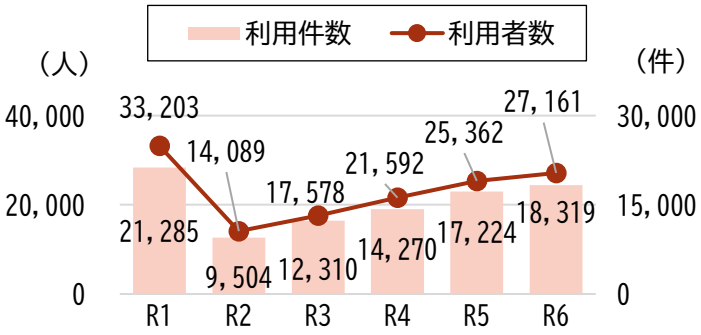
市民に自主的な活動及び交流の場を提供し、生涯にわたる学習活動を総合的に支援することにより、豊かな生涯学習社会の実現に寄与するために設置されています。



資料：市民部地域支援課

⑥市民研修センター

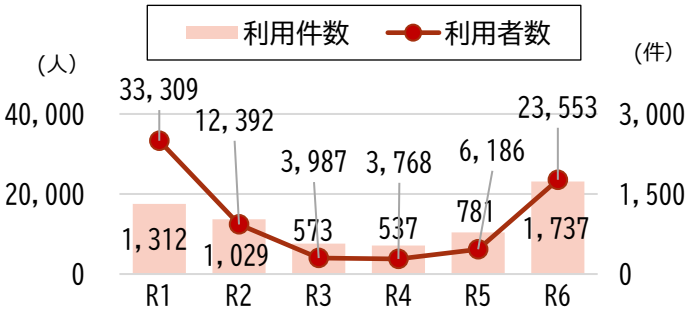
市民の生涯学習活動や企業研修の場として、幅広い利用に対応できる施設です。



資料：教育局生涯学習推進課

⑦コミュニティ棟　会議室

つくば市役所のコミュニティ棟（１階）は、市民に開放されており、会議室６室、オープンスペース、キッズスペース、図書館の予約本の受取りの利用ができる施設です。

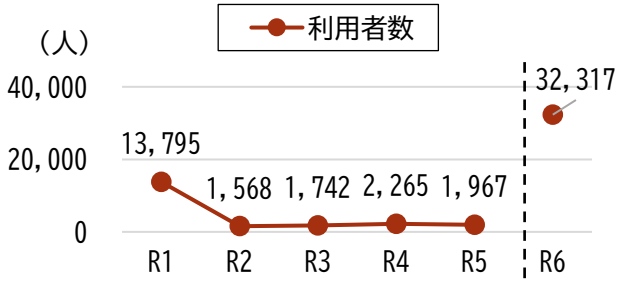


※会議室６室の合計利用件数及び利用者数

資料：市民部地域支援課

⑧つくば市民センター

市民活動センターと吾妻交流センターを令和６年（2024 年）１月に閉館し、同年２月につくば市民センターが開館しました。市民の主体的な活動を支援するとともに、幅広い層の市民が集い交流し、地域に愛着と誇りを持って暮らせる地域社会の形成を図ることを目的とした施設です。市民活動拠点コリドイオ内に設置されています。

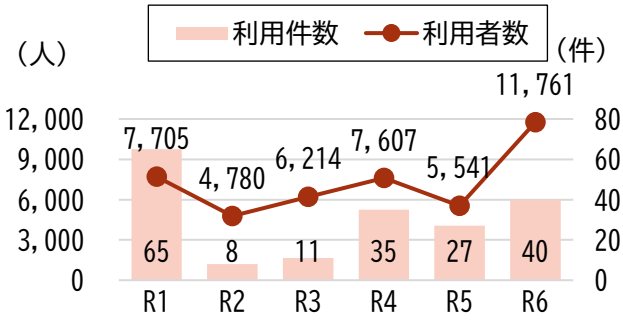


※令和５年度までは市民活動センターと吾妻交流センターの合計。令和６年度はコリドイオ内設置後の利用者数。

資料：市民部つくば市民センター

⑨さくら民家園

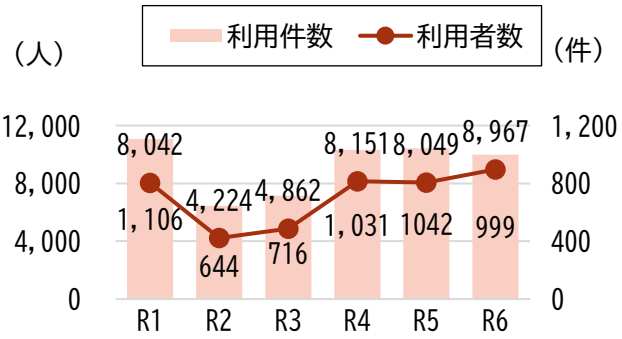
伝統的古民家を移築し、一般公開しており、市内の学校の授業で活用されています。



資料：教育局生涯学習推進課

⑩働く婦人の家

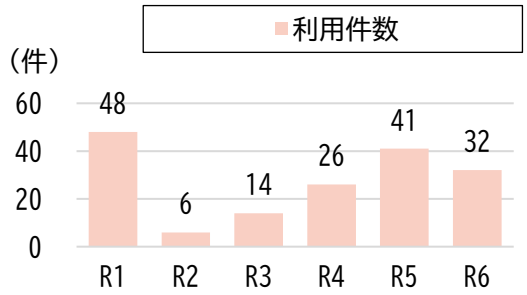
勤労者やその家庭の主婦などのほか、これから働くことを希望する女子勤労者のために相談・指導・実習などを行い、知識・教養の向上と休養及びレクリエーションの場を提供しています。前期・後期・冬期に各種講座を開設しています。



資料：市民部働く婦人の家

⑪つくば市民ギャラリー

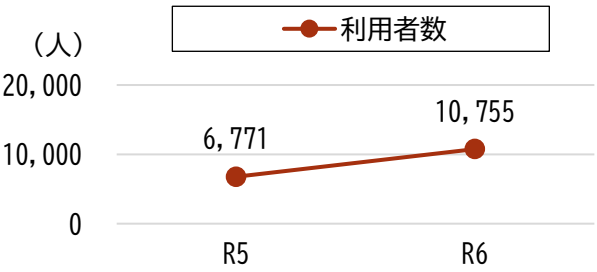
中央公園内にあるレストハウスの一角を利用したギャラリーです。美術を目的とする利用を優先していますが、予約に空きのある場合は、音楽会や各種ワークショップ等、その他の目的でも利用できます。



資料：建設部公園・施設課

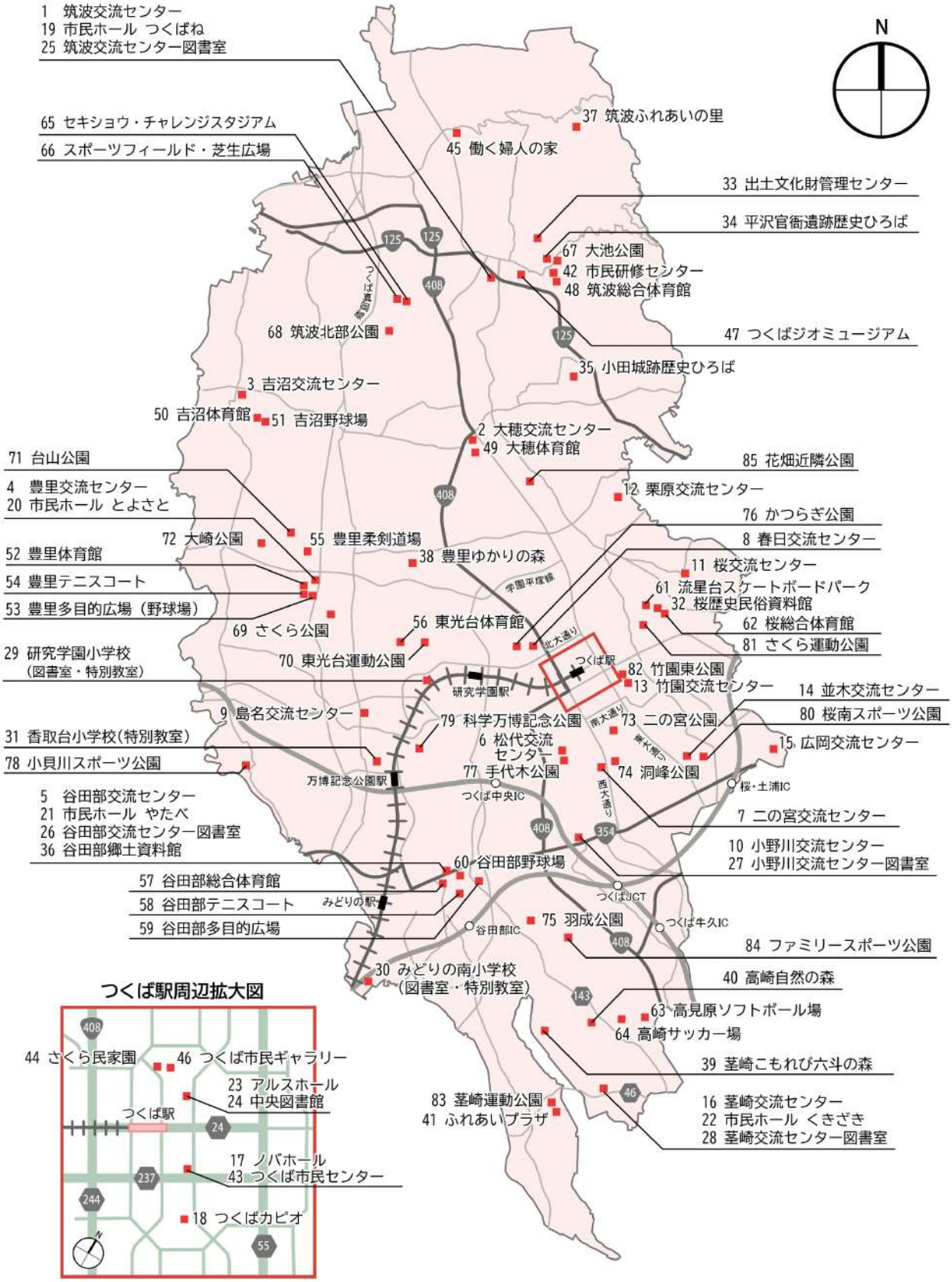
⑫つくばジオミュージアム

筑波山地域ジオパークの中核となる拠点施設として令和５年（2023 年）11 月に開設しました。１階展示スペースは、教育や観光振興を目的とした自然や文化を次世代に伝える体験型展示施設となっています。なお、当施設はサイクリング文化を支援する「サイクルパークつくば」との複合施設（筑波山ゲートパーク）となっています。



資料：経済部ジオパーク室

■施設位置図


1 筑波交流センター
19 市民ホール つくばね
25 筑波交流センター図書室
65 セキショウ・チャレンジスタジアム
66 スポーツフィールド・芝生広場
37 筑波ふれあいの里
45 働く婦人の家
33 出土文化財管理センター
34 平沢官衙遺跡歴史ひろば
67 大池公園
42 市民研修センター
48 筑波総合体育館
47 つくばジオミュージアム
35 小田城跡歴史ひろば
68 筑波北部公園
3 吉沼交流センター
50 吉沼体育館
51 吉沼野球場
2 大穂交流センター
49 大穂体育館
71 台山公園
4 豊里交流センター
20 市民ホール とよさと
72 大崎公園
55 豊里柔剣道場
52 豊里体育館
54 豊里テニスコート
53 豊里多目的広場（野球場）
69 さくら公園
38 豊里ゆかりの森
56 東光台体育館
70 東光台運動公園
29 研究学園小学校
（図書室・特別教室）
85 花畑近隣公園
12 栗原交流センター
76 かつらぎ公園
8 春日交流センター
11 桜交流センター
61 流星台スケートボードパーク
32 桜歴史民俗資料館
62 桜総合体育館
81 さくら運動公園
学園平塚線
北大通り
つくば駅
研究学園駅
82 竹園東公園
13 竹園交流センター
14 並木交流センター
80 桜南スポーツ公園
9 島名交流センター
79 科学万博記念公園
6 松代交流センター
77 手代木公園
73 二の宮公園
南大通り
東大橋口
15 広岡交流センター
74 洞峰公園
31 香取台小学校(特別教室)
78 小貝川スポーツ公園
万博記念公園駅
つくば中央IC
西大通り
桜・土浦IC
5 谷田部交流センター
21 市民ホール やたべ
26 谷田部交流センター図書室
36 谷田部郷土資料館
7 二の宮交流センター
10 小野川交流センター
27 小野川交流センター図書室
60 谷田部野球場
57 谷田部総合体育館
58 谷田部テニスコート
59 谷田部多目的広場
みどりの駅
つくばJCT
谷田部IC
75 羽成公園
つくば牛久IC
84 ファミリースポーツ公園
30 みどりの南小学校
（図書室・特別教室）
40 高崎自然の森
63 高見原ソフトボール場
64 高崎サッカー場
39 茎崎こもれび六斗の森
83 茎崎運動公園
41 ふれあいプラザ
16 茎崎交流センター
22 市民ホール くきざき
28 茎崎交流センター図書室
N
つくば駅周辺拡大図
44 さくら民家園
46 つくば市民ギャラリー
23 アルスホール
24 中央図書館
つくば駅
17 ノバホール
43 つくば市民センター
18 つくばカピオ

■施設位置一覧

No	施設名	住所
地域交流センター		
1	筑波交流センター	北条 5060
2	大穂交流センター	筑穂 1-10-4
3	吉沼交流センター	吉沼 790
4	豊里交流センター	高野 1197-20
5	谷田部交流センター	谷田部 4774-18
6	松代交流センター	松代 4-16-3
7	二の宮交流センター	二の宮 4-6-2
8	春日交流センター	春日 2-36-1
9	島名交流センター	島名 784-30
10	小野川交流センター	館野 477-1
11	桜交流センター	松塚 1036-2
12	栗原交流センター	栗原 5386-2
13	竹園交流センター	竹園 3-19-2
14	並木交流センター	並木 4-2-1
15	広岡交流センター	下広岡 410-167
16	茎崎交流センター	小茎 318
ホール		
17	ノバホール	吾妻 1-10-1
18	つくばカピオ	竹園 1-10-1
19	市民ホール つくばね	北条 5060
20	市民ホール とよさと	高野 1197-20
21	市民ホール やたべ	谷田部 4711
22	市民ホール くきざき	小茎 318
23	アルスホール	吾妻2-8 つくば文化会館アルス内
図書館・図書室		
24	中央図書館	吾妻2-8 つくば文化会館アルス内
25	筑波交流センター図書室	北条 5060
26	谷田部交流センター図書室	谷田部 4774-18
27	小野川交流センター図書室	館野 477-1
28	茎崎交流センター図書室	小茎 318
29	研究学園小学校図書室	研究学園 2-26
30	みどりの南小学校図書室	みどりの南 106-3
学校開放事業（特別教室）		
31	香取台小学校	島名 1716
29※	研究学園小学校	研究学園 2-26
30※	みどりの南小学校	みどりの南 106-3
文化関連施設		
32	桜歴史民俗資料館	流星台 61-1
33	出土文化財管理センター	平沢 81
34	平沢官衙遺跡歴史ひろば	平沢 353
35	小田城跡歴史ひろば	小田 2377
36	谷田部郷土資料館	谷田部 4774-18
その他の生涯学習関連施設		
37	筑波ふれあいの里	臼井 2090-20
38	豊里ゆかりの森	遠東 676
39	茎崎こもれび六斗の森	六斗 1002
40	高崎自然の森	高崎 1078-1

No	施設名	住所
41	ふれあいプラザ	下岩崎 2164-1
42	市民研修センター	北条 1477－1
43	つくば市民センター	吾妻 1-10-1 コリドイオ内
44	さくら民家園	吾妻 2-7-5
45	働く婦人の家	沼田 40-2
46	つくば市民ギャラリー	吾妻 2-7-5
47	つくばジオミュージアム	北条 4160
スポーツ関連施設及び公園		
48	筑波総合体育館	北条 1477-1
49	大穂体育館	筑穂 1-10-4
50	吉沼体育館	西高野 821
51	吉沼野球場	
52	豊里体育館	高野 1197-20
53	豊里多目的広場（野球場）	
54	豊里テニスコート	
55	豊里柔剣道場	今鹿島 4262
56	東光台体育館	東光台 5-13-5
57	谷田部総合体育館	谷田部 4711
58	谷田部テニスコート	谷田部 5210
59	谷田部多目的広場	谷田部 5665
60	谷田部野球場	
61	流星台スケートボードパーク	流星台 59
62	桜総合体育館	流星台 63
63	高見原ソフトボール場	高見原 3-5-1
64	高崎サッカー場	高崎 14-1
65	セキショウ・チャレンジスタジアム	山木 1562
66	スポーツフィールド・芝生広場	
67	大池公園	北条 1477-1
68	筑波北部公園	北原 1
69	さくら公園	豊里の杜 2-87-48
70	東光台運動公園	東光台 5-1-2
71	台山公園	緑ケ原 2-4
72	大崎公園	緑ヶ原 4-5
73	二の宮公園	二の宮 1-15
74	洞峰公園	二の宮 2-20
75	羽成公園	観音台 1-27
76	かつらぎ公園	春日 2-39-3
77	手代木公園	松代 5-11
78	小貝川スポーツ公園	高良田 455-1
79	科学万博記念公園	御幸が丘 6
80	桜南スポーツ公園	並木 3-21-2
81	さくら運動公園	金田 1603
82	竹園東公園	竹園 3-7
83	茎崎運動公園	下岩崎 2160-10
84	ファミリースポーツ公園	菅間 269-1
85	花畑近隣公園	花畑 3-11-5

※は再掲

資料 1-3　市民意向の動向

(1) アンケート

市民の生涯学習の現状、生涯学習に対する考えや要望等を把握し、本計画の策定や施策の推進に役立てることを目的として「つくば市生涯学習に関する市民意識アンケート」（市民意識アンケート）、「児童生徒 WEB アンケート」（児童生徒アンケート）の２種類の調査を実施しました。

1）調査概要

調査対象	調査方法	調査期間	回収結果
①市民 （無作為抽出した 18 歳以上市民）	郵送/WEB （選択式）	令和６年(2024 年) 11 月８日～25 日 ※12/25 戻分まで反映	配付：3,000 票 回収：769 票（紙:451/WEB:318） 回収率：25.6%
②児童生徒 （５年生、８年生）	WEB	令和６年(2024 年) 11 月 22 日～ 12 月 24 日	配付：4,796 票（５年生 2,637/８年生 2,159） 回収：3,484 票（５年生:1,822/８年生:1,662） 回収率：72.6%（５年生:69.1%/８年生:77.0%）

※「つくば市生涯学習に関する市民意識アンケート」、「児童生徒 WEB アンケート」の詳細は、調査報告書として市のホームページ（右の二次元コード）にて公開しています。

2）結果概要

①市民意識アンケート　結果概要

- この１年間で生涯学習に取り組んだ方が６割、今後学びたいと思っている方は８割以上。
- 現在、忙しくて学んでいない方が多く、簡単にできる学習方法が求められている。
- 学びの情報としては「講座・イベント」、「施設」の情報が求められている。
- 学習成果をつくば市のまちづくりに役立てたいと考えている割合は４割強にとどまっている。
- 知識を得たり、役に立つことに幸せを感じる方は８割以上と多いが、地域との関わりが広がることに幸せを感じる方については６割とやや少ない。
- 「社会力」を高めるには「交流機会」の創出が重要との意見が多い。
- 世代ごとのニーズに合った講座等を求める意見が多く、高齢世代では成果をいかす場や仕組みづくり等の環境についての意見も多い。

■この１年間の「学び」について

〇この１年間で何かを学んだり、技能を高めたりしたことが「ある」方が６割以上となっており、手法は「自宅での学習」が最も多くなっています。

〇学びの成果については、「自分の人生を豊かにしている」や「仕事や就職の上でいかしている」が多くなっています。

〇現在学んでいない方の理由としては、「忙しくて時間がない」が最も多くなっています。

〇忙しくて時間がない方がどうしたら学習意欲がわくかについては、「簡単にできる学習方法があったら」が最も多く、次いで「仕事等に必要な学習内容があったら」となっています。

〇知りたい学びの情報は「催しもの・講座情報」や「利用可能な施設内容や利用方法」が多く、情報入手の手段としては「広報つくば」が５割以上で多くなっています。

■これからの「学び」について

〇今後何かを学んだり、身につけたり、技能を高めたいと「思う」方が８割以上となっています。

〇若者・大人世代は仕事等に関して、高齢世代は健康に関して学びの意欲が高くなっています。

〇学びたい方法としては、「市が行う講座や講習会」、「自宅での学習活動」が多くなっています。

〇学習成果をつくば市のまちづくりに役立てたいと考えている割合は４割強にとどまっています。役立てたいと思わない方の理由については、「自己の楽しみや自主学習が目的だから」が最も多く（約６割）、次いで「自身の知識・技術が未熟だと思うから」（３割強）となっています。

〇役立てたい方のいかし方については、「個人の資格等を活用し、職業を通しての社会貢献」と、「ボランティア活動や地域活動等の実践や指導」が多くなっています。

■日頃の生活や、地域のことについて

〇知識を得たり技能が磨かれることへの充実感（幸せ）を感じている方や、誰かの役に立つことへの満足感（幸せ）を感じている方が８割以上となっています。一方、人や地域と関わり、関係性が広がる・深まることへの充実感（幸せ）を感じている方は６割以上となっています。

〇コミュニティ・スクールの取組の認知度は「知らない」が約７割となっています。特に、若者世代で認知度が低くなっています。

〇地域学校協働活動への参加については、「活動内容によっては参加したい」が最も多く、次いで「参加したいが難しい」となっています。（参加意向を示している方は３割以上）。

■つくば市の生涯学習について

〇「社会力」の考え方の認知度は、「言葉も考え方も知っている」、「言葉のみ知っている」方が約４割となっています。特に、大人（働き）世代（の内 30 代）で認知度が低くなっています。

〇「社会力」を高めるアイデアとして、主に地域や多世代間の「交流機会」の創出、市民が「学ぶ機会」や「成果をいかす機会」を増やすといった意見が多くなっています。

〇本市に力をいれて欲しいと思う取組については、「子育てにいかせる学習機会づくり」と「仕事にいかせる学習機会づくり」が多くなっています。

〇自由意見について、若者・大人（働き）世代（10～50 代）では、主に「講座・イベント」、「今後取り組みたいこと」についての意見が多く、特に土日開催の講座等を望む声が多くなっています。子育て世代（乳幼児～小学生までのお子さんを持つ方）では、主に「講座・イベント」、「子育て世代のサポート」についての意見が多く、共通して託児サービスや親子で参加できる

機会を望む声が多くなっています。
高齢者の世代（60～80 代）では、主に「今後取り組みたいこと」、「情報発信」、「環境づくり」についての意見が多く、情報発信については、発信方法に工夫を求める意見、環境づくりとしては、つながり・高齢者が外出する機会づくりや、知識・成果をいかす場・仕組みを求める声が多くなっています。

②児童生徒アンケート　結果概要

●現在授業以外での学びがある児童生徒は７割以上で、学習塾やスポーツ関係の習いごとが多い。
●今後学びたいもの、地域で教わりたいものについてもスポーツ関係は人気。
●生徒より児童の方が、つくば市は大人になっても学びたいことが学べるまちという意識がある。
●児童生徒共に地域とのつながりは比較的良好であり、地域のお祭りなどへの参加が多い。

■授業以外の学び（取組）について

〇授業・部活動以外で学んでいることがある児童生徒は共に７割以上となっています。
〇その内容は、児童生徒共に「学習塾」と「スポーツ系の習いごと」が多くなっています。
〇これから学びたい・取り組みたい内容としては、児童生徒共に「スポーツや健康に関すること」が最も多くなっています。次いで児童は「工作や DIY に関すること」、生徒は「音楽や美術、書道、映画など芸術活動に関すること」が多くなっています。
〇上記を気軽に学ぶ機会があったら「参加したい」が児童生徒共に８割以上となっています。
〇これから学びたい・取り組みたい内容がない児童生徒は約１割おり、その理由は、児童生徒共に「興味がない・面倒くさい」が最も多く、次いで児童は「時間や余裕がない」、生徒は「学びたいことや取り組みたいことがわからない」となっています。
〇つくば市は大人になっても学びたいことが学べるまちだと思うかについては、児童は８割以上、生徒は７割が「思う」と回答しています。

■地域のことについて

〇地域の人とよくあいさつしたり、話をしたりするかについては、児童生徒共に７割以上が「思う」と回答しています。
〇地域の行事やボランティアへの参加については、児童生徒共に「地域のお祭り」や、「地域のゴミ拾いや花植えなどの清掃・美化活動」が多くなっています。
〇地域の人から何かを教わったり、一緒に取り組んだ経験の有無については、児童生徒共に「教わったり取り組んだことはない・わからない」が最多となっていますが、教わった内容の中では、児童は「自然や環境に関すること」や「スポーツなどに関すること」、生徒は「職業体験に関すること」や「スポーツなどに関すること」が多くなっています。
〇今後地域の人から教わってみたいことや、地域でやってみたいことについては、主に「スポーツなどに関すること」、「伝統芸能・歴史文化に関すること」が多く、内容としては、地域の「スポーツ大会等」へ参加したい、「地域の歴史や伝統」を知りたい児童生徒が多くなっています。

（2）市民ワークショップ

あらゆる世代の市民から、本市の生涯学習推進に係る現状や課題、今後の方向性に向けた意向を直接的に聴取することを目的に、市民ワークショップを実施しました。本ワークショップを通して、本市の生涯学習の現状と課題を把握します。

1）実施概要

本ワークショップでは、ウェルビーイングの実現を目指すため、全体テーマを「“学び”を通して人生を幸せに！“学び”の成果をいかして地域を豊かに！」と設定し、各回のテーマごとに、一人ひとりの「学びへの想い」を共有し、現状や課題、理想の学びの姿、学びの成果を地域や社会の課題にいかすことなどについて意見交換を行いました。

全体テーマ：“学び”を通して人生を幸せに！“学び”の成果をいかして地域を豊かに！

回・テーマ	日程	場所	参加者数
第１回 子ども・青少年(大学生)の学び	令和６年（2024 年） 11 月 30 日（土）	つくば市役所 203 会議室	申込：25 名 出席：21 名
第２回 大人（子育て世代・社会人）の学び	令和６年（2024 年） 12 月７日（土）	コリドイオ 大会議室	申込：33 名 出席：23 名
第３回 高齢者（リタイア後など）の学び	令和６年（2024 年） 12 月 21 日（土）	コリドイオ 大会議室	申込：29 名 出席：19 名

2）結果概要

第１回　子ども・青少年（大学生）の学び



10 歳代～70 歳代まで幅広い年代の市民に参加いただき、各年代や所属等の立場からみえる「子ども」の学びについて、多様な御意見をいただきました。

〇主な意見〇

【現状】大学や研究機関等・団体等が多く人材や学びの機会（講座・イベント）が豊富
【課題】人材が上手く活用されていない、機会はあるが参加が難しい（時間、アクセス、ハードル、定員）、地域とつながる機会が少ない、情報が手に入らない
⇒【解決のアイデア】ニーズに合ったプログラム、多様な情報発信（見える化）、地域の交流や体験の機会　※子どもという点では、学校教育との連携も重要
【学びの成果をいかすアイデア】子どもが企画・発表が行える環境づくり
【理想の姿】子どもも大人も共に学び合いながら、子どもたちが主体的に学ぶことができる姿（みんなで学ぶことが重要との意見）　★頻出キーワード【つながる、輝く、みんな、主体的】



第２回　大人（子育て世代・社会人）の学び

子育て関係者や働く世代の方に多く参加いただき、最も多くの参加人数となりました。「大人」の学びについて、活発な御意見をいただきました。

〇主な意見〇

【現状】大学や研究機関等・団体等が多く人材や学びの機会（子育て対象、オンライン）が豊富、地域に特色がある（自然、歴史文化財、科学のまち）、交流の場（地域交流センター等）がある
【課題】人材が上手く活用されていない、機会はあるが参加が難しい（時間、ハードル、子育て中）、生活の中で学びの優先度が低い、人と地域とのつながりが弱い、情報が手に入らない、地域差
⇒【解決のアイデア】人材活用や育成の仕組み、オンラインの活用やニーズに合ったプログラム、地域の人やロールモデルとの交流機会の創出、身近な学びの場、情報発信の強化（見える化）
【学びの成果をいかすアイデア】人と人とがつながる機会づくり（マッチングシステム、身近で学び合える場づくり、ロールモデルの活用）
【理想の姿】楽しく学び、多様な人と関わり合いつながりをつくり、成長していく（循環・広がる）
★頻出キーワード【つながる、みんな、多世代、成長、わくわく、楽しむ、幸せ、循環】

第３回　高齢者（リタイア後など）の学び

特にリタイア後の高齢世代の方に多く参加いただき、働く世代等の多世代の方と意見を交わしながら、生涯にわたり能動的に学び続ける「高齢者」の学びについて、御意見をいただきました。



〇主な意見〇

【現状】大学や研究機関等・団体等が多く人材や学びの機会（講座・イベント）が豊富、土地が広い
【課題】人材や場（地域交流センター等）が上手く活用されていない、人材についてリタイア前からセカンドライフを支援する仕組みがない、ニーズに合った講座や気軽に体験できる機会がない、高齢男性の外出問題、人とつながる機会が少ない、成果を伝える機会がない、情報が手に入らない
⇒【解決のアイデア】人材活用の仕組みづくり、交流機会などのつながり・たまり場づくり（医療機関等との連携）、公共施設の役割の見直し・活用、情報の一元化
【学びの成果をいかすアイデア】スキルを発表できる機会づくり・人と人とがつながる機会づくり（人材活用制度やマイスター制度、サークル活動発表会、ロールモデルの活用、地域交流センターの活用）
【理想の姿】高齢者が楽しみながら学び、生きがいややりがいを感じて、地域の中で活動する姿
★頻出キーワード【多世代、楽しむ、伝える、成長、元気、いきいき、学び合い】

全体を通した重要事項（各テーマ共通）

- **多様な人材を活用するための人材育成及び仕組みづくり**
- **学びを通じた交流（つながり）の機会の創出**
- **ニーズに沿っている・気軽に参加しやすいプログラムづくり**
- **情報へのアクセスの向上と魅力ある情報の多様な発信**
- **生涯学習関連施設の利便性向上と身近な場所で学べる場づくり**
- **学びの成果をいかす機会と環境づくり**

資料 1-4　第３次計画における取組状況

（1）成果指標の達成状況

第３次計画では、計画全般にわたる成果指標及び目標を設定し、各種事業に取り組んできました。目標の達成状況をみると、施策の柱「（１）多様な学びの実現」と「（２）誰一人取り残さない生涯学習」において、実績値が目標値を上回り、達成となっています。

成果指標項目	計画時の現況 （令和元年度） （2019 年度）	目標値 （令和６年度） （2024 年度）	実績値 （令和６年度） （2024 年度）	※達成状況
（１）多様な学びの実現				
生涯学習に取り組んでみたい人の割合 （R6 生涯学習に関する市民意識アンケート）	78.1%	80.0%	↑81.9%	達成
（２）誰一人取り残さない生涯学習				
実際に学習活動に取り組んだ人の割合 （R6 生涯学習に関する市民意識アンケート）	57.9%	60.0%	↑65.0%	達成
（３）地域で学び合う生涯学習				
地域交流センターの利用者数	506,301 人	520,000 人	↓417,191 人	未達 （減少）
（４）「社会力」を持った人材の育成				
自分の学習成果で社会に貢献したい人の割合 （R6 生涯学習に関する市民意識アンケート）	49.6%	60.0%	↓44.1%	未達 （微減）
（５）計画全体の評価				
市の施策のうち、生涯学習に満足／どちらかといえば満足な人の割合 （R6 つくば市民意識調査）	32.8%	40.0%	↓31.3%	未達 （微減）

（2）各年度評価からみる計画の取組状況

第３次計画では毎年度、各担当課による個別事業の評価（事務事業評価）と施策の方向性ごとの全体評価を行い、進行管理を図るとともに、その評価の妥当性を「生涯学習推進本部」及び「生涯学習審議会」において審議しています。

なお、令和４年度（2022 年度）から評価方法の基準が変更となったため、主に令和４年度（2022 年度）～令和６年度（2024 年度）の３か年の評価から計画の取組状況を確認します。

1）事務事業評価（各担当課評価）

令和４年度（2022 年度）からは事業の実施状況と、事業の個別指標の達成状況の２つの観点から評価を行い、その評価を組み合せて事務事業評価の総合評価を行っています。

各年度における総合評価は次表のとおりで、全体 34 事業の評価を実施しています。令和６年度(2024 年度）まで、多くの事業は総合評価Ａとなっており、Ｓの事業も増えていることから、全庁的に生涯学習の取組を着実に実施できていることがうかがえます。

	事業数（全 34 事業）						
	S	A	B	C	D	E	―
令和４年度（2022 年度）	7	15	10	1	1	0	0
令和５年度（2023 年度）	8	15	8	2	1	0	0
令和６年度（2024 年度）	8	16	6	4	0	0	0

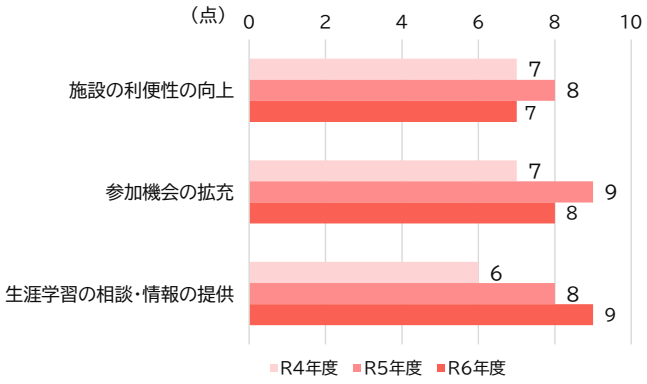
2）全体評価（施策の方向性ごとの評価）

全体評価は事務事業の総合評価を点数化し、施策の方向性ごとに平均をとって評価を行っています。（10 点満点）

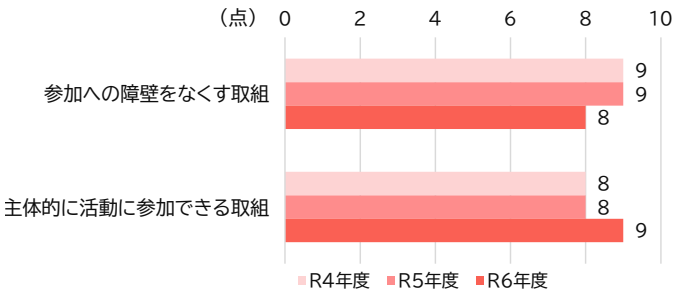
全体評価の推移をみると、概ねの施策の方向性で評価が安定しており、特に、施策の柱「（１）多様な学びの実現」の「生涯学習の相談・情報の提供」で毎年評価が向上しています。一方、「（４）「社会力」を持った人材の育成」の「実践できる人材の育成」では毎年評価が低下しています。

■全体評価の推移

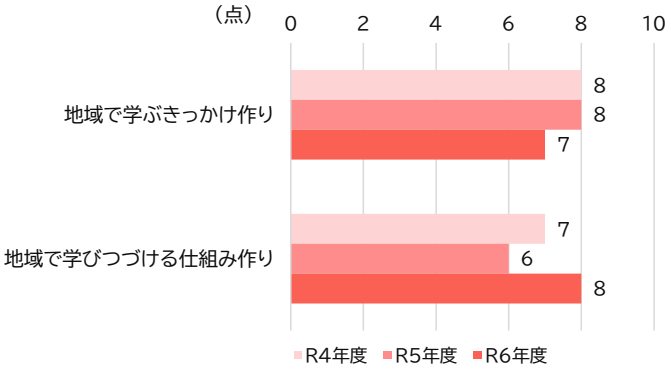
（１）多様な学びの実現



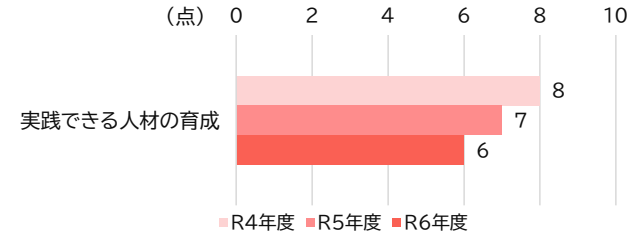
（２）誰一人取り残さない生涯学習



（３）地域で学び合う生涯学習



（４）「社会力」を持った人材の育成



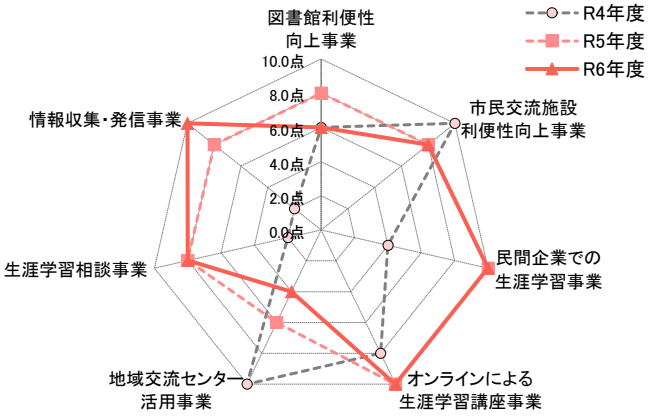
個別事業ごとの評価の推移をみると、特に「（１）多様な学びの実現」の「民間企業での生涯学習事業」、「生涯学習相談事業」、「情報収集・発信事業」と「（２）誰一人取り残さない生涯学習」の「障害者スポーツ推進事業」、「（３）地域で学び合う生涯学習」の「地域交流センター講座等事業」で評価が向上傾向にあります。

その一方で、特に「（１）多様な学びの実現」の「地域交流センター活用事業」と「（３）地域で学び合う生涯学習」の「スポーツ教室事業」、「（４）「社会力」を持った人材の育成」の「地区リーダー勉強会事業」で評価が低下傾向にあります。

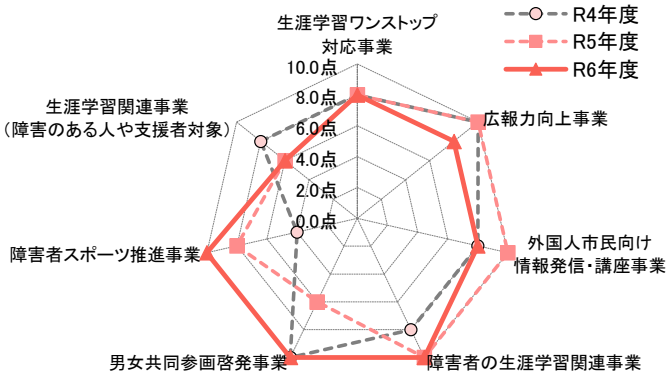
また、施策の柱ごとに位置づけられる事業数に偏りがみられます。

■個別事業ごとの評価の推移

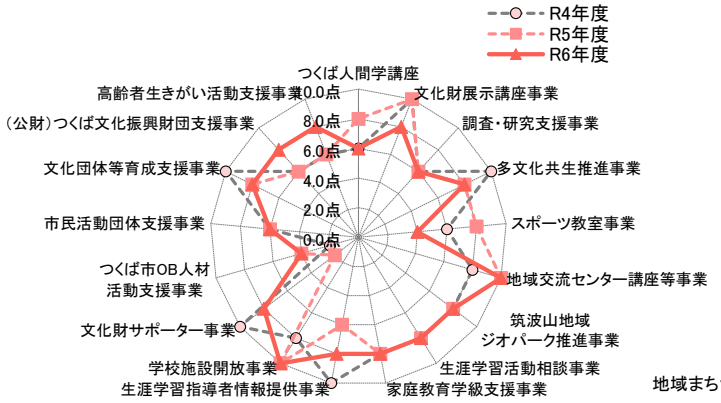
（１）多様な学びの実現



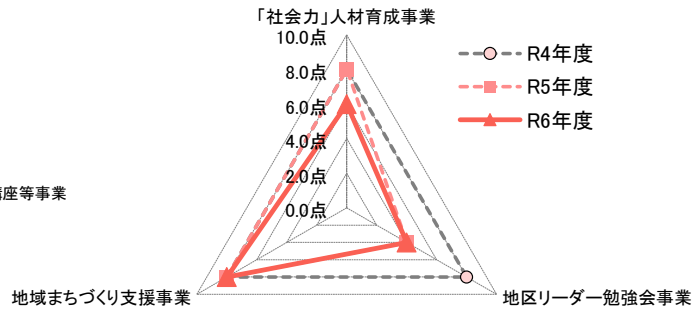
（２）誰一人取り残さない生涯学習



（３）地域で学び合う生涯学習



（４）「社会力」を持った人材の育成



3）第３次計画の取組状況のまとめ

全体評価でみると一定の成果が上げられており、特に自らの学びを推進する施策については評価が高くなっています。一方で、「（４）「社会力」を持った人材の育成」といった、学びの力をいかす施策について評価が低いものもあることや、「（３）「社会力」を持った人材の育成」では個別事業ごとの評価が極端なものもみられます。

２　策定経過及び策定組織に関する資料

資料 2-1　計画策定の経過

◆令和６年度

年月日	事項
令和６年（2024 年） ８月 21 日	**令和６年度第１回つくば市生涯学習審議会** ・（仮称）第４次つくば市生涯学習推進基本計画についての諮問 ・第４次計画策定の考え方について協議
９月 30 日	**令和６年度第２回つくば市生涯学習審議会** ・令和６年度第１回審議会の議論のまとめと計画の構成について ・市民アンケート、市民ワークショップの実施について協議
11 月８日～ 11 月 25 日	・つくば市生涯学習に関する市民意識アンケート （対象：市内在住の 16 歳以上の市民　3,000 人）
11 月 22 日～ 12 月 24 日	・児童生徒 WEB アンケート （対象：市内の小学校５年生・中学校２年生・義務教育学校５年生・８年生（特別支援含む）4,796 人）
11 月 30 日	**市民ワークショップ（第１回）** テーマ：子ども・青少年(大学生)の学び
12 月 7 日	**市民ワークショップ（第２回）** テーマ：大人（子育て世代・社会人）の学び
12 月 21 日	**市民ワークショップ（第３回）** テーマ：高齢者（リタイア後など）の学び
令和７年（2025 年） ３月 24 日	**令和６年度第３回つくば市生涯学習審議会** ・アンケート、ワークショップ結果の報告 ・計画骨子案について協議

◆令和７年度

年月日	事項
令和７年（2025 年） ６月 27 日	**令和７年度第１回つくば市生涯学習審議会** ・修正骨子案について協議
８月 26 日	**令和７年度第２回つくば市生涯学習審議会** ・基本理念、施策の展開、未来への取組、つくばの学びの未来像　について協議
9 月 10 日～ 9 月 18 日	**書面での御意見募集** ・第２回つくば市生涯学習審議会の協議結果を受けての修正内容について御意見募集
10 月 27 日	**令和７年度第３回つくば市生涯学習審議会** ・計画名称、計画書本文、成果指標について協議
12 月８日～ 令和８年（2026 年） 1 月７日	**パブリックコメントの実施**
２月 13 日	**令和７年度第４回つくば市生涯学習審議会** ・パブリックコメントの実施結果報告 ・第４次計画の答申案について協議・決定
２月 24 日	**答申書手交式**



資料 2-2　つくば市生涯学習審議会条例

平成 5 年 6 月 25 日
条例第 25 号

（設置）

第 1 条　市民が自己を高めるため、生涯にわたり社会のあらゆる領域で自発的、自主的に行う学習活動（以下「生涯学習」という。）の振興に関する施策を総合的に進めるため、つくば市生涯学習審議会（以下「審議会」という。）を設置する。

（所掌事務）

第 2 条　審議会は、市長の諮問に応じ、次に掲げる事項について調査審議し、答申する。

（1）　生涯学習を振興するための施策の総合的な推進に関する事項

（2）その他生涯学習の推進に必要な事項

（組織）

第 3 条　審議会は、委員 25 人以内で組織する。

2　　委員は、次に掲げる者のうちから市長が任命する。

（1）市議会議員

（2）各種団体等の代表者

（3）学識経験者

（4）市内に在住し、在勤し、又は在学する者

（平 9 条例 43・平 30 条例 29・一部改正）

（任期）

第 4 条　委員の任期は、2 年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2　　委員は、再任されることができる。

3　　前条第 2 項第 1 号又は第 2 号に規定する者で当該職又は地位により委員に任命されたものが当該職又は地位を離れたときは、委員の職を失うものとする。

（平 9 条例 43・一部改正）

（会長及び副会長）

第 5 条　審議会に会長及び副会長を置く。

2　　会長及び副会長は、委員の互選によって定める。

3　　会長は、会務を総理し、審議会を代表する。

4　　副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

（平 9 条例 43・一部改正）

（会議）

第 6 条　審議会の会議（以下「会議」という。）は、会長が招集する。

2　　会長は、会議の議長となる。

3　　会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

4　　会議の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

（部会）

第 7 条　審議会に、専門の事項を調査するため、必要に応じて部会を置くことができる。

2　　前項の部会の委員は、審議会の委員のうちから審議会が選任する。

（委任）

第 8 条　この条例に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、審議会が定める。

附　則

この条例は、公布の日から施行する。

附　則（平成 9 年条例第 43 号）

この条例は、公布の日から施行する。

附　則（平成 30 年条例第 29 号）

この条例は、公布の日から施行する。

資料 2-3　つくば市生涯学習審議会委員名簿

任期：令和６年（2024 年）８月１日～令和８年（2026 年）７月 31 日

任期中に役職の変更があった場合は（前職／現職）と表記している。

No.	氏名	委嘱区分	所属団体等	備考
1	小森谷（こもりや）　さやか	市議会議員	つくば市議会	副会長
2	石塚（いしつか）　一夫（かずお）	団体代表	つくば市シルバークラブ連合会会長	
3	石原（いしはら）　亜矢子（あやこ）	団体代表	つくば市学校長会（つくば市立要小学校校長）	
4	後藤（ごとう）　真紀（まき）	団体代表	つくば市福祉団体等連絡協議会会長	
5	鈴木（すずき）　朱里（あかり）	団体代表	特定非営利活動法人ままとーん代表理事	
6	田中（たなか）　秀夫（ひでお）	団体代表	つくば市文化協会会長	
7	中嶋（なかじま）　修（おさむ）	団体代表	青少年を育てるつくば市民の会会長／副会長	
8	長橋（ながはし）　進也（しんや）	団体代表	つくば市 PTA 連絡協議会顧問	
9	萩原（はぎわら）　武久（たけひさ）	団体代表	つくば市スポーツ協会会長	
10	山﨑（やまざき）　誠治（せいじ）	団体代表	つくば市ボランティア連絡協議会世話人代表 ／推進チーム　チーム長	
11	武田（たけだ）　直樹（なおき）	学識経験者	特定非営利活動法人 フュージョン社会力創造パートナーズ理事長	会長
12	溝上（みぞうえ）　智恵子（ちえこ）	学識経験者	国士舘大学特任教授	
13	石川（いしかわ）　由美子（ゆみこ）	市民委員	市民委員	
14	黒崎（くろさき）　博（ひろし）	市民委員	市民委員	
15	田中（たなか）　依子（よりこ）	市民委員	市民委員	
16	福井（ふくい）　正人（まさと）	市民委員	市民委員	

（敬称略）

第４次つくば市生涯学習推進基本計画

編集・発行　つくば市　教育局　生涯学習推進課

〒305-8555

茨城県つくば市研究学園一丁目 1 番地 1

TEL：029-883-1111（代表）

世界のあしたが見えるまち。
TSUKUBA



第４次 つくば市 生涯学習推進基本計画

【概要版】

令和８年(2026 年)３月

〔対象期間〕

令和 8 年度（2026 年度）から
令和 12 年度（2030 年度）まで

これからのやさしさのものさし つくばSDGs

計画策定の趣旨

計画策定の目的

■本市では、「つながる　広がる　つくばの生涯学習」を基本理念に掲げた「第３次つくば市生涯学習推進基本計画」（以下、「第３次計画」。）を令和３年（2021 年）３月に策定し、生涯学習に関する施策を推進してきました。

■この度、第３次計画が最終年度を迎えることから、これまでの取組を検証するとともに、市民ニーズや昨今の社会情勢の変化に対応した新たな「第４次つくば市生涯学習推進基本計画」（以下、「第４次計画」。）を策定することとしました。

計画の位置づけ

■本市の最上位計画である「つくば市未来構想」、「戦略プラン」、教育、学術及び文化の振興に関する根本的な方針である「つくば市教育大綱」（以下、「教育大綱」。）に基づき、生涯学習に関する施策を総合的に推進するための基本計画です。

■策定にあたり、国・県の生涯学習に関する計画や方針等を踏まえるとともに、本市の生涯学習に関連する各種計画等との整合を図ります。

計画期間

■計画期間は令和８年度（2026 年度）～令和 12 年度（2030 年度）までの５年間とします。

計画の基本的な考え方

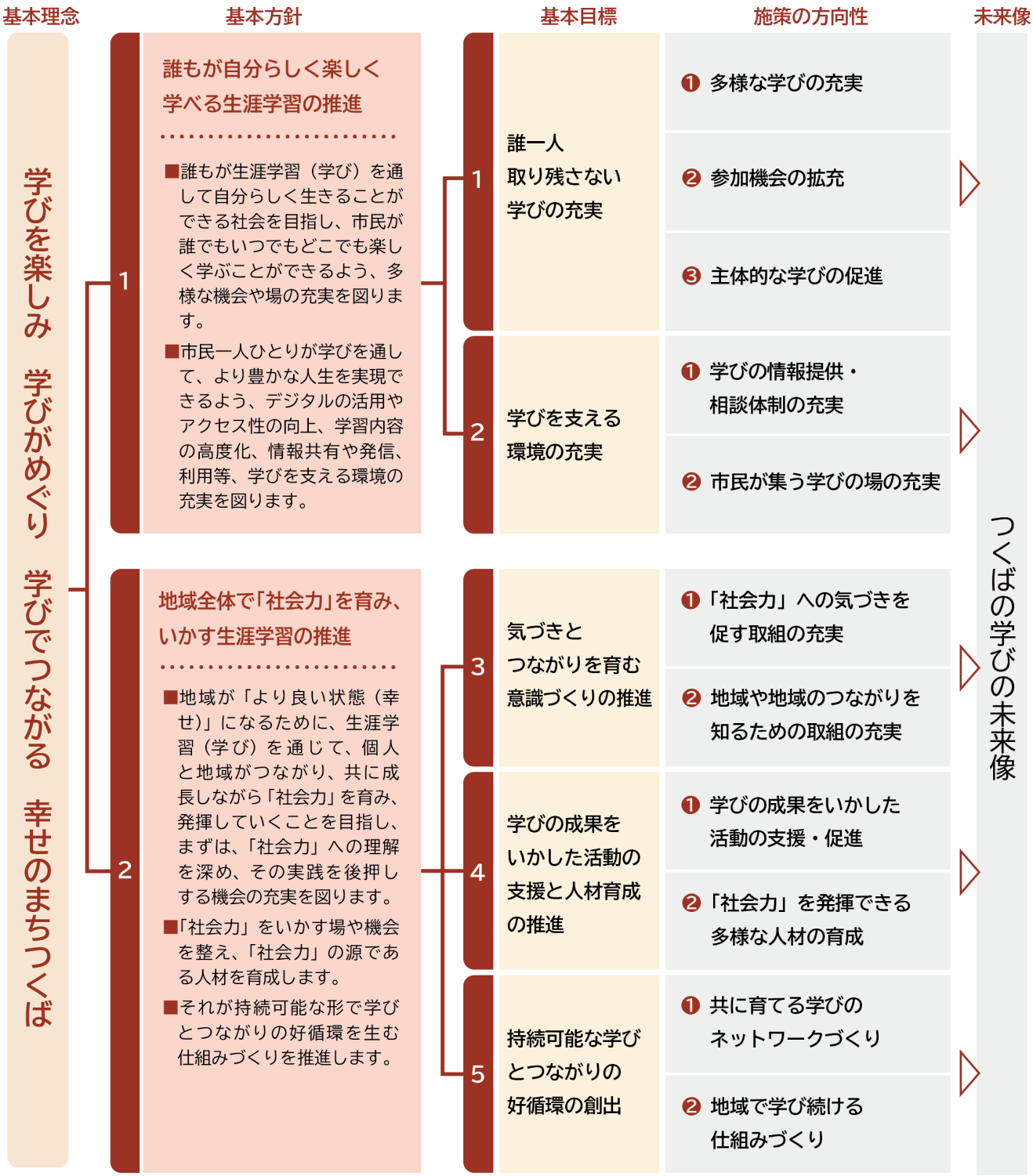
基本理念

■第４次計画では、本市の未来構想の理念「つながりを力に未来をつくる」と、教育大綱の最上位目標「一人ひとりが幸せな人生を送ること」を基盤に、市民一人ひとりの幸せと地域の好循環を生み出す持続可能なまちをめざし、多様な学びの機会の充実と「社会力」の育成・活用を進めることを目的として、基本理念を次のとおり設定します。

学びを楽しみ　学びがめぐり　学びでつながる
幸せのまちつくば

計画の基本的な考え方

計画の体系



施策の展開

■基本方針１と２に対応する５つの基本目標を定めます。さらに基本目標ごとに「施策の方向性」とこれに紐づく「主な取組」を位置づけています。

※主な取組について：（新）マークがついている取組は、第４次計画から新たに位置づけた取組となります。

基本方針１　誰もが自分らしく楽しく学べる生涯学習の推進

基本目標１　誰一人取り残さない学びの充実

誰もが学びに出会い、自分らしく学び続けられるよう、参加のしやすさの確保と多様な学びの提供を進めます。

施策の方向性	主な取組
❶多様な学びの充実	障害者や支援者を対象とした講座やイベント（障害者スポーツ講座、チャレンジアートフェスティバル、おひさまサンサン生き生きまつり）の開催、男女共同参画・ダイバーシティ推進セミナー事業、国際交流協会の支援、（新）生涯学習スタートアップ事業
❷参加機会の拡充	地域交流センター等の夜間・休日における学習機会の提供、オンラインによる講座開催、家庭教育学級の運営支援、（新）乳児家庭教育学級の開催、（新）幼児家庭教育学級の開催
❸主体的な学びの促進	地域交流センター等での学級・講座の充実、スポーツ教室の充実、読書推進事業、つくば市域における図書館の連携、（新）生涯学習スタートアップ事業

基本目標２　学びを支える環境の充実

一人ひとりに合った学びにアクセスでき、あらゆる世代の多様な人々が集い学べる環境を整えます。

施策の方向性	主な取組
❶学びの情報提供・相談体制の充実	市民活動相談業務、SNS を活用した活動団体の広報、外国人向けイベント情報の発信、生涯学習指導者情報の提供、市職員向けの広報セミナーの実施
❷市民が集う学びの場の充実	図書館利便性向上事業、市民交流施設利便性向上事業、学校施設開放事業、チャレンジアートフェスティバル、おひさまサンサン生き生きまつり、つくばちびっ子博士、（新）つくば科学フェスティバル、（新）若者のための居場所の検討と創出、（新）読書環境の充実と集いの場の創出



基本方針２　地域全体で「社会力」を育み、いかす生涯学習の推進

基本目標３　気づきとつながりを育む意識づくりの推進

「社会力」への気づきを促し、ファーストステップを踏みだす市民の意識醸成を図ります。

施策の方向性	主な取組
❶「社会力」への気づきを促す取組の充実	つくば人間学講座、「社会力」を持った人材の育成講座、（新）青少年体験学習事業
❷地域や地域のつながりを知るための取組の充実	出前講座事業、多文化共生推進事業、文化財展示講座事業、筑波山地域ジオパーク体験学習・講座、つくばちびっ子博士、（新）つくば科学出前レクチャー、（新）つくば科学フェスティバル、（新）青少年体験学習事業、（新）自然環境教育事業、（新）ゼロカーボン教育・啓発事業

基本目標４　学びの成果をいかした活動の支援と人材育成の推進

学びと実践をつなぐ仕組みを整え、活動する市民・団体の支援と人材育成に努めます。

施策の方向性	主な取組
❶学びの成果をいかした活動の支援・促進	高齢者生きがい活動支援事業、文化団体等育成支援事業、市民活動団体支援事業、（新）青少年健全育成活動の支援、（新）つくば市民文化祭の開催
❷「社会力」を発揮できる多様な人材の育成	生涯学習指導者情報提供事業、文化財サポーターの育成、地区リーダー勉強会の開催、市民活動支援事業、（新）青少年体験学習事業

基本目標５　持続可能な学びとつながりの好循環の創出

学びの拠点とネットワークを活用し、市民の学びとつながりが発展・循環する仕組みづくりを進めます。

施策の方向性	主な取組
❶共に育てる学びのネットワークづくり	地域まちづくり支援事業、市民活動支援事業、地域交流センター等講座・学級の充実、（新）つくば SDGs パートナーズ事業、（新）コミュニティ・スクールの運営支援、（新）大学生・地域ボランティアによる学習支援活動
❷地域で学び続ける仕組みづくり	障害者や支援者を対象とした講座やイベント（障害者スポーツ講座、チャレンジアートフェスティバル、おひさまサンサン生き生きまつり）の開催、つくばちびっ子博士、（新）つくば科学出前レクチャー、（新）つくば科学フェスティバル、（新）コミュニティ・スクールの運営支援、（新）周辺市街地活性化協議会の運営支援

つくばの学びの未来像　－５人の「未来の物語」－

■本計画では「基本理念」である「学びを楽しみ　学びがめぐり　学びでつながる幸せのまちつくば」を実現するために「基本方針」、「基本目標」を定め、「基本目標」を施策に落とし込んだ「施策の方向性」を位置づけています。「施策の方向性」には「主な取組」を位置づけており、これにより市民の生涯学習活動を支援していきます。

■本市の５年後の未来、「幸せのまちつくば」に向けて、「主な取組」が市民に届き、それが市民の活動へとつながっていく様子と、そのイメージを「５人の未来の物語」に乗せて示します。

■「青少年」、「働く世代」、「子育て世代」、「障害者」、「高齢者」といった、様々なライフコース、ライフステージにある５人が本市で学んでいる姿を物語として計画書に示しました。本概要版では、その物語の【導入版】を載せています。

５人の未来の物語【完全版】は計画書本編（37ｐ-41ｐ）へ→

青少年



高野さん(13 歳)

居住歴13 年。生まれも育ちもつくば市。現在は市内の中学校に通う中学 1 年生。両親もつくば市生まれつくば市育ち

小学4年生の夏休み前のある日、児童クラブのスタッフのお姉さんに誘われ、自由研究のヒントを求めて参加した科学教室。

そこには、思いがけない“身近な科学者”との出会いや、地域の人と一緒に作り上げた特別な体験が待っていました。遊びと学びが交差する、私の学びの物語です。





働く世代



横田さん(27 歳)

居住歴5年。大学卒業後、就職を機につくば市に。建築士として市内の企業に勤める。現在は一人暮らし

仕事で任されたホームページ更新。そのために受講した一つの講座が、地域との新たなつながりと、思わぬ世界を広げてくれました。

講座で得た知識は、仕事だけでなく地域活動や人との出会いにもつながり、気づけば図書館や公園へ足を運ぶ週末に――。きっかけは、あの日見かけた一枚のポスターでした。



子育て世代







小林さん(46 歳)

居住歴 36 年。大学時代・新社会人時代は関西に居住。結婚を機に地元に。夫婦2人＋子3人(幼児1、小学生2)の5人暮らし

子どもとの時間を大切にするため選んだ在宅ワーク。でも、次第に感じ始めたのは“人とのつながり”の希薄さでした。

そんなある日、保育参観後に見かけた一枚の講座案内。それが、地域との関わりを深め、自分自身の新たな役割を見つけるきっかけに。家族も含めて一歩先に踏み出した、その先にあった様々な人との出会いのストーリーです。



夫の転勤を機につくば市へ転居。新しい職場での戸惑いの中、同僚の声かけで学びの扉が開きました。

精神障害を抱える中で出会った生涯学習講座。オンライン参加から始まり、少しずつ広がっていった世界――。講座＝「学び」を重ねるごとに見えてきたものとは。



障害者



田中さん(52 歳)

居住歴5年。市内企業勤務。夫婦2人＋息子1人(高校3年生)の3人暮らし

高齢者



中村さん(70 歳)

居住歴 35 年。転勤を期につくば市に。現役時代は研究職員として市内企業に勤務。退職後は夫婦2人＋犬1匹暮らし

自身の 55 歳の誕生日の娘の一言と、会社の先輩が定年後にやりがいを見失っている姿を知ったことをきっかけに「セカンドライフを考える講座」を見つけました。

地域とのつながりも殆どなく、退職後の人生に不安を抱えていた私が、長年の経験を地域にいかして、自らが教える立場へ――。私の人生を豊かにしてくれた多くのこととは。

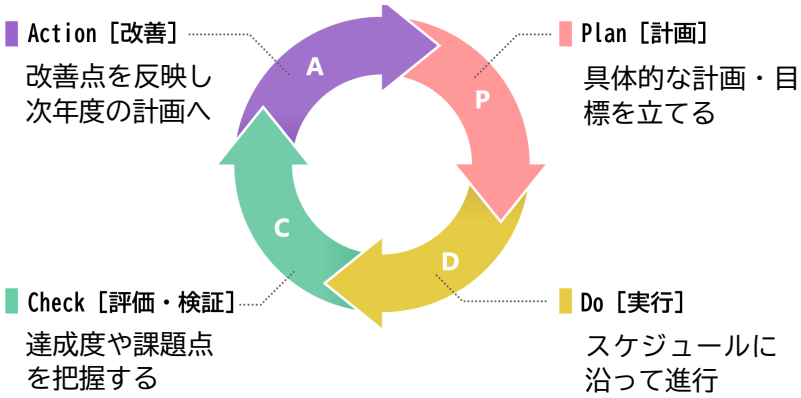


計画の推進

計画の進行管理と推進体制

(1)　計画の進行管理

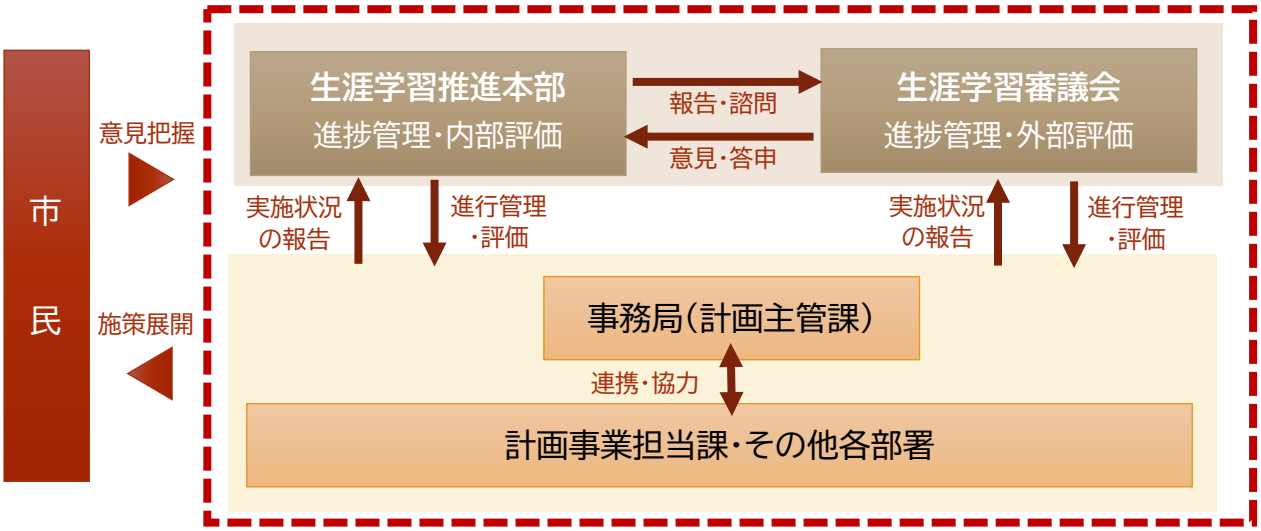
本計画では、第４次計画の基本理念を実現するために、基本目標ごとに位置づけている「施策の方向性」を毎年度評価・検証し、評価の結果をもとに、PDCA（Plan：計画、Do:実行、Check:評価・検証、Action：改善）サイクルによる進行管理を進めます。



(2)　計画の推進体制

本計画の推進体制は、各部長等で構成される「生涯学習推進本部」及び市議会議員、各種団体等の代表者、学識経験者、市民委員から構成される「生涯学習審議会」、そして両会議に実施状況の報告を行う事務局と関係各課で構成するものとします。

また、計画全般の進行管理や評価は、事務局及び関係各課からの実施状況の報告に基づき「生涯学習推進本部」において実施し、「生涯学習審議会」に報告・諮問します。「生涯学習審議会」は諮問を受けて審議を行い、今後の取組の改善にいかしていきます。



第４次つくば市生涯学習推進基本計画【概要版】

発行：つくば市教育局生涯学習推進課　　住所：〒305-8555　茨城県つくば市研究学園一丁目１番地１
電話：029-883-1111（代表）　　発行年月：令和８年（2026 年）３月

参考資料1

○つくば市生涯学習審議会条例

平成5年6月25日
条例第25号

（設置）
第1条　市民が自己を高めるため、生涯にわたり社会のあらゆる領域で自発的、自主的に行う学習活動（以下「生涯学習」という。）の振興に関する施策を総合的に進めるため、つくば市生涯学習審議会（以下「審議会」という。）を設置する。
（所掌事務）
第2条　審議会は、市長の諮問に応じ、次に掲げる事項について調査審議し、答申する。
(1)　生涯学習を振興するための施策の総合的な推進に関する事項
(2)　その他生涯学習の推進に必要な事項
（組織）
第3条　審議会は、委員25人以内で組織する。
2　委員は、次に掲げる者のうちから市長が任命する。
(1)　市議会議員
(2)　各種団体等の代表者
(3)　学識経験者
(4)　市内に在住し、在勤し、又は在学する者
（平9条例43・平30条例29・一部改正）
（任期）
第4条　委員の任期は、2年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
2　委員は、再任されることができる。
3　前条第2項第1号又は第2号に規定する者で当該職又は地位により委員に任命されたものが当該職又は地位を離れたときは、委員の職を失うものとする。
（平9条例43・一部改正）
（会長及び副会長）
第5条　審議会に会長及び副会長を置く。
2　会長及び副会長は、委員の互選によって定める。
3　会長は、会務を総理し、審議会を代表する。
4　副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。
（平9条例43・一部改正）
（会議）
第6条　審議会の会議（以下「会議」という。）は、会長が招集する。
2　会長は、会議の議長となる。
3　会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。
4　会議の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。
（部会）
第7条　審議会に、専門の事項を調査するため、必要に応じて部会を置くことができる。
2　前項の部会の委員は、審議会の委員のうちから審議会が選任する。
（委任）
第8条　この条例に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、審議会が定める。

附　則

この条例は、公布の日から施行する。

附　則（平成9年条例第43号）

この条例は、公布の日から施行する。

附　則（平成30年条例第29号）

この条例は、公布の日から施行する。

参考資料2

つくば市生涯学習審議会委員

任期：令和8年8月1日 ～ 令和10年7月31日

※令和8年(2026年)8月1日現在

No.	氏名	よみ	任命区分
1	石塚　一夫	いしつか かずお	各種団体の代表者 つくば市シルバークラブ連合会　会長
2	岩瀬　由美子	いわせ ゆみこ	各種団体の代表者 つくば市学校長会（みどりの南小学校 校長）
3	海老原　康弘	えびはら やすひろ	各種団体の代表者 株式会社カスミ
4	倉持　勝男	くらもち かつお	各種団体の代表者 青少年を育てるつくば市民の会　会長
5	小森谷 さやか	こもりや さやか	市議会議員
6	澤江　幸則	さわえ ゆきのり	各種団体の代表者 つくば市福祉団体等連絡協議会 (よか活動支援センターつくば センター長)
7	島田　由美子	しまだ ゆみこ	各種団体の代表者 つくば市ボランティア連絡協議会 副代表
8	鈴木　朱里	すずき あかり	各種団体の代表者 NPO法人ままとーん 代表理事
9	丹間　康仁	たんま やすひと	学識経験者 筑波大学 人間系 准教授
10	中川　元	なかがわ げん	市民委員
11	中川　浩之	なかがわ ひろゆき	市民委員
12	中野　真粧美	なかの まさみ	市民委員
13	樋口　直宏	ひぐち なおひろ	学識経験者 筑波大学 人間系 教授
14	油原　ゆう子	ゆはら ゆうこ	市民委員
15	鷲田　美加	わしだ みか	学識経験者 NPOフュージョン社会力創造パートナーズ 監事

敬称略、50音順

※つくば市生涯学習審議会条例第3条第2項
　委員は、次に掲げる者のうちから市長が任命する。
(1) 市議会議員
(2) 各種団体等の代表者
(3) 学識経験者
(4) 市内に在住し、在勤し、又は在学するもの

つくば市
教育大綱

一人ひとりが幸せな人生を送るために

令和７年(2025 年)３月

〔対象期間〕

令和 7 年度(2025年度)から

令和 11 年度(2029年度)まで



はじめに

つくば市はこどもたちに、一人ひとりの個性が受容され幸せな人生を送りながら、持続可能な社会の実現に向けて行動できる力を獲得してほしいと願っています。そして、こどもたちに、保護者、地域、学校、行政が寄り添いながら、こどもも大人も地域もともに育ち合っていきたいと思います。

そのような思いで、つくば市では、市の教育の根幹である「つくば市教育大綱」を令和２年（2020 年）３月に策定しました。この教育大綱は、「一人ひとりが幸せな人生を送ること」を最上位の目標としています。さらに、近代公教育が抱えてきた課題を踏まえ、①「教えから学びへ」、②「管理から自己決定へ」、③「認知能力偏重から非認知能力の再認識へ」の３つの転換を目指しています。その考え方をもとに、つくばの教育では知識の教え込みでなく自己・他者・社会を探求する「問いから始める学び」を進めています。

そして、教育大綱の理念を実現するため、「総合教育会議」において教育長及び教育委員と理念や学校現場の課題を繰り返し議論し、先生たちに伴走しながら授業や学校での実践を進めています。この理念は、学校現場をはじめ市全体へ浸透しつつあることから、今回の改定では本編を変更していません。引き続き、この教育大綱が変化し続ける社会で、教育の羅針盤となり、悩み迷った時にも立ち戻る拠り所になればと思います。

教育大綱をもとにした具体的な教育の中身は、教育委員会が策定する「つくば市教育振興基本計画」で定めています。つくば市は、今までも、これからも、こどもたちの笑顔を未来にわたって守っていくために全力を尽くすとともに、すべての人が生涯にわたり学び続けるまちでありたいと考えます。新しいつくばの教育を通して「誰一人取り残さないつくば」をともに創っていきましょう。

令和７年(2025 年)３月

つくば市長　五十嵐　立青





目　次

Ⅰ　つくばの教育が目指すもの・・・・・・・・・・・・・1

Ⅱ　つくばで目指す考え方の転換・・・・・・・・・・・・2

Ⅲ　つくばの教育の柱・・・・・・・・・・・・・・・・・3

Ⅳ　つくばでの「学び」の特徴・・・・・・・・・・・・・4

Ⅴ　つくばが目指す「学び」の場・・・・・・・・・・・・6

Ⅵ　つくばの「学び」実現に向け、いま必要なこと・・・7



Ⅰ　つくばの教育が目指すもの

つくばの教育は、
一人ひとりが幸せな人生を送ることを最上位の目標とする。

①　一人ひとりが幸せな人生を送るために、各人の違いが受容されそれぞれが持っている多様で豊かな個性が花開く環境をつくる。

②　地域全体がその環境において一人ひとりの「善き生の実現能力(1)」と、人と人がつながり、自主的に持続可能なより良い社会をつくるための「社会力(2)」を育てる。

(1) 善き生の実現能力とは、善き自己実現ができ、幸せな人生を送れる力のこと。

(2) 社会力とは、他者を積極的に理解し良い関係性をつくり、より良い社会をつくろうとする力のこと。

Ⅱ　つくばで目指す考え方の転換

近代公教育が抱えてきた課題を踏まえ、
考え方の転換を目指す。

①　「教え」から「学び」へ
　一斉・一方向教育から個別・双方向の学びへ

②　「管理」から「自己決定」へ
　受動から能動へ

③　「認知能力(3)偏重」から「非認知能力(4)　の再認識」へ
　知識偏重の教育から全人(ぜんじん)教育(5)へ

---

(3) 認知能力とは、「IQ（知能指数）」のように数値化できる能力のこと。

(4) 非認知能力とは、「やる気」、「最後までやり抜く気概(きがい)」、「リーダーシップ力」、「協調性」などのような数値で測れない能力のこと。

(5) 全人教育とは、人間がもつ諸資質を、全面的かつ調和的に育成しようとする教育のこと。








Ⅲ　つくばの教育の柱

「問いから始める学び」
知識の教え込みではなく、自己・他者・社会を探求する学びを目指す。

①　「自分自身は何者なのか」（自己を知る）

強み・弱み・得意・苦手・好きなこと・興味があること・成長したこと（他者と比較した評価ではない）、自分の将来ヴィジョン、持続可能な世界のために何ができるのか、などを問いながら、自分自身の人生を幸福に生きる自由、つまり自己決定権（人生のオーナーシップ）を手に入れる。

②　「周りは何者なのか」（他者を知る）

どんな人物なのか、得意なことは、苦手なことは、すばらしいところは、などを問いながら、多様な存在と関わり合い、他者の価値を認め、それぞれの強みを活かしながら協働する力を手に入れる。個性、性別、障害、国籍、宗教、文化などの全ての違いに目を向ける。

③　「社会をどうやってつくるのか」（社会を知り働きかける）

自分はどんなまちに生きているのか、つくばにはどんな歴史や魅力があるのか、地球環境からどんな恩恵（おんけい）を受け生きているのか、など自己・他者・自然との関係性によってつくり出される環境と社会に目を向け、より良い社会をつくっていくために必要な学びの機会を得る。









Ⅳ　つくばでの「学び」の特徴

持続可能な社会を目指すための教育への転換を、
着実に実行する。

①　一斉・一方向ではなく、個別・双方向の学び

一人ひとりの学びを大切にする。学校では、一斉・一方向授業ではなく、個別･双方向の学びや､学年の枠にとらわれない異年齢での取組を推進する。学習の進捗状況はもちろん、一人ひとりの個性や特徴、場面に応じて発生する障害や困難さ、母国語と異なる言葉での学習環境や経済状態などについても最大限に配慮(はいりょ)し、社会全体でその環境に合った学びを実現する。評価は周囲との比較による点数ではなく、本人の成長に基づいて行う。

②　科学技術[6]や合理的精神を尊重する学び

つくばには科学技術に基づく多くの知的財産と、それを担う人材が集まっている。経験論や精神論を超えた未来を切り開いていく力を手に入れるために、つくばの多様な資源を活かした科学技術や合理的精神に基づいた学びを進める。

③　批判的精神[7]を大切にする学び

物事を論理的に捉え、疑問を持ち、熟慮(じゅくりょ)し、より良い思考へつなげる批判

(6) 科学技術とは、“自然科学”と“人文社会科学”を含めた「総合知としての科学技術」のこと。

(7) 批判的精神とは、目の前の表層的な事象や前提条件にとらわれず、客観的・多面的に分析し本質を問い続ける態度のこと。

的思考を獲得する学びを進める。建設的なコンフリクト（衝突・葛藤）を積極的に起こし、対話をしながら合意点を見つけ行動することを学ぶ。こどもも大人も自由で平等な関係の中で批判的思考をし、問いを投げかける。

④　実体験を大切にする学び

多様な文化と質の高い芸術、自然、蓄積された高度な科学技術など、つくばの恵まれた環境を活かし実物や実体験を通して学ぶことにより、対話的・協働的な学びの基礎をつくる。さらに、学びの中での試行錯誤を促すことで、こどもの好奇心を刺激し、こどもが持っている興味を拡げ、掘り下げ、創造性と革新性の獲得を目指す。

⑤　遊びによる、非認知能力を高める学び

「遊び」の価値を再認識し、自然の中で、一人で、複数人で、異年齢グループで、など様々な形の遊びを経験することで、挑戦する、やり抜く、自分で考えて動く、責任を持つ、リードする、ルールを作る、ルールを変える、教える、一人ひとりがより楽しめるようにする、などの創造的学びを得られる機会をつくる。

⑥　持続可能な社会への視座を獲得する学び

短期的な経済合理性や産業社会発展のための知識獲得･能力開発ではなく、地球環境や人口・格差・貧困など人類共通の課題に触れ、持続可能な社会とより良い世界をつくるために必要な感性や視点、技術に関する学びを進める。

Ⅴ　つくばが目指す「学び」の場

つくばが目指す学びを実現するために、
学びの場についても転換を進める。

①　学びたくなる場所

学ぶことは楽しいことだと体感し、こどもが通いたくなる学校、学びたくなる社会をつくる。日常生活の中で感じたことや疑問、いつもの遊びなどが「学び」につながり、この学びの種が次の学びへの意欲を引き出すことで、学びの循環（じゅんかん）が生まれる。

②　こどもが自らつくる場所

大人はこどもの目線に立ち、こどもの発想を認め、大切にする。大人はこどもを管理するのではなく、主体的に問題に取り組むことを支援する。

③　挑戦が称賛される場所

挑戦することは、リスクを負うこと、自分の知っていることと知らないことを明らかにすること、失敗しても回復し前進することを学ぶきっかけとなる。大人も積極的に挑戦し間違う（大人の無謬(8)性（むびゅうせい）からの脱却（だっきゃく））ことから考え学ぶ。挑戦や成功を目指しての失敗は周囲から称賛（しょうさん）される。安心してリスクを取れる環境の中で挑戦と失敗を繰り返しながら、自ら変化を生み出す経験をすることで自己肯定感(9)（こうていかん）を高めていく。

---

(8) 無謬とは、理論や判断に間違いのないこと。

(9) 自己肯定感とは、そのままの自分を認め受け入れ、自分を尊重（そんちょう）し、自己価値を感じて自らの全存在を肯定する感覚のこと。







Ⅵ　つくばの「学び」実現に向け、いま必要なこと

保護者・学校・地域・行政が協力し、
社会全体でこどもの育ちの場を支える。

①　問い続け、学び続ける教師への支援

教師の役割は教え込みを中心とするティーチングから、問いを投げかけ主体性を引き出すコーチングへとシフトする。自分（教師）は学校を楽しんでいるか、こどもの学びを支援することを楽しんでいるか、こどもたちは学校や授業を楽しんでいるか、各人に合った学びができているか、こどもたちの成長のため一人ひとりが考える場をつくるにはどうすれば良いか、と絶えず問い続けることができる教師への成長を促し、そのための自主的学習を支援する。

②　教師がこどもと向き合う時間を増やすための、学ぶ環境の整備

多忙を極める教師の働き方改革を徹底的に進める。教師と学校の自由裁量(10)度を拡大することで、教師が直接こどもと向き合う時間を増やす。個別ニーズに合った学習やプロジェクト学習(11)を進める上で、ICT 環境（機器）を効果的に導入する。

---

(10) 自由裁量とは、判断の基礎となるさまざまな材料について、他からの指図や拘束を受けず、自由に選択し考量すること。

(11) プロジェクト学習とは、学習者がチームを組み、自分たちで課題を設定し解決していく学習法のこと。







③　保護者・地域・学校・行政がそれぞれの特性を活かし補完する関係性

保護者は家庭教育において、地域は人と社会の間での学びにおいて、学校は学校教育において、行政は公教育の整備において主体的な役割を担うが、その役割の範囲は明確に区切れるわけではない。それぞれが緩やかにつながりながらお互いの特性を活かし、補完し支え合う関係性を構築する。

④　保護者・地域・学校・行政の対話と協働の推進

各地の人材・環境・資源・歴史・文化などの特徴を活かした、多様な立場の人が関わることが求められる学びの場は、それぞれの悩みや課題を共有し解決するための話し合いと合意形成の場である。課題解決のためにそれぞれが参画[12]し協働することで、一人ひとりの社会力が高まり、互いの信頼が生まれ、人間関係が醸成（じょうせい）され、互恵的（ごけいてき）で包摂（ほうせつ）された地域が形成されることを目指す。

---

(12) 参画とは、物事に計画段階から主体的に加わること。

教育大綱策定までの歩み

本大綱の策定に当たり、多くの関係者、有識者からの御意見、事例紹介などをいただき、総合教育会議の中で議論を重ねました。

■総合教育会議：全 13 回
（会議構成員：市長、教育長、教育委員）
教育関係者講演会・意見交換：全 4 回



■関係者との意見交換
・校長会　　平成 30 年 12 月
　　平成 31 年 1 月
・ＰＴＡ代表者　　令和元年 5 月
・中高生とのタウンミーティング
　　令和元年 8 月
・パブリックコメント手続による
　意見募集　　令和元年 12 月～
　　令和 2 年 1 月





■海外の事例視察（オランダ）
・イエナプラン教育　平成 30 年 10 月

つくば市教育大綱策定メンバー

職名	氏名
市長	五十嵐　立青
教育長	～令和元年(2019 年)12 月 24 日 門脇　厚司
	令和元年(2019 年)12 月 25 日～ 森田　充
教育委員	鈴木　理子
教育委員	小野村　哲
教育委員	柳瀬　敬
教育委員	倉田　廣之

つくば市教育大綱は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第１条の３の規定に基づき、市長が本市の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策（しさく）の大綱として定めるものです。

つくば市教育大綱の実現に向けて
【令和２年度(2020 年度)～令和６年度(2024 年度)】

つくば市教育大綱の実現に向け、総合教育会議において、本大綱の理念を実現する方法や取組などを複数回に渡り議論しました。また、有識者から講演や事例紹介などをいただき、意見交換などを行いました。

■総合教育会議：全 24 回（うち教育関係者講演会・意見交換：全４回）

■会議構成員：市長、教育長、教育委員

職名	氏名
市長	五十嵐　立青
教育長	森田　充
教育委員	柳瀬　敬
教育委員	倉田　廣之
教育委員	和泉　なおこ
教育委員	坂口　まり
教育委員	～令和６年（2024 年）12 月 24 日 成島　美穂
教育委員	～令和２年（2020 年）12 月 24 日 鈴木　理子
教育委員	～令和２年（2020 年）12 月 24 日 小野村　哲



つくば市教育大綱・総合教育会議 会議録はこちら ▶

世界の
あしたが
見えるまち。
TSUKUBA

発行　つくば市
〒３０５－８５５５
茨城県つくば市研究学園一丁目１番地１
ＴＥＬ　０２９－８８３－１１１１
ＵＲＬ　http://www.city.tsukuba.lg.jp